上田市文化財調査報告書第１０４集

渋　取　田　遺　跡

平成 18(2006)年度～平成 20(2008)年度
長野県企業局上田水道管理事務所浄水池建設に伴う渋取田遺跡発掘調査報告書

２００９．２

長野県企業局上田水道管理事務所
上　　田　　市
上 田 市 教 育 委 員 会

序

渋取山遺跡が所在する大字諏訪形地区は、北を千曲の清流が流れ、南には緩やかな山並みの小牧山がある、自然の恩恵を受けた地域です。

地域内には、城下保育園や城下小学校、第四中学校もあり、また、別所温泉線城下駅や三好町郵便局などの社会資本も充実し、たいへんに住みやすい地域として発展してきました。

また、小牧山中には指定史跡である群集墳や、江戸時代末から明治初頭にかけて活躍した、名工竹内八十吉の手になる「荒神宮本殿」が上田市指定文化財第１号となっているなど、歴史ある地域です。しかし、この地域の歴史学的な解明は、まだ緒に就いたばかりで、特に集落址の発掘調査は今回が初めてとなりました。

今回、長野県企業局上田水道管理事務所の浄水池増設工事に伴い発掘調査された渋取山遺跡の発掘調査は、こうした意味でもたいへん重要な調査となりました。今回の調査にあたり、委託者である長野県企業局上田水道管理事務所の皆さまには、至る所で調査の便宜を図っていただきました。また、現場作業員の皆さんには、極寒・酷暑のなか、厳しい作業に献身的に従事していただきました。さらに、地元諏訪形自治会をはじめとする地域の皆さまには、この調査に対し、ひとかたならぬ御協力をいただきました。特に、現地説明会には多くの皆さまにお越しいただき、ふるさとの歴史や文化に改めて感動を寄せていただきました。

日本国憲法第 25 条第１項には、「すべて国民は、健康で文化的な最低限度の生活を営む権利を有する。」とあります。健康であり、文化的である生活は、最低限のこととして国や自治体が保障すべきこととなっています。そして、地方自治、住民自治の発展は、地域の文化と過去の歴史を再認識し、これからの展望の議論を重ねることにかかっています。今回の調査事業がその一助になれば、最大の喜びとするところです。

文化財の保存活用の課題は、山積していますが、今後とも住民の皆さまと力を合わせながら、末永くこの文化財を保護し、感動を伝えていきたいと存じます。

最後となりましたが、今回の発掘調査に御尽力いただいた関係各位に心から感謝申し上げ、序といたします。

平成２１年２月

上田市教育委員会教育長　森　　大　和

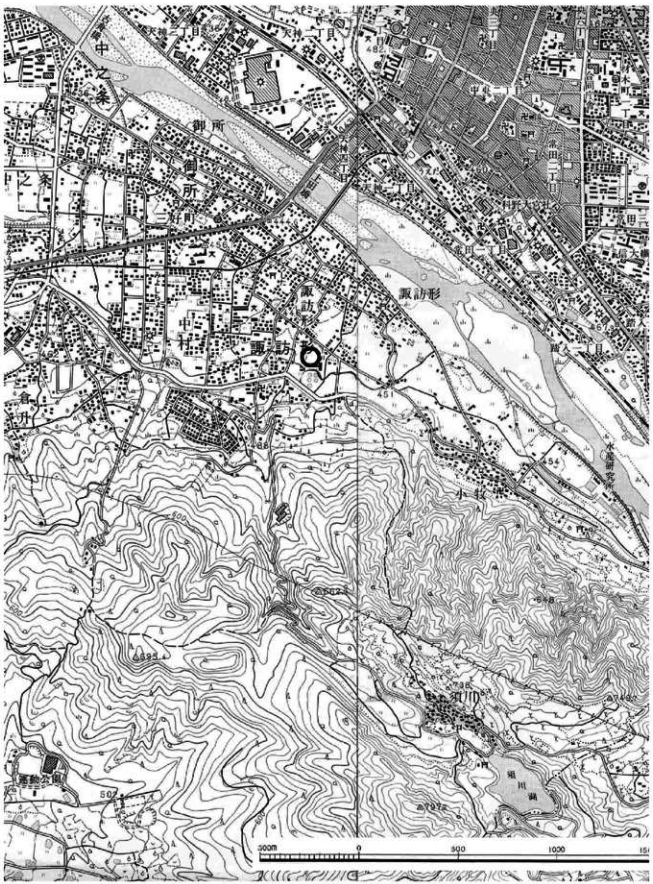


図１　渋取田遺跡発掘調査位置図

PL.1　渋取田遺跡航空写真（平成１８～１９年度分合成・写真上が北）

PL.2　平成１８年度　渋取田遺跡航空写真（真上から・写真上が北）

PL.3　平成１９年度　渋取山遺跡航空写真（真上から・写真上が北）

PL.4　平成１８年度　渋取田遺跡航空写真（南から）

PL.5　平成１８年度　渋取田遺跡航空写真（東から）

PL.6　平成１８年度　渋取山遺跡航空写真（西から）

PL.7　平成１８年度　渋取田遺跡 SD-01 金属器出土状況（西から）

PL.8　平成１９年度　渋取山遺跡航空写真（南から）

PL.9　平成１９年度　渋取田遺跡航空写真（西から）

PL.10　平成１９年度　渋取田遺跡航空写真（北から）

PL.11　平成１９年度　渋取田遺跡 SB-10 遺物出土状況（西から）

例　言

1　本書は、長野県上田市大字諏訪形に所在する渋取田遺跡の発掘調査報告書である。
2　調査は、長野県企業局上田水道管理事務所の委託事業により、上田市が実施した。調査及び調査に係る事務は、上田市教育委員会事務局文化振興課が行った。
3　現地調査は、平成18（2006）年10月3日から翌1月及び平成19（2007）年6月11日から10月25日にかけて実施し、整理・報告書作成作業は、平成21（2009）年2月までの間に断続的に実施した。
4　基準・水準点設置、メッシュ（グリッド）設置に係る各種測量、空中写真測量及び空中写真撮影は、株式会社写真測図研究所及びみすず綜合コンサルタント株式会社に委託して実施した。また、遺構面等の実測作業は、甕場奈那江・大井敬子・田村まり子・山本万里・丸田山紀子が行った。
5　整理・報告書作成作業は、甕場奈那江・大井敬子・田村まり子・山本万里・丸田由紀子が行った。
6　金属器や木製品等の保存処理は、財団法人山梨文化財研究所に委託して実施した。
7　本書に使用した写真は、主に中沢徳士が撮影し、航空写真は委託業者が撮影したものを使用した。また、石器・金属器の写真と、土器写真の一部は、小川忠博が撮影したものを使用した。
8　本書の編集は中沢が行った。
9　本調査に係る資料は上田市教育委員会の責任下に、上田市立信濃国分寺資料館に保管している。
10　本調査にあたり、多くの方々の御協力をいただいた。芳名を期して感謝する。（順不同・敬称略）
小池雅夫（元上田市文化財保護審議会会長）、櫻井松夫（上田市文化財保護審議会会長）、川上元（上田市文化財保護審議会委員）、諏訪形自治会、塩入秀敏（元上田女子短期大学教授）
11　作業員の皆さん
甕場奈那江、秋山八栄子、新井邦雄、内山仁志、大井敬子、木本昭正、児玉和良、竹内和好、田村雄二、保屋野友延、満木重雄、村田宣子、村松秋恵、丸田由紀子、山本万里、横沢生枝、横沢昇、和田和英

凡　例

遺構

1　遺構の略号は次のとおりで、続く番号は、本調査地内で任意に振ったものである。竪穴住居址…SB-、溝…SD-、土坑・井戸…SK-、集石…SX-、ピット…P-、竪穴住居址のピット…p
2　実測図については、国家座標の北を真の上とし、例外は方位を示した。
3　縮尺は、原則として原図1/10と1/20に1/3縮小をかけて1/30、1/60とした。
4　レベルの標記はすべて海抜高（単位：m）である。
5　網点は焼土を示す。
6　遺構観察表の長さの単位はmで、主軸方位は国家座標の北からの角度で示した。
7　上層の色調は、農林水産省農林水産技術会議事務局監修、財団法人日本色彩研究所色彩票監修の『新版標準土色帖』1990を用いて判別した。
8　遺構写真の縮尺は任意である。

遺物

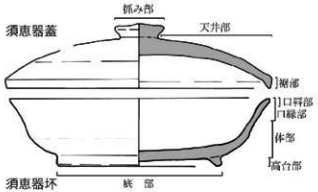
1　土器・石器・鉄器実測図は、原則として原図1/1に1/3縮小をかけて1/3とした。
2　遺物観察表の「胎」は胎土を、「焼」は焼成を、「色」は色調を示し、色調は、農林水産省農林水産

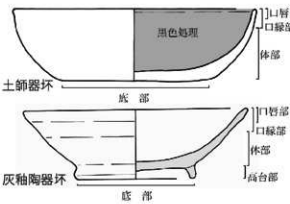
技術会議事務局監修、財団法人日本色彩研究所色彩票監修の『新版標準上色帖』1990を用いて判別した。法量の単位はすべてcmである。

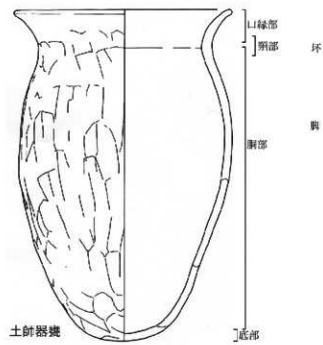
3　土器・石器・鉄器写真の縮尺は任意である。

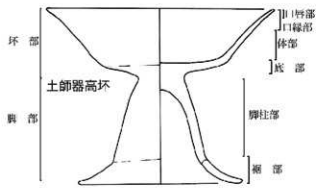
4　土器の名称や部位の標記は次のとおりである。

遺物表記凡例









調査の体制

調査は、上出市教育委員会事務局文化振興課が事務局となって実施した。その体制は次のとおりである。

教　育　長　森　大和

教育次長　中村明文（平成19年3月31日退任）、小曽清（平成19年4月1日着任）

文化振興課長　岡田洋一（平成18年9月30日退任）、伊藤正巳（平成18年10月1日着任・平成20年3月31日退任）、中部道男（平成20年4月1日着任）

文化財保護係長　上屋俊彦（平成18年9月30日退任）、小林栄子（平成18年10月1日着任）

文化財保護係　中沢徳士、尾見智志（平成19年3月31日退任）、小林伝（平成18年3月6日着任）、和根崎剛（平成19年4月1日着任）

本文目次

序
巻頭写真図版
例言
凡例
調査の体制
目次
第一章 調査の経過 …… 1
第1節 調査に至る経過 …… 1
第2節 調査の方法 …… 1
1 遺跡名と略記号 …… 1
2 調査区の設定 …… 1
3 グリッドの設定 …… 3
4 遺構測量 …… 3
5 遺構の掘り上げ …… 3
第3節 調査の経過・日誌（抄） …… 3
第二章 遺跡の環境 …… 7
第1節 自然的環境 …… 7
1 土用の気候 …… 7
2 上田の地形と地質 …… 7
3 浜取田遺跡周辺の地形と地質 …… 8
4 上田の植生 …… 9
第2節 歴史的環境 …… 9
1 先史～縄文時代 …… 9
2 弥生時代 …… 9
3 古墳時代 …… 10
4 律令期 …… 11
5 中世 …… 12
6 近世 …… 13
7 近代 …… 13
8 現代 …… 16
第3節 遺跡の基本層序 …… 16
第三章 調査の成果 …… 17
第1節 調査の概要 …… 17
第2節 遺構 …… 19
1 SB-01 …… 19
2 SB-02 …… 20
3 SB-03 …… 21
4 SB-04 …… 23
5 SB-05 …… 24
6 SB-06 …… 25
7 SB-07 …… 26
8 SB-08 …… 27
9 SB-09 …… 28
10 SB-10 …… 29
11 SB-11 …… 31
12 SB-12 …… 32
13 SB-13 …… 34
14 ST-01 …… 35
15 ST-02 …… 36
16 ST-03 …… 37
17 ST-04 …… 38
18 SK …… 39
19 SD …… 42
20 SX …… 42
21 Po …… 44
22 P …… 45
23 遺構観察表 …… 55
第3節 遺物 …… 63
(1)土器 …… 63
1 SB-01 …… 63
2 SB-02 …… 64
3 SB-03 …… 65
4 SB-04 …… 65
5 SB-05 …… 67
6 SB-06 …… 67
7 SB-07 …… 69
8 SB-08 …… 69
9 SB-09 …… 70
10 SB-10 …… 71
11 SB-11 …… 72
12 SB-12 …… 73
13 SB-13 …… 75
14 SK …… 75
15 SD …… 79
16 Po …… 79
17 P …… 82
18 遺構外[歴史時代] …… 82
19 遺構外[縄文時代] …… 84
(2)金属器 …… 87
(3)石器・土製品 …… 88
(4)遺物観察表 …… 89
写真図版
報告書抄録
奥付

表目次

1	洗取田遺跡周辺遺跡一覧表	……	15
2	住居址観察表(1)	……	55
3	住居址観察表(2)	……	56
4	掘立柱建物址観察表	……	57
5	土坑観察表	……	58
6	ピット観察表(1)	……	59
7	ピット観察表(2)	……	60
8	ピット観察表(3)	……	61
9	SX観察表	……	62
10	SD観察表	……	62
11	SB上器観察表(1)	……	89
12	SB上器観察表(2)	……	90
13	SB上器観察表(3)	……	91
14	SB上器観察表(4)	……	92
15	SB上器観察表(5)	……	93
16	SB上器観察表(6)	……	94
17	SB上器観察表(7)	……	95
18	SB上器観察表(8)	……	96
19	SB上器観察表(9)	……	97
20	SB上器観察表(10)	……	98
21	SB上器観察表(11)	……	99
22	SB上器観察表(12)	……	100
23	SB上器観察表(13)	……	101
24	SB上器観察表(14)	……	102
25	SB上器観察表(15)	……	103
26	SB上器観察表(16)	……	104
27	SK上器観察表(1)	……	105
28	SK上器観察表(2)	……	106
29	SK上器観察表(3)	……	107
30	SK上器観察表(4)	……	108
31	SK上器観察表(5)	……	109
32	SK上器観察表(6)	……	110
33	SK上器観察表(7)	……	111
34	SD土器観察表	……	111
35	Po土器観察表	……	111
36	P土器観察表	……	112
37	遺構外出土土器観察表[歴史時代](1)	……	113
38	遺構外出土土器観察表[歴史時代](2)	……	114
39	遺構外出土土器観察表[歴史時代](3)	……	115
40	遺構外出土土器観察表[歴史時代](4)	……	116
41	遺構外出土土器観察表[歴史時代](5)	……	117
42	遺構外出土土器観察表[縄文時代](1)	……	118
43	遺構外出土土器観察表[縄文時代](2)	……	119
44	遺構外出土土器観察表[縄文時代](3)	……	120
45	遺構外出土土器観察表[縄文時代](4)	……	121
46	金属器・石製品・土製品遺物観察表	……	122

図版目次

1	渋取田遺跡発掘調査位置図		
2	渋取田遺跡発掘調査位置図(1/5,000)	……	2
3	渋取山遺跡周辺字界図(1/14,000)	……	6
4	上山市の最高・最低気温、平均気温の年変化、太陽高度の年変化グラフ	……	7
5	上田盆地の地形区分(上)及び地形断面図(下)	……	8
6	渋取田遺跡と伊讃国分寺周辺地字図	……	10,11
7	渋取田遺跡周辺遺跡分布図	……	14
8	渋取田遺跡基本土層図	……	16
9	渋取山遺跡発掘調査遺構配り図	……	17
10	SB-01実測図	……	19
11	SB-01竈実測図	……	19
12	SB-02実測図	……	20
13	SB-03実測図	……	21
14	SB-03竈実測図	……	22
15	SB-04実測図	……	23
16	SB-05実測図	……	24
17	SB-06実測図	……	25
18	SB-07実測図	……	26
19	SB-08実測図	……	27
20	SB-08竈実測図	……	27
21	SB-09実測図	……	28
22	SB-09竈実測図	……	28
23	SB-10実測図	……	29
24	SB-10竈実測図	……	30
25	SB-11実測図	……	31
26	SB-11竈実測図	……	31
27	SB-12実測図	……	32
28	SB-12竈実測図	……	33
29	SB-13実測図	……	34
30	SB-13竈実測図	……	34
31	ST-01実測図	……	35
32	ST-02実測図	……	36
33	ST-03実測図	……	37
34	ST-04実測図	……	38
35	SK-01実測図	……	39
36	SK-02実測図	……	39
37	SK-03実測図	……	39
38	SK-04実測図	……	39
39	SK-05実測図	……	39
40	SK-06実測図	……	39
41	SK-07実測図	……	40
42	SK-08実測図	……	40
43	SK-09実測図	……	40
44	SK-11実測図	……	40
45	SK-14実測図	……	40

46	SK-12実測図	……	40
47	SK-13実測図	……	40
48	SK-15実測図	……	40
49	SK-10実測図	……	41
50	SD-01実測図	……	42
51	SX-01実測図	……	42
52	SX-02実測図	……	43
53	SX-03実測図	……	43
54	SX-04実測図	……	43
55	SX-05実測図	……	43
56	Po-01実測図	……	44
57	Po-02実測図	……	44
58	Po-03実測図	……	44
59	Po-01～03出土位置実測図	……	44
60	P実測図区割図	……	45
61	P実測図(1)	……	46
62	P実測図(2)	……	47
63	P実測図(3)	……	48
64	P実測図(4)	……	49
65	P実測図(5)	……	50
66	P実測図(6)	……	51
67	P実測図(7)	……	52
68	P実測図(8)	……	53
69	P実測図(9)	……	54
70	SB-01出土土器実測図(1)	……	63
71	SB-01出土土器実測図(2)	……	64
72	SB-02出土土器実測図	……	64
73	SB-03出土土器実測図	……	65
74	SB-04出土土器実測図(1)	……	65
75	SB-04出土土器実測図(2)	……	66
76	SB-04出土土器実測図(3)	……	67
77	SB-05出土土器実測図	……	67
78	SB-06出土土器実測図(1)	……	67
79	SB-06出土土器実測図(2)	……	68
80	SB-07出土土器実測図	……	69
81	SB-08出土土器実測図(1)	……	69
82	SB-08出土土器実測図(2)	……	70
83	SB-09出土土器実測図	……	70
84	SB-10出土土器実測図(1)	……	71
85	SB-10出土土器実測図(2)	……	72
86	SB-11出土土器実測図	……	72
87	SB-12出土土器実測図(1)	……	73
88	SB-12出土土器実測図(2)	……	74
89	SB-13出土土器実測図	……	75
90	SK-02出土土器実測図	……	75

91	SK-03出土土器実測図	·····	76
92	SK-04出土土器実測図	·····	76
93	SK-05出土土器実測図	·····	76
94	SK-06出土土器実測図	·····	76
95	SK-07出土土器実測図	·····	76
96	SK-08出土土器実測図	·····	76
97	SK-10出土土器実測図(1)	·····	76
98	SK-10出土土器実測図(2)	·····	77
99	SK-15出土土器実測図(1)	·····	77
100	SK-15出土土器実測図(2)	·····	78
101	SD-01出土土器実測図	·····	79
102	Po-01出土土器実測図	·····	79
103	Po-02出土土器実測図	·····	80
104	Po-04,05出土土器実測図	·····	81
105	P出土土器実測図	·····	82
106	遺構外出土土器実測図[歴史時代](1)	·····	82
107	遺構外出土土器実測図[歴史時代](2)	·····	83
108	遺構外出土土器実測図[歴史時代](3)	·····	84
109	遺構外出土土器実測図[縄文時代](1)	·····	84
110	遺構外出土土器実測図[縄文時代](2)	·····	85
111	遺構外出土土器実測図[縄文時代](3)	·····	86
112	遺構外出土土器実測図[縄文時代](4)	·····	87
113	出土金属器実測図(1)	·····	87
114	出土金属器実測図(2)	·····	88
115	出土石器実測図	·····	88
116	出土土製品実測図	·····	88

写真図版目次

物成分表

PL － 1　表在里郡郡村户等表（平成１８－１９年度分之２・等第１八计）

PL － 2　平成１８年度　农地固有缺陷等等别表（小１・等第１分地）

PL － 3　平成１９年度　农地固有缺陷等等别表（表上小１・等表上分地）

PL － 4　平成１８年度　农地固有缺陷等等别表（表上小５）

PL － 5　平成１８年度　农地固有缺陷等等别表（表上小６）

PL － 6　平成１８年度　农地证券缺陷等级等别表（小６）

PL － 7　平成１８年度　农地证券缺陷等级等别表（表上小１０）

PL － 8　平成１９年度　农地证券缺陷等级等别表（小６）

PL － 9　平成１９年度　农地固有缺陷等等别表（小６）

PL － 10　平成１９年度　农地固有缺陷等等别表（小６）

PL － 11　平成１９年度　农地固有缺陷等１０者特别表（小１等第小１）

本文内等表

PL － 12　农务号等职位出等表（表小６）　…… 1

PL － 13　２００８、１０、１０表上等子上表等职务等　…… 3

PL － 14　２００８、１０、２０表上等子上表等职务等　…… 3

PL － 15　２００８、１１、５表等职务等　…… 4

PL － 16　２００６、１２、１３表等职务・表５１付・表表　…… 4

PL － 17　２００６、１２、２３３代表等表　…… 4

PL － 18　２００７、６、１５表表等子　…… 4

PL － 19　２００７、６、１９等职务等内容表　…… 5

PL － 20　２００７、９、３等职务表上付内等　…… 5

PL － 21　２００７、９、２５等职务表上付　工等等表　…… 6

PL － 22　２００７、１０、１表等职务表上付・２表　…… 6

PL － 23　２００７、１０、２０表小员工等表　…… 6

PL － 24　下等等职务代等等表　…… 9

PL － 25　休日职务等　…… 10

PL － 26　特表等职务等表　…… 11

PL － 27　等等等职等代表表）　…… 12

PL － 28　农务上等职务等代表小员工等　…… 12

PL － 29　职务２０年任员人数职务　…… 13

写真图版

遗构

等第区域　1　SB 01表（一SB 01表等）・SB 01表柱穴状遗表）

等第区域　2　SB 02表（一SB 02等）・SB 02表表）

高床厅应　3　SB-04表（一SB-04表等）・SB-05表）

高床厅应　4　SB-05等表状表）表・SB-06等）・SB-06表状）

高床厅应　5　SB-07状（一SB-07表表）・SB-08等）

等第区域　6　SB-08等表）　SB-09表）・SB-09等表）

等第区域　7　SB-10状表）　SB-10等表状（表等表表状表）表）　SB-10等表等状表表表表表表上　等第上状表表）

等第区域　8　SB 11表表）・SB 11表（表等）・SB 12表等）

等第区域　9　SB 12表等等）・SB 13表表）・SB 13表表状

等第区域　10　SB 13表五小等表出状态（表表）・ST（表表）・ST（表表）

高床厅应　11　SD-01（等）・SK-02状）・SK-03（等）

高床厅应　12　SK-07表一台表）・SK-07（表）・SK-10（表）

高床厅应　13　SK-10（表）・SK-10等表等小一二状表）之状）・SK-10等表广SK三状表表表）

等第区域　14　SX-01　（表）・SX-01（表）　SX-05表）

等第区域　15　P6-04表表状态表）・P6-05等表等表状表表上　等第上状表）　P6-01（表）

等第区域　16　P6-02表出状态表）・P6-02表表表）・SB 10（二）上表表小等表

備存

茶畫題起	17	SB-01-03・SB-01-04・SB-01-06・SB-01-07・SB-01-08・SB-01-09・SB-01-10・SB-01-11
茶畫時起	18	SB 01 17・SB 01 18・SB 01 19・SB 01 20・SB 01 22・SB 01 23
茶畫題起	19	SB-02-02・SB-02-05・SB-02-06・SB-02-07・SB-02-08・SB-02-10・SB-02-12・SB-02-05
茶畫題起	20	SB-03-04・SB-03-06・SB-03-06・SB-03-07・SB-03-08・SB-03-11・SB-03-12・SB-04-01
茶畫題起	21	SB-04-03・SB-04-04・SB-04-06・SB-04-07・SB-04-08・SB-04-09・SB-04-10・SB-04-11
茶畫時起	22	SB 04 15・SB 04 17・SB 04 18・SB 04 22・SB 04 23・SB 04 24・SB 04 27・SB 04 29
茶畫題起	23	SB-04-03・SB-04-05・SB-04-06・SB-05-06・SB-06-01・SB-06-02・SB-06-03・SB-06-05
茶畫題起	24	SB-06-06・SB-06-07・SB-06-08・SB-06-09・SB-06-10・SB-06-11・SB-06-12・SB-06-16
茶畫時起	25	SB 06 17・SB 06 19・SB 06 20・SB 06 21・SB 06 22・SB 06 24・SB 06 28・SB 06 29
茶畫題起	26	SB-07-02・SB-07-03・SB-07-04・SB-07-05・SB-07-07・SB-07-13・SB-08-02・SB-08-03
茶畫題起	27	SB-08-04・SB-08-06・SB-08-07・SB-08-11・SB-08-12・SB-09-02
茶畫題起	28	SB-09-06・SB-10-01・SB-10-02・SB-10-03・SB-10-04・SB-10-06・SB-10-07・SB-10-11
茶畫時起	29	SB 10 10・SB 10 12・SB 10 13・SB 10 14・SB 10 15・SB 10 17
茶畫題起	30	SB-10-18・SB-10-16・SB-11-01・SB-11-03・SB-12-01・SB-13-02・SB-13-03
茶畫題起	31	SB-12-04・SB-12-05・SB-12-09・SB-12-11・SB-12-12・SB-12-14
茶畫時起	32	SB 13 01・SB 13 02・SB 13 03・SB 13 05・SB 13 07・SK 02 01・SK 02 02
茶畫時起	33	SK 02 03・SK 02 09開書局・SK 02 05・SK 02 06・SK 02 09・SK 02 10・SK 02 11・SK 03 03
茶畫題起	34	SK-05-01・SK-06-01・SK-06-03・SK-07-02・SK-07-06・SK-07-03・SK-08-01・SK-10-01
茶畫題起	35	SK-10-02・SK-10-03・SK-10-04・SK-10-05・SK-10-06・SK-10-07・SK-10-09・SK-10-10
茶畫時起	36	SK 10 11・SK 10 15・SK 10 20・SK 10 22・SK 15 01・SK 15 03・SK 15 08・SK 15 09
茶畫題起	37	SK-15-11・SK-15-13・SK-15-14・SK-15-15・SK-15-16・SK-15-17・SK-15-18・SK-15-19
茶畫題起	38	Fe-01・Fe-02・Fe-04・Fe-05
茶畫題起	39	畫情為開充身代16・畫時外開充身代19・畫時外開充神弓20・畫情為開充神弓25・畫情為開充身代27・畫時外開充神代28・畫時外開充神弓32・畫時為開充神弓33
茶畫時起	40	畫畫所起使身代 03・畫畫外起使神代 04・畫畫外鐵文上開 01・畫畫外鐵文二開 20・畫畫為鐵文上開 27・畫畫不鐵文上開 30・畫畫外鐵文上開 43
茶畫題起	41	畫畫所鐵文土開-01・畫畫外鐵文土開-02・畫畫外鐵文土開-05・金式管-06(SB-06)・金制器-10(SB-03)・金制器-11(畫畫時)・金制管-13(SB-01)
茶畫題起	42	工事-1(SB-03)・刀事-2(Te-02)・刀事-3(Te-02)・刀事-4(Te-11)・刀事-5(黃色刊)・十型器-1

第一章　調査の経過

第１節　調査に至る経過

平成 17 年７月 21 日、公共事業に係る埋蔵文化財の保護協議において、長野県企業局上田水道管理事務所（以下「県水事務所」という。）から、浄水池建設に伴う遺跡保護協議があった。計画は、当時テニスコートや緑地となっていた浄水場敷地内にあらたに浄水池を建設する、というものである。

遺跡分布図によれば、予定地には渋取出遺跡が所在しており、上田市教育委員会事務局文化振興課文化財保護係（以下「事務局」という。）では、平成 17 年度国庫補助事業「市内遺跡発掘調査」により平成 17 年 11 月７～８日に施工部分の試掘調査を実施した。

調査の結果、縄文土器・土師・須恵器片とともに住居址のプランが検出され、遺跡の存在が確定された。この結果、施工前の発掘調査による遺跡の記録保存が必要となった。

平成 18 年５月 24 日、現地協議を行った際、浄水池建設計画のほぼ全容が提示され、その結果、当初は 2,000 平米の現地調査で計画していたものが、倍の 4,000 平方メートルの調査が必要であることとなった。

事務局では改めて調査費用と調査期間の見積を行い、県水事務所と再協議を行った。その結果、平成 18 年度は施工区域の西半部を、19 年度に東半部をそれぞれ現地調査し、20 年度に報告書を刊行することとなった。

平成 18 年度については、埋蔵文化財発掘調査の委託契約を平成 18 年８月 31 日付で締結し、平成 18 年 10 月３日、現地調査に着手した。

第２節　調査の方法

１．遺跡名と略記号

周知の埋蔵文化財包蔵地である渋取出遺跡は、昭和 39 年（1964）県水事務所及び浄水場が建設された折りに、縄文土器や土師・須恵器などを出土したことにより確認されたというが、昭和 49 年３月に刊行された『上田市の原始・古代文化』（上田市教育委員会）にその記述はない。遺跡は、大字諏訪形の字渋取出から字中堰にかけて所在している。遺跡略号は「Shibu-Tori-Da」の頭文字 STD を遺跡の略号として付し、各種の記録や遺物の注記等に用いた。

PL.12　渋取出遺跡航空写真（北から）

２．調査区の設定

調査区域は、浄水池増設部分と

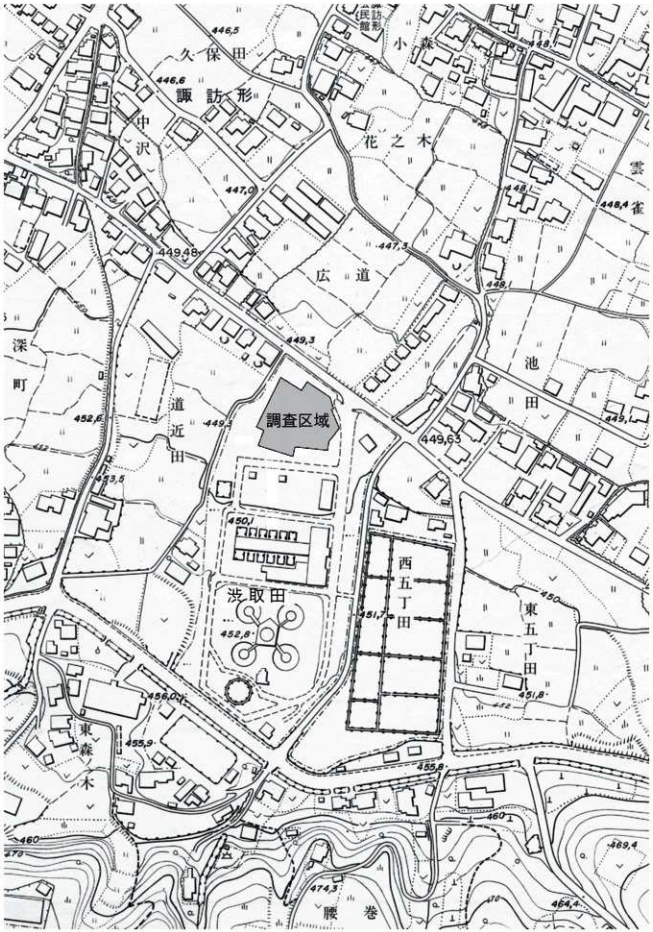


図2　渋取田遺跡発掘調査位置図 (1/5,000)

した。

3．グリッドの設定

調査においては、国家座標に則ったメッシュを切り、1単位の大きさが3×3mのグリッドを設定した。メッシュ交点には記号を与え、座標値X=43,110、Y=-22,881をA00として、西方向にA、B、C、D…、南方向に01、02、03、04…という順に進むものである。例えば、基準点から西に15m、南に21mの地点はF07と表される。各種の現地平面測量には、このメッシュ番りが用いられている。また、グリッド番号は、北東の交点のメッシュ番号を用い、遺物の取り上げ等に用いた。

4．遺構測量

遺構の平面測量は、前述のメッシュを基準に1／20縮尺で行った。また、現地調査終了時には、ラジコンヘリコプターによる空中写真測量も行っている。断面図や土層図は手取りによるものであり、エレベーション図作成には、空中写真測量の成果も用いている。

5．遺構の掘り上げ

現地調査における表土の除去は、主に重機によって行い、その後遺構検出作業、遺構掘り上げ作業はすべて人力で行った。

第3節　調査の経過・日誌(抄)

平成18年度

10/3　現地調査着手。調査区南西隅から北東に向かって重機で表土を剥ぐ。

10/5　重機で表土を剥ぐ。現場作業員が入り、発掘調査機材を搬入する。調査前に伐採してあったヒマラヤスギを移動する。

10/10　表土剥ぎを続ける一方、作業員による遺構検出作業を行う。

10/16　表土剥ぎを続ける一方、作業員による遺構検出作業を行う。調査区北西隅と北東隅に集石が検出される。

10/20　作業員による遺構検出作業を行う。測量業者によるメッシュ張りが行われる。

10/30　作業員による遺構検出作業を行うとともに、重機による表土剥ぎと排土の整理を行う。

11/6　遺構検出作業。黒褐色の沖積層に掘りこまれた竪穴住居址や遺構のため、プランがまったく見えない。しかし、随所に竈跡が検出されており、これ以上表土を剥ぐことができないため、竈跡を中心にトレンチを入れて検出をはかる。

11/9　午前中は、遺構検出のためのトレンチをさらに入れる。午後、上田女子短期大学の研修生を6名受け入れる。

PL.13　2006,10,10表土剥ぎと遺構検出作業

PL.14　2006,10,30表土剥ぎと遺構検出作業

11/16　遺構検出作業及びトレンチのセクション実測を行う。

11/21　遺構検出作業を継続する　一方、遺構のプランを想定できた箇所から掘り上げにはいる。

11/29　遺構検出・掘り上げ・実測を行う。

12/ 5　引き続き遺構検出・掘り上げ・実測を行う。調査区東壁際の須恵器埋甕を掘り出すが、掘り方は確認できない。

12/14　遺構掘り上げ。凍上が厳しく、一日中調査区域がぬかるみ、効率がよくない。

12/19　遺構検出面の清掃を行い、空撮・空測作業を行う。

12/20　現場撤収。

12/23　現地説明会開催。約50名の参加。

以降、重機による現場埋め戻しを年明けまで行い、18年度の現地調査は終了する。一方、埋蔵文化財整理室において、遺構図等の実測図面や遺物の整理作業を行い、平成19年2月28日に18年度の調査事業を終了した。

平成19年度

4 /24　19年度の調査事業について協議。

5 /14　19年度調査事業の委託契約を締結。

6 /11　表土剥ぎ開始。昨年調査の東側を継続して行う。

6 /13　昨年調査範囲の掘り残し分の範囲の表土剥ぎを行う。　一度埋め立てた土のため、腐敗臭がする。

6 /19　本日から作業員を投入し、遺構検出を行う。表土剥ぎは休止。

6 /20　昨年調査し、埋め戻した箇所の掘り上げと、重機による表土剥ぎを行う。昨年の課題となっていた集石は東側にほとんど拡がらないことが判明した。

6 /25　表土剥ぎは終了し、遺構検出作業を行う。調査区の西半部は相変わらず沖積層からの遺構の検出となり、検出が困難。昨年出土した須恵器大甕の東側に並んで同様の須恵器甕が埋設されている。

6 /28　調査区東側の遺構検出と埋設されている水

PL.15　2006,11,15 遺構検出作業

PL.16　2006,12,13 遺構検出・掘り上げ・実測

PL.17　2006,12,23 現地説明会

PL.18　2007,6,15 表土剥ぎ

道塩ビ管の除去を行う。

7/4　調査区北東部拡張のため重機による表土剥ぎを行い、この箇所と南東部の遺構検出を行う。

7/18　調査区西側の遺構検出。昨年調査し埋め戻した上の除去を行い、未掘のピットの再検出を行う。

7/19　調査区西側の調査区拡張。昨年度調査では不明であった住居址プランの一部が確認されたため、重機により調査区を拡張し、遺構検出をおこなう。

8/3　遺構掘り上げ。調査区中央のSK-10は、井戸跡の様相を呈してくる。

8/4～8/16　猛暑により現場作業休止。

8/17　現場作業再開。

8/23　遺構掘り上げ。SK-10北側に竈跡らしき焼土が検出されていたため、サブトレンチを入れてプランの確認を行う。

8/27～9/4　調査担当者が腰痛により療養休暇となったため現場作業休止。

9/5　調査担当者復帰により現場作業再開。

9/10　遺構掘り上げを進めるとともに実測を進める。

9/19　SK-10の井戸はいよいよ深くなり、人間一人がすっぽりと隠れてしまう。

10/3　遺構掘り上げを進めるとともに実測を進める。

10/9　空中写真撮影・測量を行う。

10/10　井戸跡と、調査区東端に検出された住居址の掘り上げを進める一方、調査のすんだ西側から重機による埋め戻しを開始する。

10/11　井戸跡は4m近い深さとなり、掘り上げた土を上げることがいよいよ困難となったため、重機のアームをおろして掘った土の排出を行う。

10/12　井戸跡の掘り上げはほぼ底まで行い、実測を行った後に掘り方を確認するため重機で大きく半截する。

10/25　調査区埋め戻し完了し、すべての現場作業を終了する。

以降、埋蔵文化財整理室において、遺構図等の

PL.19　2007,6,19 遺構検出作業

PL.20　2007,8,3 遺構掘上げ作業

PL.21　2007,9,25 遺構掘上げ・実測作業

PL.22　2007,10,12 遺構掘上げ・実測

実測図面や遺物の整理作業を行い、平成 20 年 2 月 28 日に 19 年度の調査事業を終了した。

平成２０年度

4 / 3　20 年度の調査事業について協議。

5 / 1　20 年度調査事業の委託契約を締結。

以降、埋蔵文化財整理室において、遺構図等の実測図面や遺物の整理作業、報告書作成作業を行い、平成 21 年 2 月 28 日にすべての調査事業を終了した。

PL.23　2007,10,22 埋め戻し作業

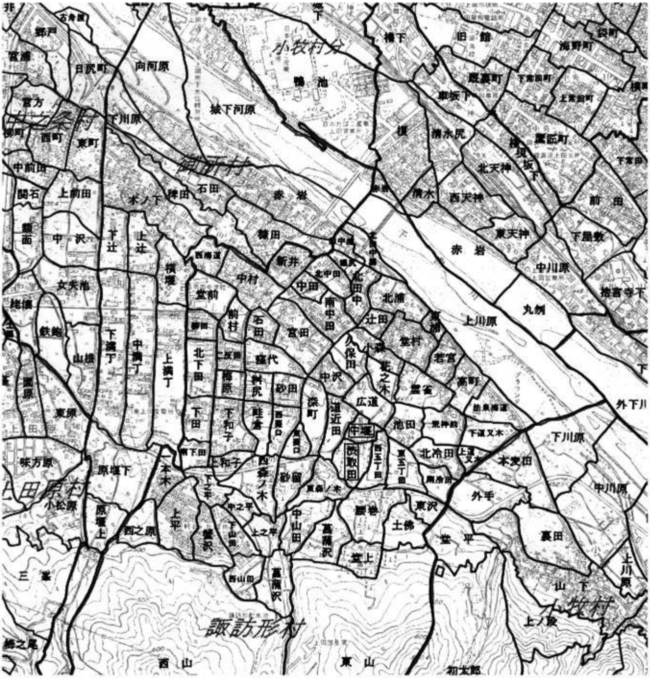


図 3　渋取田遺跡周辺字界図 (1/14,000)

第二章　遺跡の環境

第１節　自然的環境

１　上田の気候

長野県は本州中央部に位置し、周囲を山に囲まれている。このため上田の気候には内陸性の特徴がみられる。夏には山中の気温は東京よりも高温になることが多いが、乾燥しており、夕方から明け方までは気温が下がるためしのぎやすい。冬期間には長野県内でも県北部に比べて上田・佐久は降水量が少なく、太平洋側気象区の特徴を示している。

上田市の年間平均気温は 12.1℃で、県下では飯田地方に次いで暖かい。気温の年較差は 25.8℃で札幌の数値に近く、寒暖の差が大きい。市内でも場所による気温の差が大きいが、市街地が最低、最高気温ともに最も高い。年平均湿度は 66％で、東京などと並んで全国でも最も低い類に入る。

上田では平均年間降水量が 878.7mm と 1,000mm に達せず、全国的に見ても雨の少ない土地である。これは海からの湿った空気が周囲の高山に遮られて雨や雪を降らせ、上田上空に達するまでに乾燥した空気となってしまうためである。降雨は年間を通じて少ないのが特徴である。市内では山に近い地域ほど雨が多いが、平地では塩田平に比べて千曲川右岸の降水量が少ない傾向がある。

冬季は西南西と東の風が多く、夏には南東の風が卓越風である。年間を通じて北および南からの風が大変に少なく、東や西の風が多い特徴がある。これは地形の影響によるもので、南と北に山が連なり、千曲川に沿った東西方向に風が吹き抜けるためである。

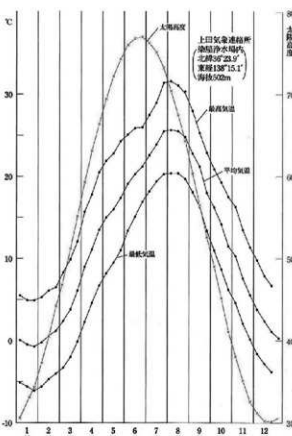


図４　上田市の最高・最低気温、平均気温の年変化、太陽高度の年変化グラフ

日照時間が長いのも上田の特徴で、年間 2000 時間以上というのは長野県下のみならず、全国的にも高い数値である。快晴日数の平均は年 80 日前後に達する。

２　上田の地形と地質

上田は盆地状の地形で、周囲を独鈷山・大林山・太郎山といった標高 1200 ～ 1300 m級の山々に囲まれている。千曲川は市内で標高 465 mから 417 mまで流れ下り、この右岸に中心市街地が広がっている。また、左岸側では、海抜 450 ～ 500 mほどの塩田平が水田地帯を形成している。塩田平には寡雨に備えた灌漑用の溜池が多く見られる。

上田市を東西に流れる千曲川は奥秩父の甲武信ヶ岳付近を水源とし、長野県上の北半を貫いて新潟県に入ると信濃川と名を変え、日本海に注ぐ全長 367km の日本一の大河である。上田市内でこれに注ぐ主な支流としては、右岸から神川・矢出沢川などがあり、左岸からは塩田平を流れる産川水系が浦野川

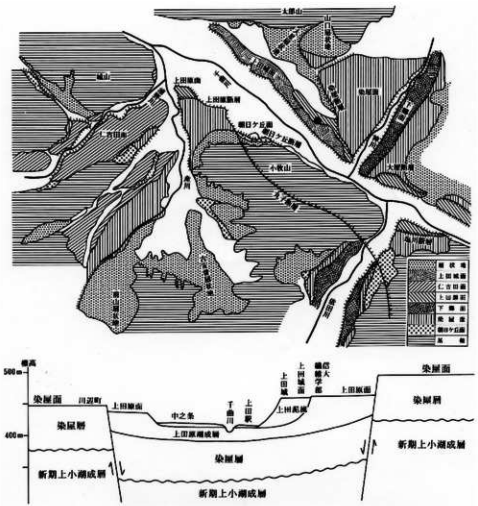


図５　上田盆地の地形区分（上）及び地形断面図（下）

に合流している。千曲川の市内中心部での川原は幅 400 ～ 600 m にわたって広がる。

上田地域の地層は海成層の上に湖成層があって、さらに約１万年前頃からは湿地性や扇状地の堆積物が形成した地層がある。これに火山に由来する貫入層や堆積物が加わり、市内でも地域によって多様な地質が分布している。古い時代の地層は山地に見られ、太郎山などに産する緑色凝灰岩は古くから礎石などの建材として利用されてきた。上田でとりわけ特徴的なのは千曲川流域に発達している階段状の地形で、これには河岸段丘の段丘崖と断層で形成された断層崖とがある。また、扇状地地形は山を下った急流が緩斜面に出る山際に形成され、大小さまざまに見られる。

盆地内の地層や地形は、主に第四期（170 万年前まで）に形成された。厚く堆積した湖成層のほかに、川や谷の底を埋めて堆積した染屋層が広く分布しているが、このうち千曲川に沿った地域が断層によって落ち込み、段丘状の崖地形が形成されている。

３　渋取田遺跡周辺の地形と地質

渋取田遺跡は上田市東部の千曲川左岸に位置しており、北側を西行する千曲川と南側に立つ小牧山塊に挟まれた地域で、千曲川が形成した氾濫原と小牧山からの扇状地がぶつかる、氾濫原の微段丘面に広がっている。

小牧山塊は千曲川と依田川・尾根川に囲まれた標高 600 ～ 700m ほどの山地で、最高峰は 797.2m で、他に小牧山（771.1m）・須川山・倉升山・東山など、いくつもの峰から成り立っている。遺跡の所在する山地の北側は険しい崖となっており、そこに金窓寺川・初太郎沢川・木戸沢川・不動沢川・根蓮沢川が、千曲川に向かって谷を刻んでいる。この地域は大部分が礫岩の厚い地層で、いわゆる小川層が存在する。

小川層は、亜炭層の他に厚い礫岩層と砂岩層・泥岩層・火山砕屑岩層などで構成される。礫岩層の礫の種類は安山岩が主で、流紋岩や花崗岩・チャートなども混じる。礫の大きさは、ほとんどが直径 15cm 以下の円礫である。亜炭は、炭化が進んでいないために木目が分かり、７層ほどが想定されるが、いずれも５～ 20cm ほどの厚さのものが不連続に分布している。

小川層の礫岩層や砂岩層が堆積していた800万年前頃、海底で火山活動が始まり、火山砕屑層を形成した。火山角礫岩層の角礫は、20～50cmのものがほとんどだが、中には数mの厚さがある安山岩の溶岩片が混じった部分もある。次節で述べる小牧山中の古墳群には、これらの巨礫が用いられたと思われる。

4　上田の植生

植物区系の上では、上田は太平洋区系区と日本海区系区の境目に当たり、またフォッサマグナ亜区系区と中部山岳区系区にも重なっている。このように多様な植物分布が見られるのが上田の植生の特徴である。市内の平地は標高500m前後に位置し、垂直分布では丘陵帯から低山帯へと移る付近に相当する。山地にはアカマツが多いが、里山ではコナラやクヌギ林が多く見られる。千曲川の段丘沿いにはケヤキ林が帯状に続いて特徴的な景観を呈している。このケヤキ林は遷移を経て安定した自然林で、ここでは古来から段丘の景観を形作っていたものと考えられている。

第2節　歴史的環境

1　先史～縄文時代

上田盆地周辺に人の居住が始まったのは、およそ2万年前頃と考えられている。この時代の遺跡は菅平高原や和田峠周辺などの高地に集中して分布するが、塩田平などの平坦地でも人の活動を示唆するような遺物の発見が徐々にみられるようになってきている。

縄文時代になると、山麓の扇状地が主要な生活の場となっており、このほか千曲川をはじめとする河岸段丘の縁辺部も盛んに利用されている。これに対して河岸段丘の内部や氾濫原の沖積地には縄文人の活動痕跡は見られない。千曲川左岸では、塩田平の遺跡から草創期・早期の遺物が発見されているものの、遺構は確認されていない。前期から中期では、やはり塩田平の検出見遺跡から中期の住居址が確認されている。後晩期では、浦里地域の下前沖遺跡から81点もの秀麗な土製耳飾りとともに炉址などの生活痕が確認されている。千曲川右岸の一帯は、染屋面にも上田城面にも縄文遺跡はわずかしか発見されておらず、左岸側やその他の支流域とはやや異なる様相を示している。

PL.24　下町山遺跡航空写真

2　弥生時代

千曲川流域では、弥生時代の中期後半から長野地方や佐久地方などで大規模な集落が営まれるようになった。上田地方ではこれより遅れ、弥生時代の後期後半から終末期にかけて集落遺跡が出現し、全域に分布する。このような時期

差の理由は現時点で必ずしも明らかでないが、降水量の少ない当地方でも灌漑技術による稲作が可能になったことなどが想像されている。上田の弥生時代における集落の立地は、河岸段丘上や自然堤防など冠水しにくく、水田に適した低湿地を近くに伴う場所が主に選ばれている。左岸では、塩田平の産川流域などが最も利用されており、千曲川右岸でも上田城面に遺跡が分布している。集落は数軒を単位とする小規模なものがほとんどだが、居住域以外を含めた全体像が明らかになった例はまだなく、実態には不明な点も多い。

千曲川左岸の氾濫原に位置する弥生遺跡としては、御所から中之条にかけての遺跡群や上田原段丘上の上田原遺跡があげられる。上田原遺跡の該期の遺構としては、竪穴住居址５件、周溝墓４件、土壙・土壙墓・木棺墓などが検出されている。周溝墓のうち、２件は円形、２件が方形で、鉄鋤やガラス小玉などが出土しているほか、遺跡内からは後期の鉄鋒や銅鏃も出土している。上田原遺跡における周溝墓のように地域の有力者の存在を窺わせる発見などから、上田小県地方がこの頃一つの勢力圏を形成しつつあったと想像する見方もある。

PL.25　他田塚古墳

３　古墳時代

４世紀後半の大蔵京古墳に始まる上田地方の古墳は、５世紀後半まで方墳のままで、他の千曲川流域でのような前方後円墳への変化が大きく遅れる。このことは当地方が中央政権の支配下に置かれるのが他に比べて遅かったことを物語ると考えられている。古墳時代前期の集落は小規模なものが多いが、後期には建物が集中して建てられ、大規模なムラが出現する。その代表的な例が国分寺周辺遺跡群で、ここでは方形の溝の一部が発見され、居館の濠である可能性があることから注目を集めている。東信地方で唯一の前方後円墳である二子塚古墳は黄金沢川扇状地の扇央部に位置しており、６世紀前半から中頃の築造と考えられている。

上田にある古墳ではこのほかに、帆立貝式の王子塚、円墳の古田原、神川流域の新屋古墳群、他田塚古墳や塚穴原一号墳をはじめとする下之郷古墳群、そして渋取田遺跡南側の小牧山内北麓の15基からなる後期古墳群である。中でも、諏訪形字東山に所在する「タタラ塚古墳」

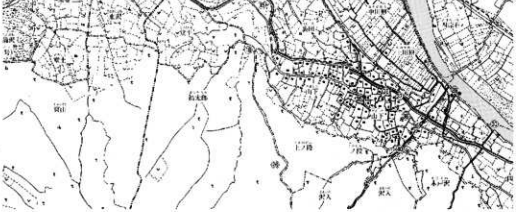


図6-1　渋取田遺跡と信濃国分寺周辺地字図

と５基からなる舟窪古墳群は、すべて横穴が開口し、墳丘もわずかに崩れているものの原形をよく留めており、上田市の指定文化財（史跡）となっている。なお、南麓には他田塚古墳や塚穴原一号墳（いずれも上田市指定文化財）をはじめ、43基からなる下之郷古墳群が形成され、小牧山全体がさながら古墳時代の墓地公園の様相を呈している。

PL.26　信濃国分寺跡

「科野国造」は古事記の神武天皇条が初見であるが、中央集権的支配体制のもとに国県制が整備されたのは７世紀の前半頃とみられる。当時の国造の本拠地には諸説あるが、生島足島神社の存在などから小県郡にそれを求める説もある。国造は大和平野の中心に勢力を持っていた多氏の系統と考えられており、そこから他田氏や金刺氏などに分かれたものとみられる。

４　律令期

大宝律令のもとで信濃国にも国衙が設置され、中央から国司が派遣された。この信濃国府がどこに所在したかは今もって明らかになっていないが、『和名類聚鈔』には筑摩郡に在りと記されている。しかし、国府と国分寺は近接して置かれるのが通例であることから、当初小県郡に置かれた国府が９世紀頃に筑摩郡に移ったと考えるのが現在の通説となっている。上田における国府の所在地としては、条里的遺構が今も残る神科台地と、常田の信州大学繊維学部敷地周辺に推定されている。

渋取田遺跡が立地する諏訪形は、『和名類聚鈔』小県郡８郷のうちの「須波郷」にあたり、この諏訪形と千曲川対岸の諏訪部地籍を中心に所在したと推定されている。千曲川左岸に存在する奈良・平安期の代表的遺跡としては、小泉地区の高田遺跡や、築地地区の篦籠田遺跡などが発掘調査されている。両遺跡は推定される令制東山道に沿い、かつ、奈良～平安時代初頭の掘立柱建物群が確認されたことにより、官衙的な性格を持った遺跡ではないか、という想定もされている。特に高田遺跡では、布目瓦も数多く出土して

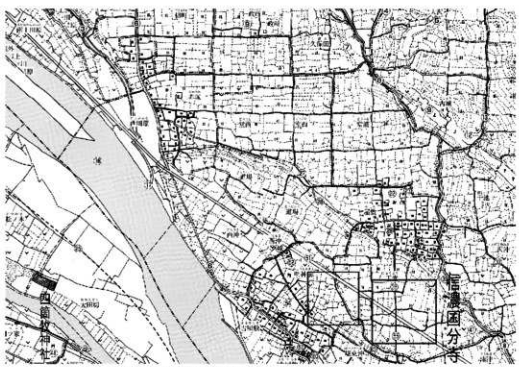


図 6-２　渋取山遺跡と信濃国分寺周辺地字図

おり、遺跡の全容解明が待たれているところである。

東山道の経路については諸説ある。初期の東山道は伊那郡から直線的に佐久方面へと抜けていたようだが、官道として整備されてのちは筑摩郡を経由するようになり、この時点で上田地方を通過するようになった。詳細な位置は不明だったが、平成18年、前述の高田遺跡北方の段丘下に2条の溝址を伴った幅約12mの道路遺構が、従前から推定されていたルート上に発見され、上田地域では唯一、確定的な東山道遺構となっている。

PL.27　中禅寺薬師堂（重文）

渋取田遺跡付近では、対岸の上田城面を東進する説が有力だが、一方で『将門記』の承平8年(938)の平将門と貞盛の天慶の乱の記述に、東山道を通って京に向かう貞盛を将門が追って信濃国分寺の辺りで追いつき、千曲川を挟んで合戦した、というくだりから、東山道が諏訪形・小牧を通って千曲川を渡河し、信濃国分寺に至ったという説もある。

いずれにしても、信濃国分寺跡に近い千曲川沿いを東に向かって上野国へ抜けていたことは確かで、当時の上田盆地は信濃国の政治・経済・軍事などの重要な中心としての地位を占めていた。

5　中世

律令制度が崩壊に向かうと、上田小県地方でも開発領主の寄進により貴族や寺社が経営する荘園が数多く成立した。「吾妻鏡」には12世紀末の信濃国における荘園の名を記した書付が収められているが、これによれば当地方には八条院領常田庄や最勝光院領塩田庄など6つの荘園と3ヶ所の牧の名が見られる。この時代には地元に所領を持つ地方武士達が勢力の増大を目指して都に向かった。

源氏の世となると、この地域の武士達は鎌倉御家人を指向するようになった。このような武士としては、海野氏、祢津氏、泉氏、浦野氏などが代表的である。

PL.28　史跡上田城跡櫓門及び南北櫓

一方、それまで有力者だった塩田氏などは義仲に与したために所領を失う結果になったかとみられる。鎌倉時代の塩田平では幕府の重臣である島津氏、その後は北条氏が地頭職をつとめ、北条義政がここに逼世してからは塩田北条氏が三代60年間にわたって仏教文化を花開かせた。今山でも安楽寺三重塔をはじめとする数多くの歴史的辿造物、史跡が残されている。なお、国分寺郷は荘園化されることはなく、終始公領であった。

鎌倉幕府が滅亡して信濃から北条氏の勢力が消滅すると、当地方も地方領主による争乱の時代に入る。荘園の消滅と並行して守護と国人領主の対立が激化するなか、塩田城を本拠とする村上氏が支配を拡げたが、天文20年に甲斐の武田勢によって攻略された。

地士の真田氏は、同じ頃に武田に仕えるようになり、次第に頭角を顕わしていった。諏訪形が現れるもっとも古い史料は、この時期の天文19年(1550)で、真田幸隆が武田晴信から諏訪形300貫文、上条700貫文の地を宛てられたとするものである。

真田氏は、武田滅亡後の戦乱を主家を次々と変えることで巧みに切り抜けた。天正11年（1583）には上田城の築城を開始し、間もなく小県郡一円を支配下に収めた。また、現在の市街地の骨格をなす城下町も形成された。真田が上杉に臣属したために徳川から攻められ、関ヶ原合戦でも昌幸・信繁父子が西軍に加わったために上田城は徳川勢の攻撃にさらされたが、よくそれをしのいだ。東軍勝利の後は、真田仏之が沼田・小県を合わせた9万5千石を領して上田城主となり、領城支配を確固たるものにした。

6　近世

徳川幕府の時代には、城主が真田氏から仙石氏、松平氏と代わる中、城下は物資の集散地として栄えた。現在見る上田城は主に仙石氏の時代に修築されたもので、城下町の整備もこの時期、寛永頃までには概ね完成したようである。上田は城下町であると同時に北国街道の宿駅を兼ねており、流通の拠点であった。様々な産業が育ち、特に上田紬は養蚕とともに大きな発展をみせた。

PL.29　明治29年開業大屋駅舎

7　近代

上田小県地方は、廃藩置県によって明治4年（1871）には上田県となり、のち長野県に統一された。上田の城下町は、明治22年（1889）に市町村制が施行されて上田町となった。大正8年（1919）には市制を施行、同10年（1921）には渋取田遺跡の所在する諏訪形を含む城下村を編入し、養都として栄えた。昭和期には、29年（1954）の塩尻村、川辺村に始まって周囲の町村をたびたび編入しながら48年（1973）には人口10万を擁する都市となった。なお、城下村は、明治22年(1889)、小牧・諏訪形・御所・中之条の4か村が併合してできた村である。

現在のしなの鉄道、旧信越本線は明治18年（1885）に高崎から横川まで、同21年（1888）に直

図７　渋取山遺跡周辺遺跡分布図 (1/20,000)

遺跡No	遺跡名	所在地	時代	備考（調査年度等）
57	常入遺跡群	常入字堀の内・中常田他	縄文～平安	下町田遺跡（平成8～15年調査）他7遺跡
65	海野遺跡	上山字海野	弥生・平安	
66	上田城跡	上田字二の丸	近世	国指定史跡
84	六句古墳	小牧字六句	古墳	
85	花水遺跡	小牧字花水	平安	
86	初太郎古墳	小牧字花水	古墳	
87	タタラ塚古墳	諏訪形字東山	古墳	上田市指定史跡
88	舟窪古墳群	諏訪形字西山	古墳	上田市指定史跡
89	原峠古墳	御所字下峠下	古墳	
90	日天塚古墳	御所字下堰上	古墳	
91	月天塚古墳	御所字下堰上	古墳	
92	上平古墳	諏訪形字上平	古墳	
93	森の木1号古墳	諏訪形字森の木	古墳	
94	森の木2号古墳	諏訪形字森の木	古墳	
95	渋取田遺跡	諏訪形字渋取田・中堰	縄文～平安	今回調査
96	中沢遺跡	諏訪形字中沢	平安	
97	横堰遺跡	御所字横堰	平安	
98	木の下遺跡	御所字木の下	弥生～平安	
99	千曲高校遺跡	中之条字屋敷田	弥生～平安	
100	西前山遺跡	中之条字西前山・下前山	平安	
147	中雲雀古墳	下之郷字中雲雀	古墳	
148	宮原古墳	下之郷字宮原	古墳	
149	紅平山古墳群	下之郷字紅平山	古墳	
150	東山古墳群	下之郷字東山	古墳	
152	天神遺跡	富士山字天神	弥生～平安	
161	中雲雀遺跡	富士山字中雲雀	平安	
414	小泉曲輪城跡	上山字上山城廻り	近世	
423	小牧城跡	小牧字城山	近世	

表1　渋取山遺跡周辺遺跡一覧表

江津から軽井沢までが開通し、同26年(1893)に碓氷峠を越える難工事が完成したことにより全通した。上田駅は明治21年（1888）8月に直江津線の仮終点として開業し、同年12月に軽井沢まで延長された。一方、上田から軽井沢までの間には田中・小諸の2駅しかなかったため、地元の利便と養蚕・製糸業発展のため大屋駅開設の請願が出され、明治29年（1896）1月に新駅が実現した。なお、信越本線は北陸（長野）新幹線の開業に伴って平成9年（1997）に横川～軽井沢間が廃線となり、同時に軽井沢～篠ノ井間が第3セクターのしなの鉄道として引き継がれた。

大正10年、遺跡にほど近い三好町駅（現城下駅）から青木村へと向かう青木線と、現在も残る別所温泉線が操業していたものが、千曲川を渡河して右岸の上田駅へと接続したのは、大正13年(1924)の千曲川橋梁の完成以降である。上田温泉軌道はその後、昭和16年（1941）に上田電鉄と合併して上田丸子電鉄となっている。

8　現代

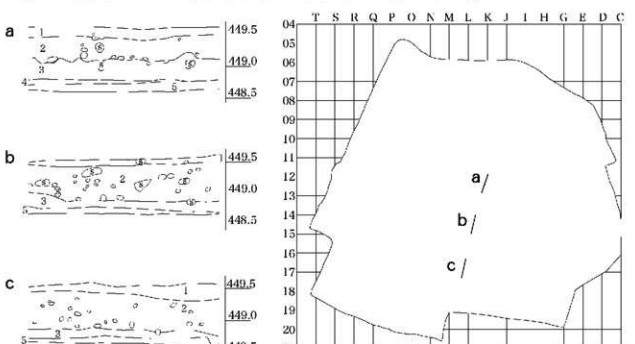
今回調査した渋取田遺跡が所在する長野県企業局上田水道管理事務所は、昭和39年(1964)に建設された。上田市の一部（塩田地区・川西地区の一部）や埴科郡坂城町、千曲市の一部（旧戸倉町・旧上山田町）へ給水を行い、上水道化を図ってきた。現在は、下流の川中島水道管理事務所管内へも送水し、日最大4万8千立方メートルの浄水能力を有する。

かつて構内の送水管敷設工事の際、縄文土器等が出土し、ここに遺跡が所在することが判明し、今回の調査に至るのである。

第3節　遺跡の基本層序

調査地は、千曲川氾濫原と小牧山からの扇状地との接点に位置している。有史以降、千曲川の氾濫を直接大規模に被ったことはないようだが、調査区の北端は砂混じりの土となっているため、調査区北側の微段丘までの氾濫により、多少の影響は受けているようである。また、千仙川沿いは、流れに沿って下流側（西側）が低くなるが、ここは小牧山からの土砂の押し出しの影響もあり、下流側（西側）が高くなっている。

上層図の1層は黒褐色(7.5YR3/2)の砂質表土で、従前はテニスコートとして利用するために客土したものである。2層は、かつて田面として利用されていた際の耕作土で、3、4層に土中の鉄分がしずんだ層が見て取れる。検出面は5層で、調査地の西半部は、検出面が沖積地の黒色土となっており、住居跡などの遺構プランの把握がきわめて困難であった。一方東半部は、西半部に比べて黄色味の強い地山層からの検出となったため、遺構の把握は西半部に比して容易であった。



1…7.5YR3/2 黒褐色 砂質土(客土)　2…10YR3/3 暗褐色 砂質土石混り(耕作土)　3…10YR3/4 暗褐色 強粘質土
4…5YR3/2 暗赤褐色 シルト（溶鉄混）固い　5…7.5YR2/3 極暗褐色 シルト 固い

図8　渋取田遺跡基本土層図

第三章　調査の成果

第１節　調査の概要

基本層序の節でも述べたが、調査地は西半部が沖積層の黒褐色土が検出面となっていたため、遺構プランの確認がきわめて困難であった。このため、随所にサブトレンチを入れ、土層の変化や住居址の床面、遺構の底部を探りながら掘り上げることとなった。

調査の結果、竪穴住居址が13件、掘立柱建物址４件、土坑15件（うち１件は井戸）、溝址１件、集石遺構５件、ピット167件（掘立柱建物址構成ピットを含む）のほか、３件の須恵器埋甕を検出した。

住居址の時期はおおむね古墳時代後期から平安時代後期までで、微段丘の馬の背状の微高地に東西に並ぶ。調査地の北側は千曲川の影響を受け、南側は後背湿地の様相を呈しているための立地制限による

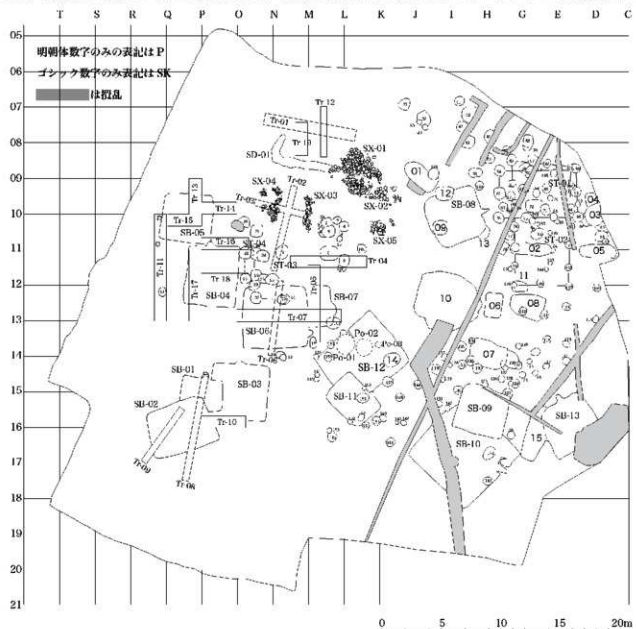


図９　渋取山遺跡発掘調査遺構配り図

ものと思われる。

住居址では、SB-01 が 9 世紀末とみられ、これをその直前の 9 世紀後半の SB-02 が切っている。ただ、SB-02 には竈等の火処がなく、通常の竪穴住居址とは様相を異にする。また、SB-01 に切られる SB-03 は、9 世紀中半ばの住居址とみられる。

SB-04 は奈良時代の住居址と考えられ、SB-05 を切っているので SB-05 はそれ以前の住居址と考えられたが、出土遺物を観察するとほとんど時期差は見て取れない。また、火処も竈ではなく地床炉の痕跡が床のほぼ中央にみられ、住居址の用途が不明である。SB-06 は SB-07 を切っているが、この二つの住居址間にもあまり時期差はみられない。9 世紀半ばから後半の遺構と思われる。BS-06 は竈が東壁の南側に所在しているが、その手前西側には被熱した床面がある。

SB-08 は古墳時代後期の住居址である。主柱穴が床面の中央軸線上に配され、屋根の構造が注目される。竈は東壁中央に位置し、土師器高坏の脚を支脚として用いている。SB-09 は SB-10 を切る。時期は、SB-09 が奈良時代末から平安初頭、SB-10 が古墳時代後半と思われる。SB-09 の竈は北壁の中央に検出され、袖の芯となる石と火床がよく残っている。SB-10 は、平面規模が 7.1 × 6.7m の比較的大型の住居址である。竈が南東壁の中央に検出され、位置として稀なケースである。竈及びその左手の貯蔵穴や床面東コーナーからは良好な土器セットが出土している。

SB-11 は奈良時代前半の住居址で、堅緻な床面と北東壁ほぼ中央に竈址が良好な状態で検出された。この SB-11 に切られる SB-12 は、古墳時代末の住居址とみられる。6.5 × 5.3m という大きさの平面規模を持つ。竈の左袖部が Po-01 に切られているが、1.32m の長い右袖が残っている。この SB-12 と SB-10 はほぼ同時期の住居とみられるが、わずか 5m の距離で青中合わせに存在していたようである。

SB-13 は奈良時代半ばの住居址である。空中写真撮影直前の遺構清掃で床面が確認されたため、空中写真には写っていない。西側コーナーが SK-15 に切られ、東側が攪乱されているが、竈は比較的良好な状態で検出された。竈右袖の芯として長胴甕を用いている。

ピットのうち、掘立柱建物址が構成できたのは 4 件で、ほとんどは規則性が判別できなかった。ST-01 は 3 × 2 間 (6.48 × 3.84m) の建物で、東西方向に長軸を持つ。ST-02 は 6 × 2 間 (10.22 × 4.77m) で南北方向に長軸を持つ。この 2 件の建物址は切りあっているが、構成するピットの切りあいがないため前後関係はわからない。

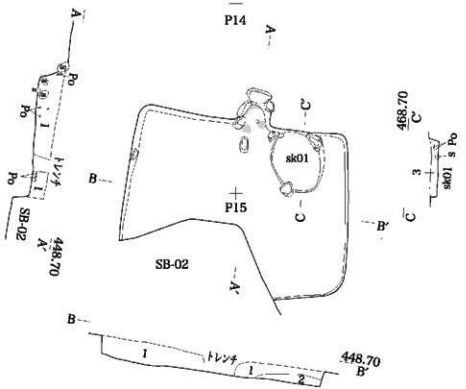
土坑は、SK-02,05,07,08 が調査区の東側に東西方向の長軸をもって検出された。墓坑の可能性も想定されたが、人骨の出土はなく、出土遺物にも墓坑を示唆するものはなかった。SK-10 は井戸址である。ただ、掘り方と井戸枠との境は明瞭ではなく、4 分割で掘り進み検出面から − 1.6m ほどまで掘り下げた時点で井戸址と判別でき、その前提でセクションを確認したところ、井戸枠内法が 1.1 ～ 1.2m の方形の井戸であることが確認された。GL − 1.8m のあたりから井戸枠の板片が出土し、掘り下げていくと井桁状に板を組み合わせたものであることが確認された。ただ、板がかなり脆くなっており、完全な形で取り上げることはできなかった。

SD-01 からは金環が出土しており、この SD-01 の周囲には集石遺構 SX が分布している。この SX 群と SD の関係やそれぞれの用途等は全く不明である。

Po-01,02,03 は、大型の須恵器甕を 1.3 から 1.7m 間隔で並べたもので、掘り方がほとんどなく、甕の形に合わせて穴を掘り、正立できるように納めた貯水用のものと思われる。

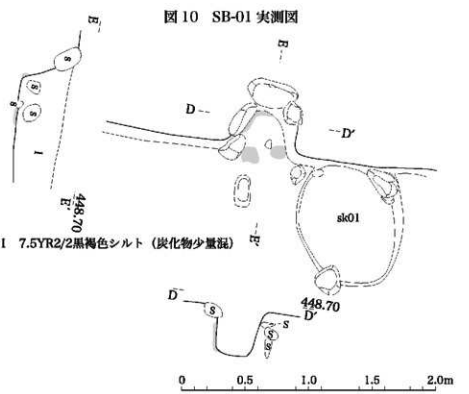
このほか、遺構外からは縄文土器片が多く出土しているが、該期の遺構は確認できなかった。

1　SB-01



1　7.5YR2/2黒褐色シルト（炭化物少量混）
2　7.5YR2/2黒褐色シルト（炭化物　焼土ブロック混）
3　7.5YR3/2黒褐色シルト

図 10　SB-01 実測図



1　7.5YR2/2黒褐色シルト（炭化物少量混）

図 11　SB-01 竈実測図

2 SB-02

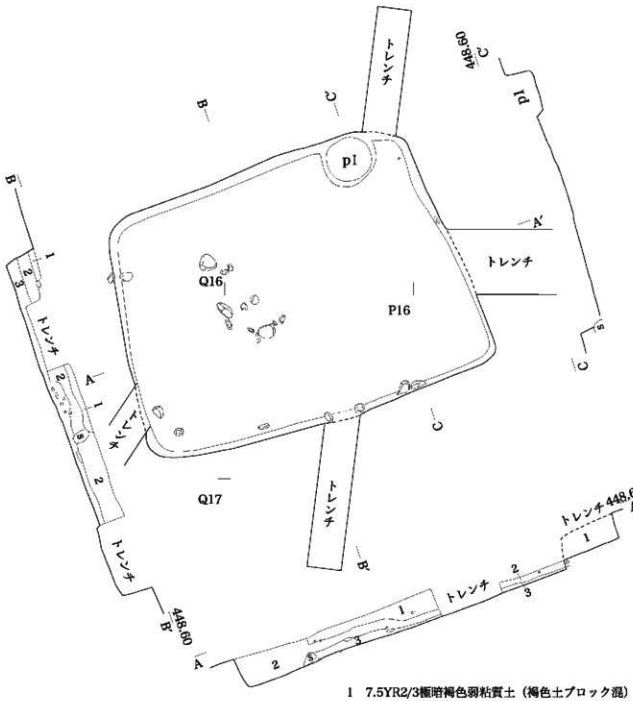


図 12　SB-02 実測図

3 SB-03

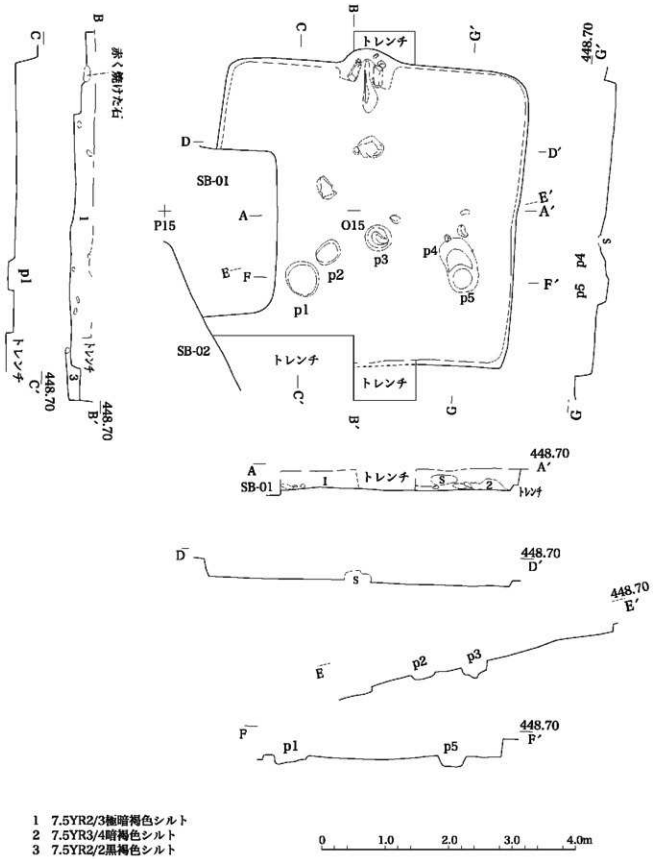
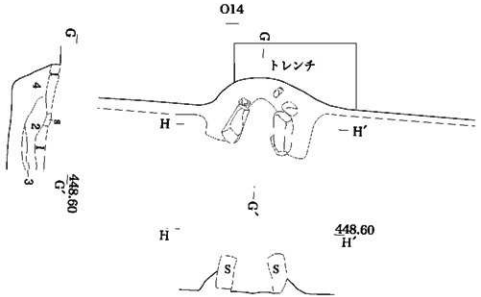


図 13 SB-03 実測図

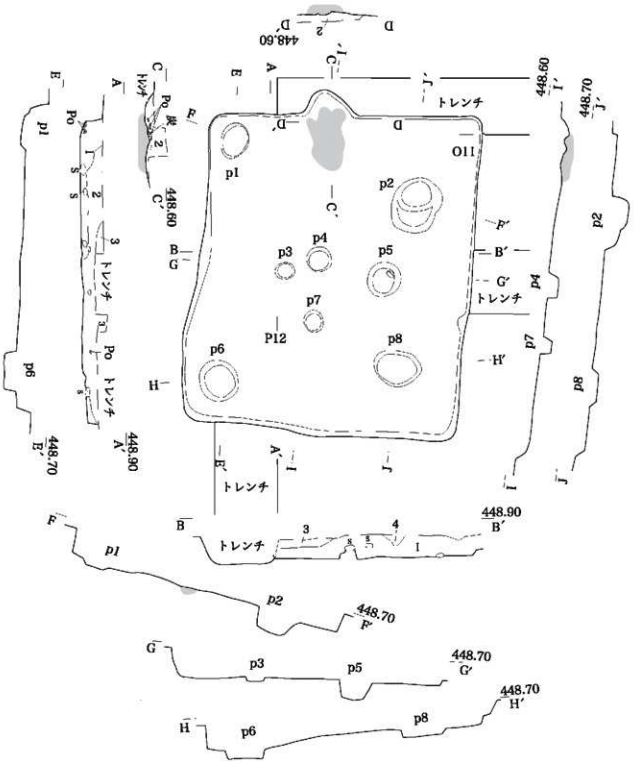


1 7.5YR3/3暗褐色シルト
2 7.5YR3/3暗褐色シルト（焼土 炭化物混）
3 7.5YR3/2黒褐色シルト
4 7.5YR2/3極暗褐色シルト

0 0.5 1.0 1.5 2.0m

図 14 SB-03 竈実測図

4 SB-04



1 10YR2/3黒褐色シルト
2 7.5YR2/2黒褐色シルト（炭混　明褐色土混）
3 7.5YR3/2黒褐色シルト
4 10YR2/2黒褐色弱粘質土

0 1.0 2.0 3.0 4.0m

図15 SB-04 実測図

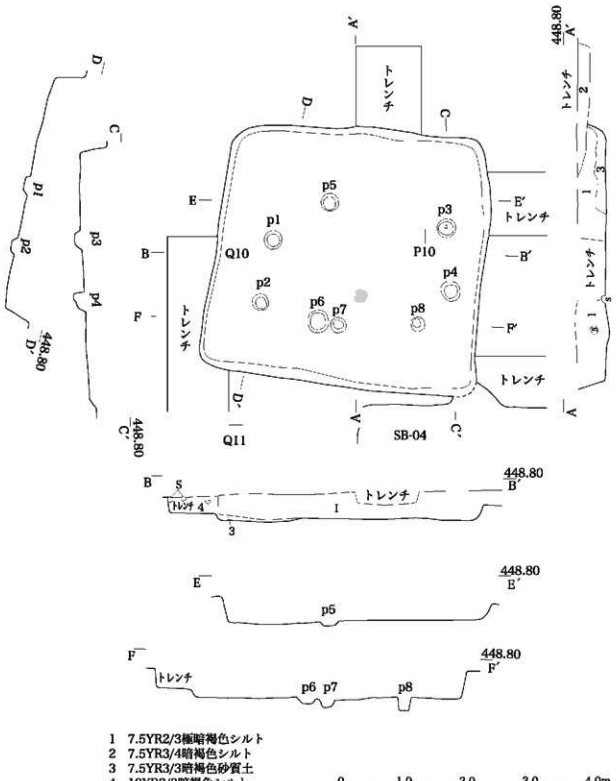
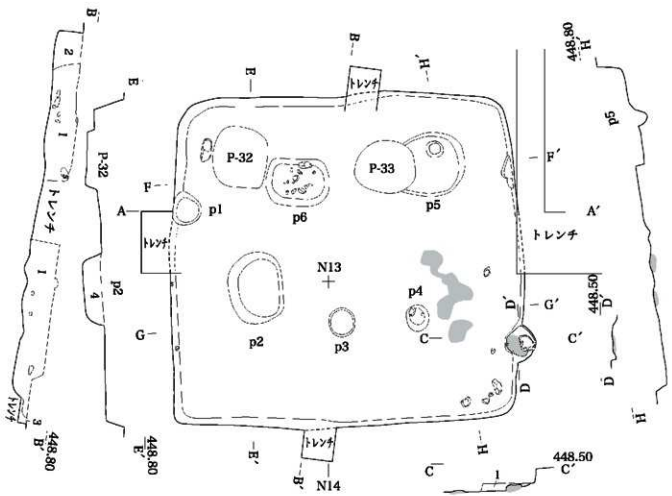
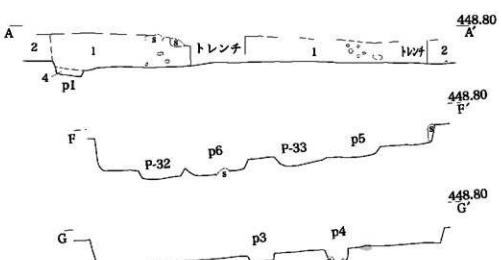

A
A'
B
B'
C
C'
D
D'
E
E'
F
F'
トレンチ
p1
p2
p3
p4
p5
p6
p7
p8
Q10
Q11
P10
SB-04
448.80
1
2
3
4
5
0
1.0
2.0
3.0
4.0m
1 7.5YR2/3極暗褐色シルト
2 7.5YR3/4暗褐色シルト
3 7.5YR3/3暗褐色砂質土
4 10YR3/3暗褐色シルト

図 16　SB-05 実測図





1 7.5YR3/4暗褐色シルト
2 7.5YR3/2極暗褐色シルト
3 7.5YR2/2黒褐色シルト
4 7.5YR3/2黒褐色シルト

0 1.0 2.0 3.0 4.0m

図17 SB-06 実測図

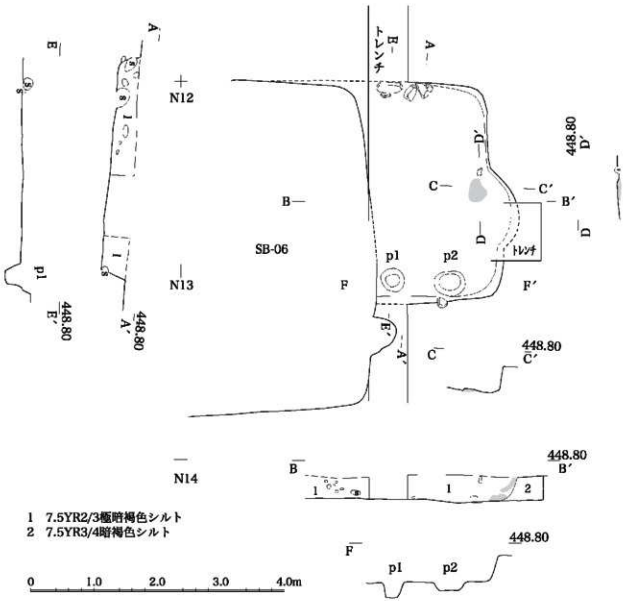

N12
N13
N14
SB-06
トレンチ
p1
p2
448.80
1 7.5YR2/3極暗褐色シルト
2 7.5YR3/4暗褐色シルト
0 1.0 2.0 3.0 4.0m

図 18　SB-07 実測図

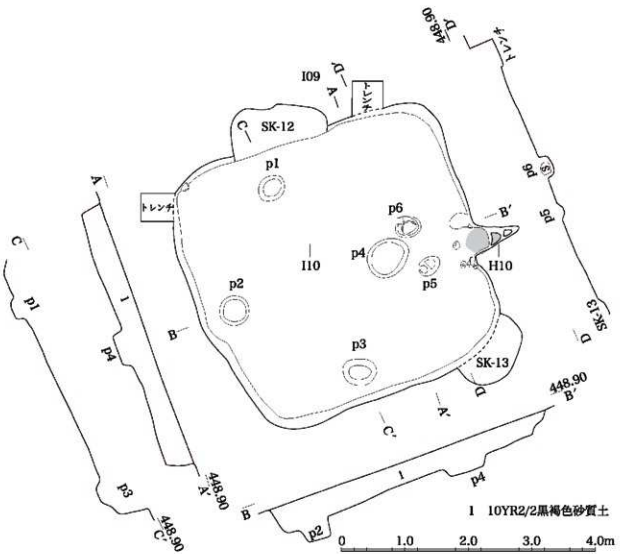


図 19　SB-08 実測図

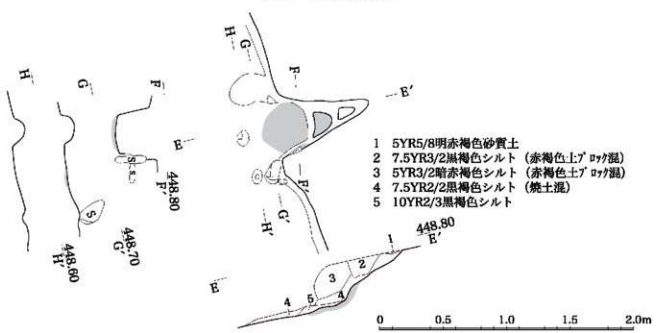


図 20　SB-08 竈実測図

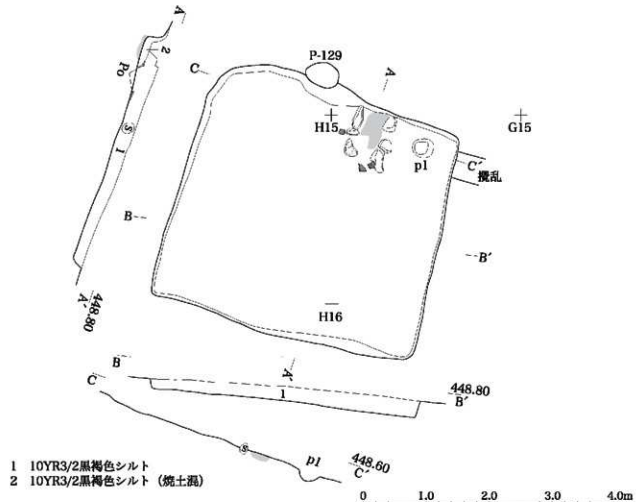


図 21　SB-09 実測図

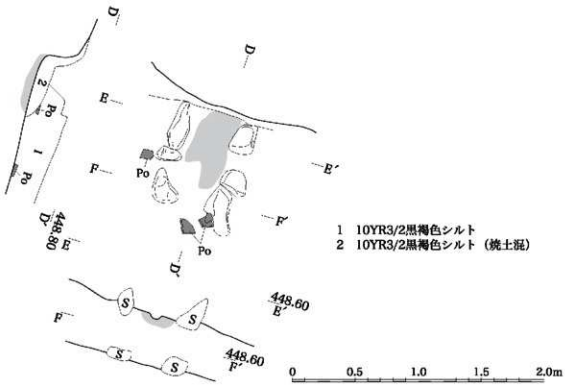


図 22　SB-09 竈実測図

10 SB-10

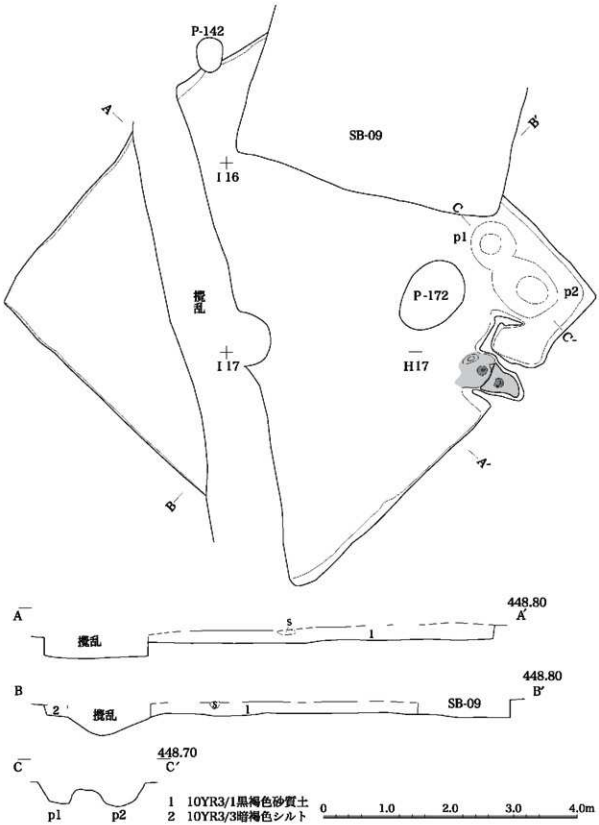


図 23 SB-10 実測図

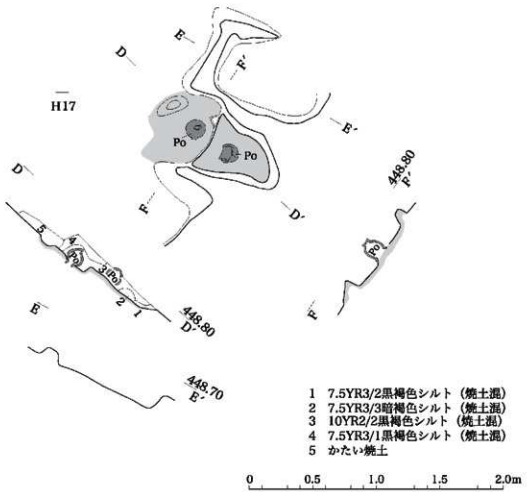


図 24　SB-10 竈実測図

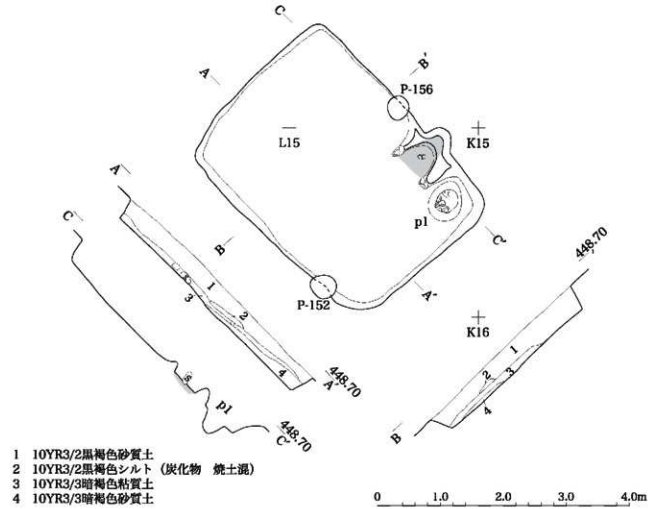


図 25 SB-11 実測図

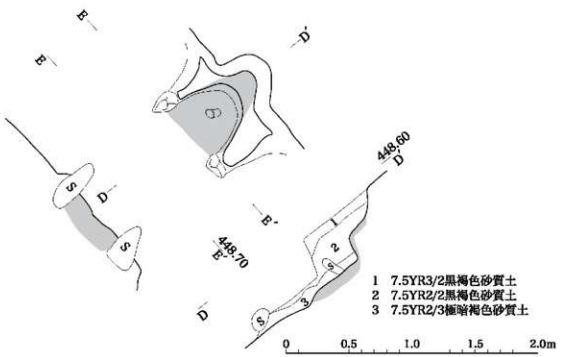


図 26 SB-11 竈実測図

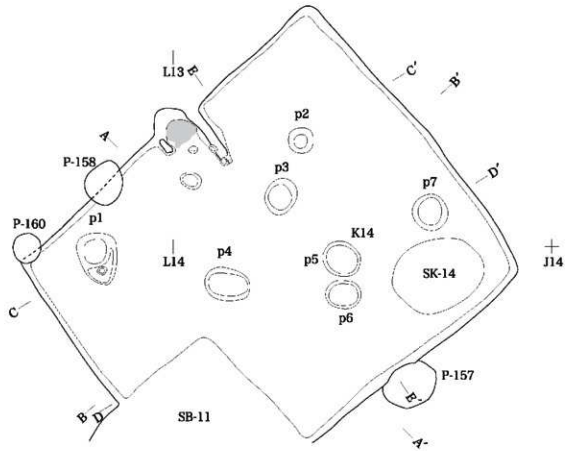

LI3
A
A'
B
B'
C
C'
D
D'
P-158
P-160
p1
p2
p3
p4
p5
p6
p7
K14
LI4
SK-14
J14
P-157
SB-11
448.60
1 10YR2/3黒褐色砂質土
2 10YR3/3暗褐色シルト
3 7.5YR2/2黒褐色シルト
4 7.5YR2/3極暗褐色シルト
0 1.0 2.0 3.0 4.0m

図 27　SB-12 実測図

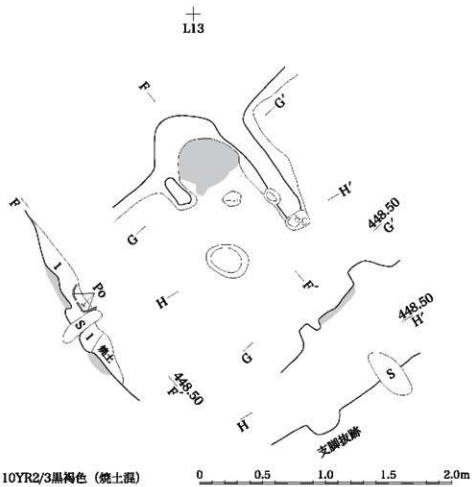


図 28　SB-12 竈実測図

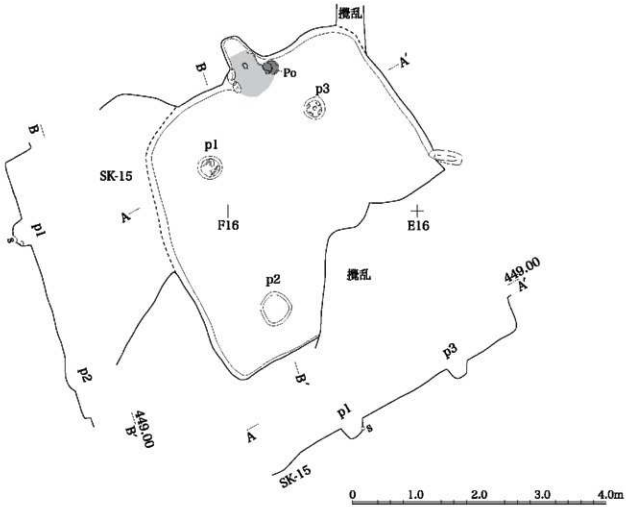


図 29　SB-13 実測図

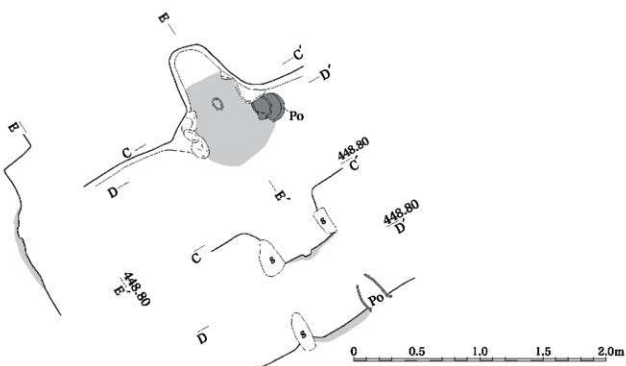
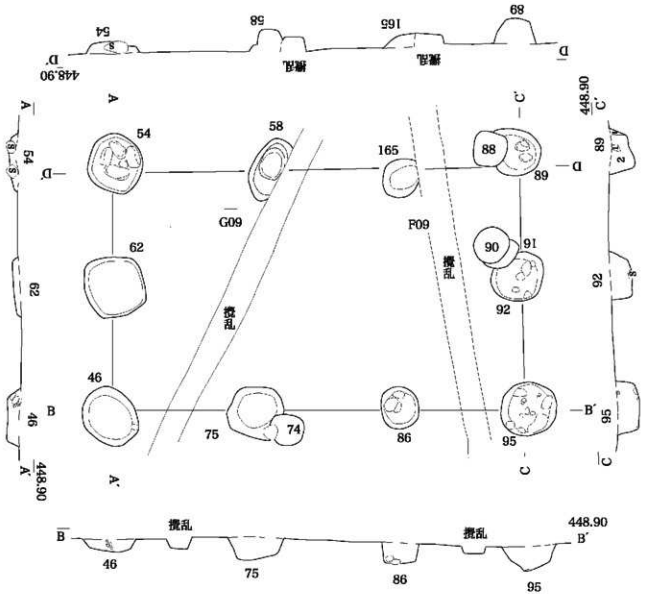


図 30　SB-13 竈実測図

14　ST-01（図中の２桁の数字はピット番号である。）



覆土

P-46
10YR3/3黒褐色砂質土

P-54
10YR3/3黒褐色砂質土

P-58
10YR3/3黒褐色砂質土

P-62
10YR3/3暗褐色砂質土

P-75
10YR3/3暗褐色砂質土

P-86
10YR3/3黒褐色砂質土

P-89
1　7.5YR4/3褐色砂質土
2　7.5YR3/2黒褐色砂質土

P-92
7.5YR3/2黒褐色砂質土

P-95
10YR3/3暗褐色砂質土

P-165
10YR3/3黒褐色砂質土

0　1.0　2.0　3.0　4.0m

図 31　ST-01 実測図

15 ST-02(図中の2桁の数字はピット番号である。)

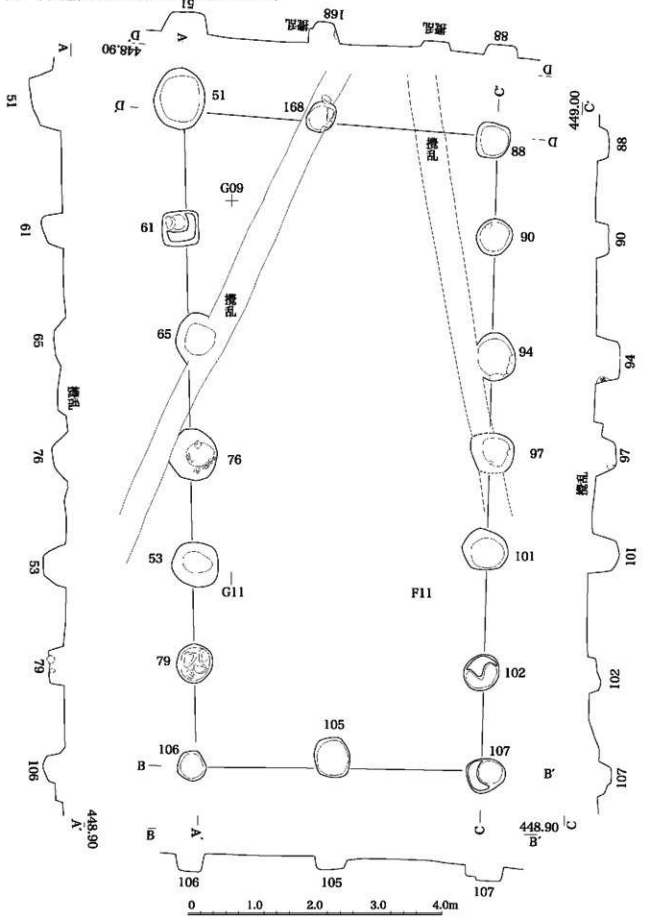
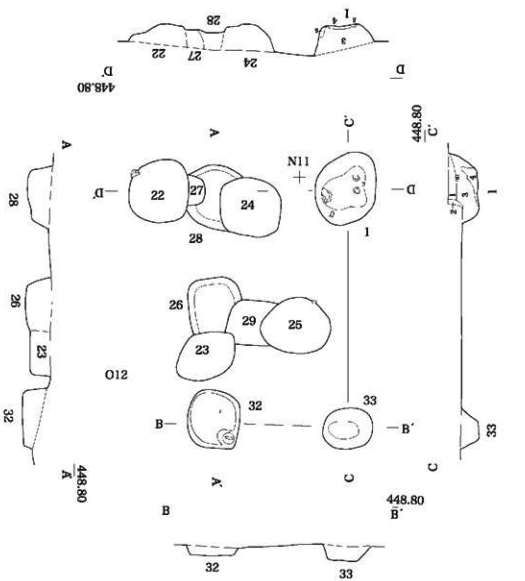


図 32 ST-02 実測図

16 ST-03(図中の2桁の数字はピット番号である。)



覆土

P-01 1 7.5YR2/2黒褐色 シルト
2 7.5YR3/2黒褐色 シルト
3 7.5YR4/4褐色 シルト

0 1.0 2.0 3.0 4.0m

P-26 10YR2/2黒褐色シルト

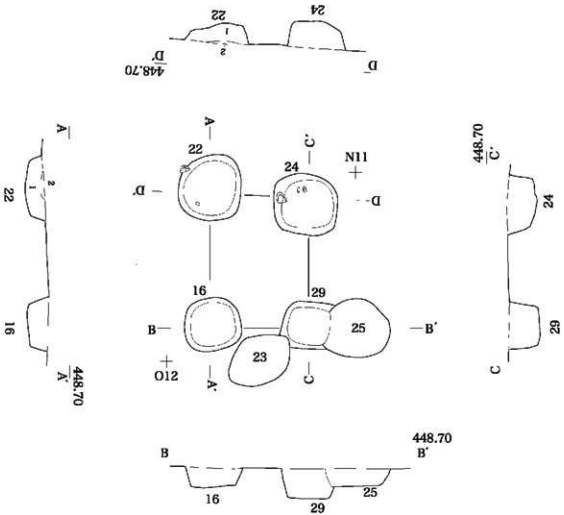
P-28 10YR2/2 黒褐色（暗褐色土混）シルト

P-32 7.5YR3/2 黒褐色 シルト

P-33 10YR2/2黒褐色シルト

図33 ST-03 実測図

17 ST-04(図中の2桁の数字はピット番号である。)



覆土

16		7.5YR2/2黒褐色 シルト
22	1.	7.5YR2/2黒褐色 シルト
	2.	7.5YR3/3暗褐色 シルト
24		7.5YR2/2黒褐色 シルト
29		10YR2/2 黒褐色（褐色土混）シルト

0 1.0 2.0 3.0 4.0m

図 34 ST-04 実測図

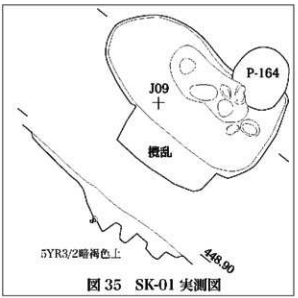


図 35　SK-01 実測図

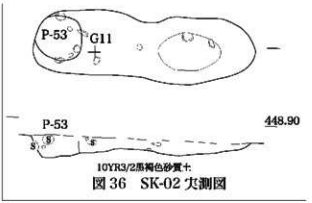


図 36　SK-02 実測図

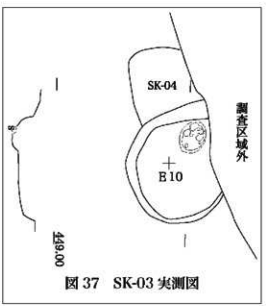


図 37　SK-03 実測図

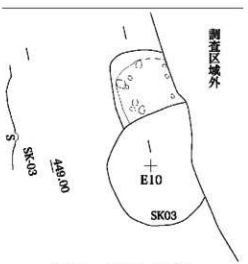


図 38　SK-04 実測図

図 39　SK-05 実測図

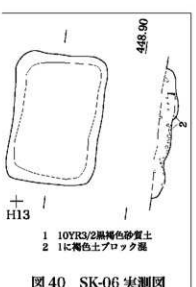


図 40　SK-06 実測図

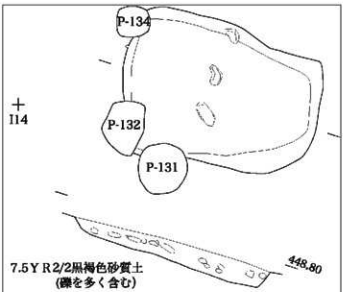


図 41　SK-07 実測図

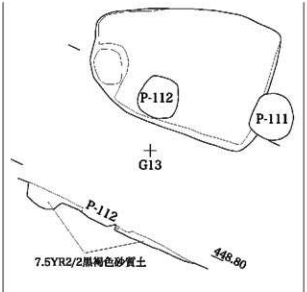
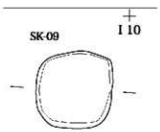


図 42　SK-08 実測図



7.5YR3/2黒褐色シルト
図 43　SK-09 実測図

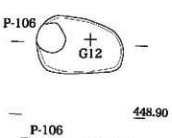
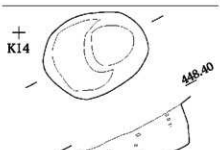
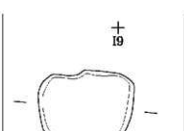


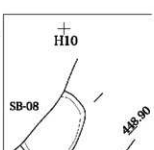
図 44　SK-11 実測図



7.5YR2/2黒褐色砂質土
図 47　SK-14 実測図



7.5YR3/2黒褐色シルト
図 45　SK-12 実測図



10YR2/2黒褐色シルト
図 46　SK-13 実測図

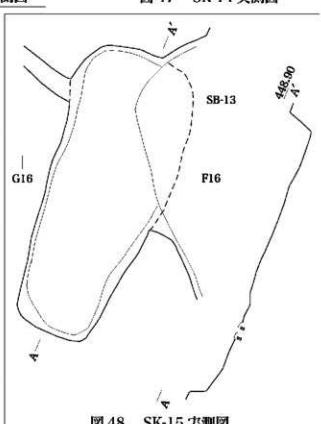
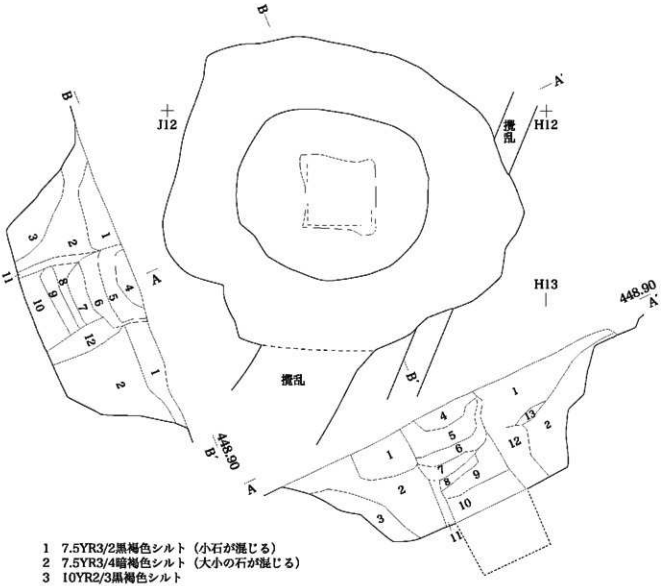


図 48　SK-15 実測図



1 7.5YR3/2黒褐色シルト（小石が混じる）
2 7.5YR3/4暗褐色シルト（大小の石が混じる）
3 10YR2/3黒褐色シルト
4 7.5YR4/2灰褐色砂質土
5 7.5YR3/2黒褐色砂質土（大きい石が多量に混じる）
6 7.5YR3/4暗褐色砂質土（大きい石が多量に混じる）
7 7.5YR3/3暗褐色砂質土（大きい石が多量に混じる）
8 7.5YR4/6褐色砂質土（大きい石が多量に混じる）
9 7.5YR4/3褐色砂質土（大きい石が多量に混じる）
10 7.5YR4/4褐色砂質土
11 10YR3/3暗褐色砂質土
12 10YR3/3暗褐色砂質土（大きい石が多量に混じる）
13 10YR2/3黒褐色シルト

図 49　SK-10 実測図

19 SD

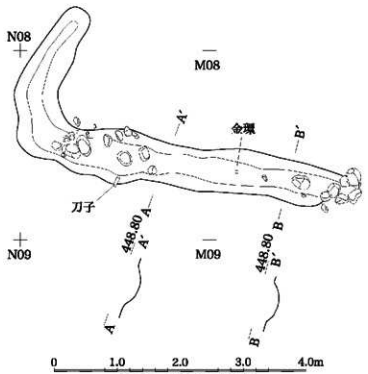


図 50　SD-01 実測図

20 SX

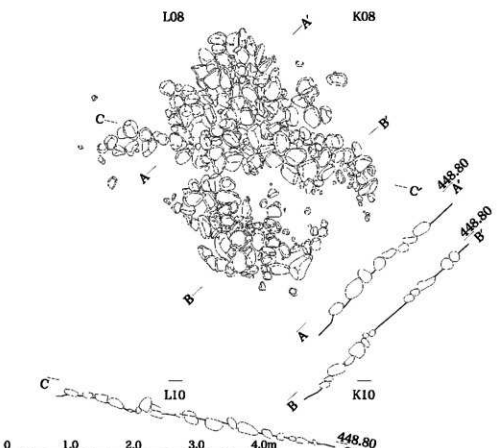


図 51　SX-01 実測図

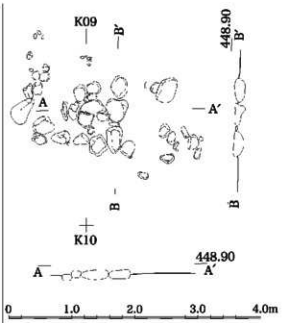


図 52　SX-02 実測図

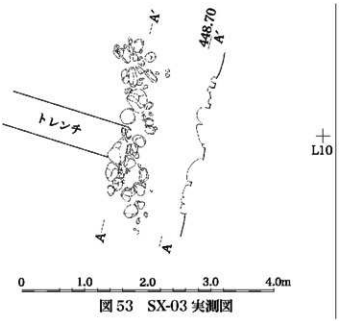


図 53　SX-03 実測図

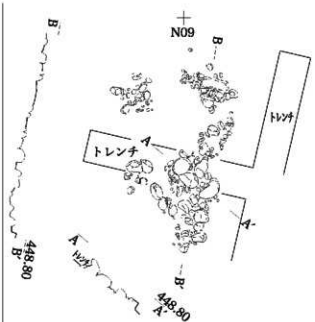


図 54　SX-04 実測図

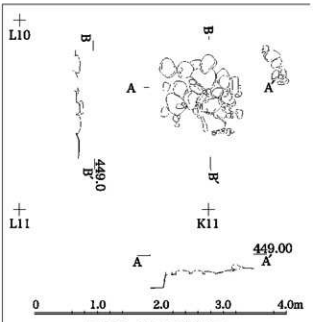


図 55　SX-05 実測図

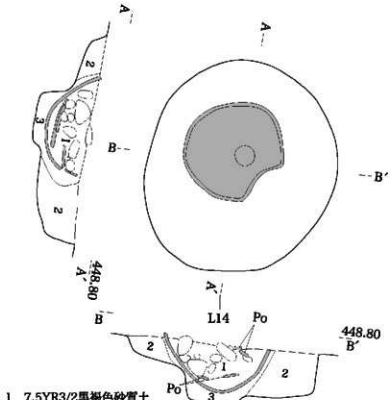


図 56　Po-01 実測図

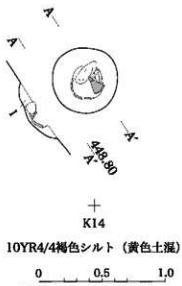


図 58　Po-03 実測図

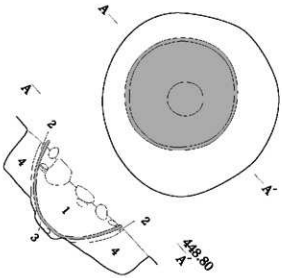


図 57　Po-02 実測図

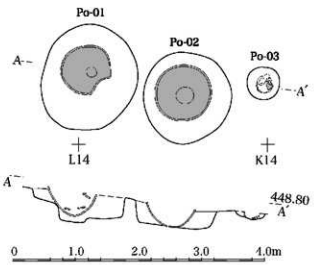


図 59　Po-01 ～ 03 出土位置実測図

22　P

本調査では、167 基のピットが検出された。（ピット番号は 172 まで付されているが、うち 5 基は欠番である。）以下にその実測図を示す。なお、実測図は下の図 60 の区割りにしたがって表記している。

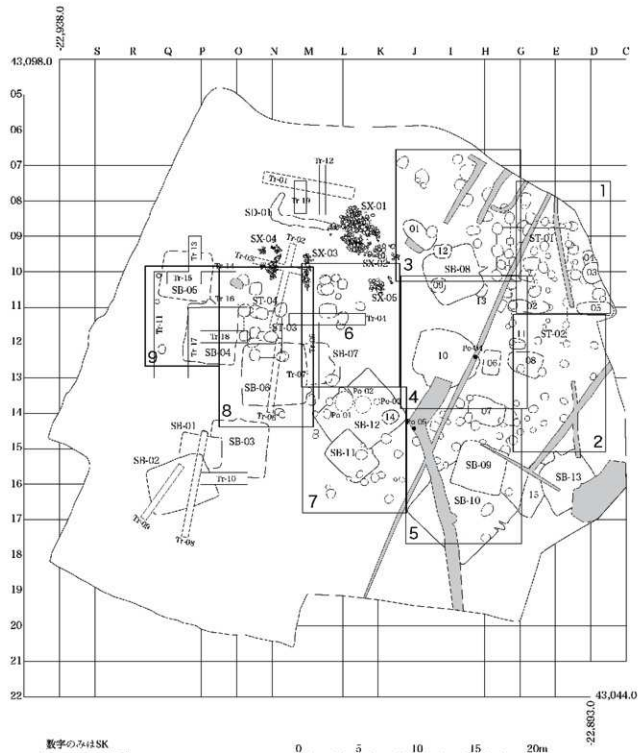


図 60　P 実測図区割図

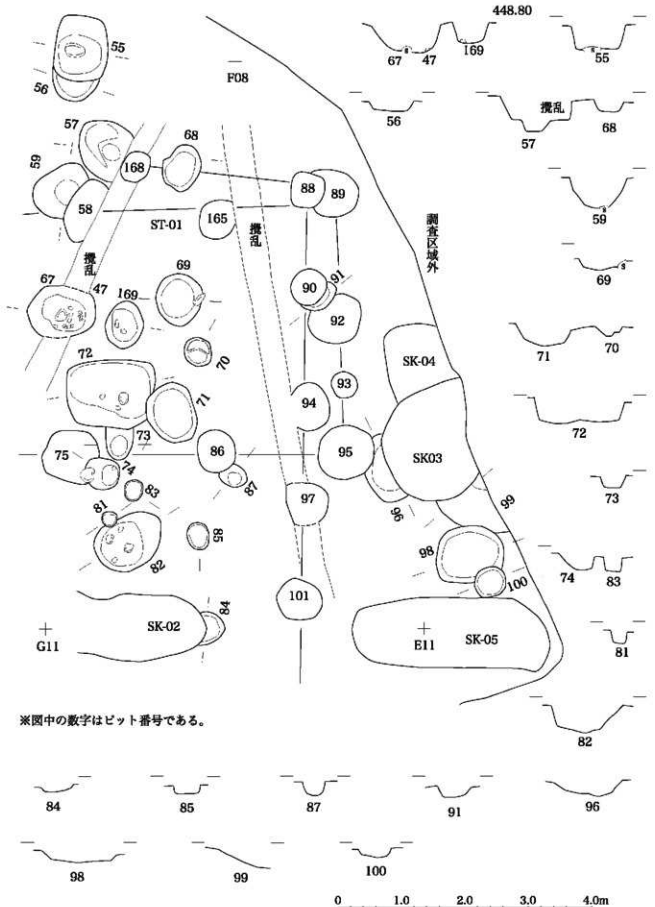

448.80
F08
ST-01
SK-04
SK03
SK-02
SK-05
G11
E11
調査区域外
撹乱
※図中の数字はピット番号である。
0 1.0 2.0 3.0 4.0m

図 61　P 実測図 (1)

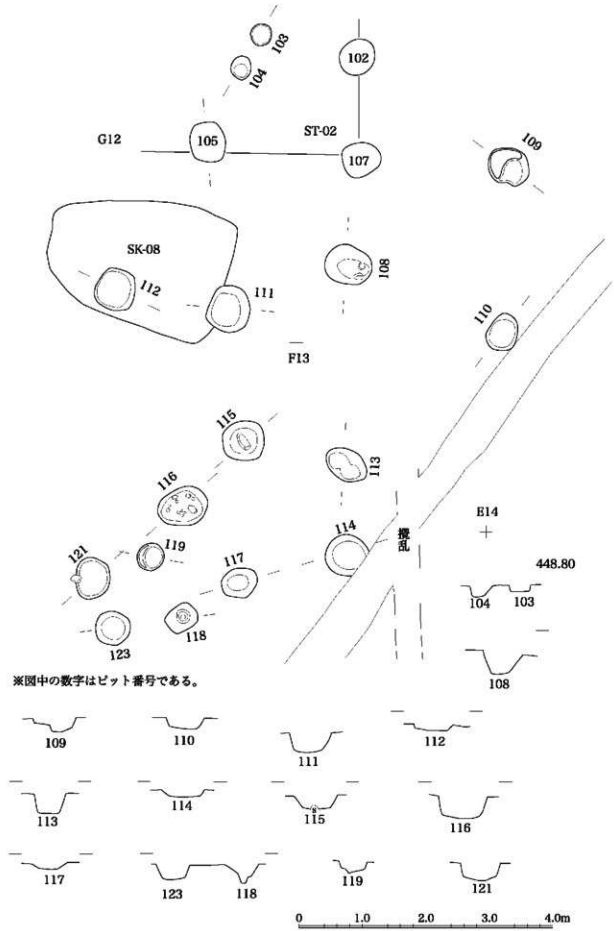
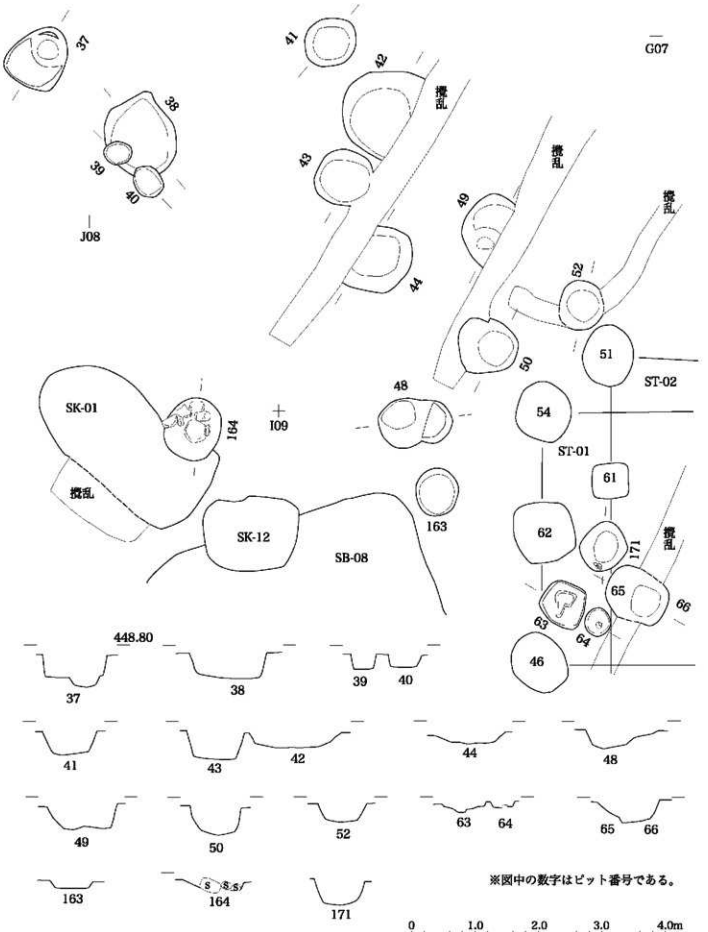


図 62　P 実測図 (2)



37
38
39
40
J08
41
42
43
44
攪乱
G07
49
52
50
51
ST-02
48
54
ST-01
SK-01
164
I09
61
163
SK-12
SB-08
62
171
65
66
63
64
46
448.80
※図中の数字はピット番号である。
0
1.0
2.0
3.0
4.0m

図 63　P 実測図 (3)

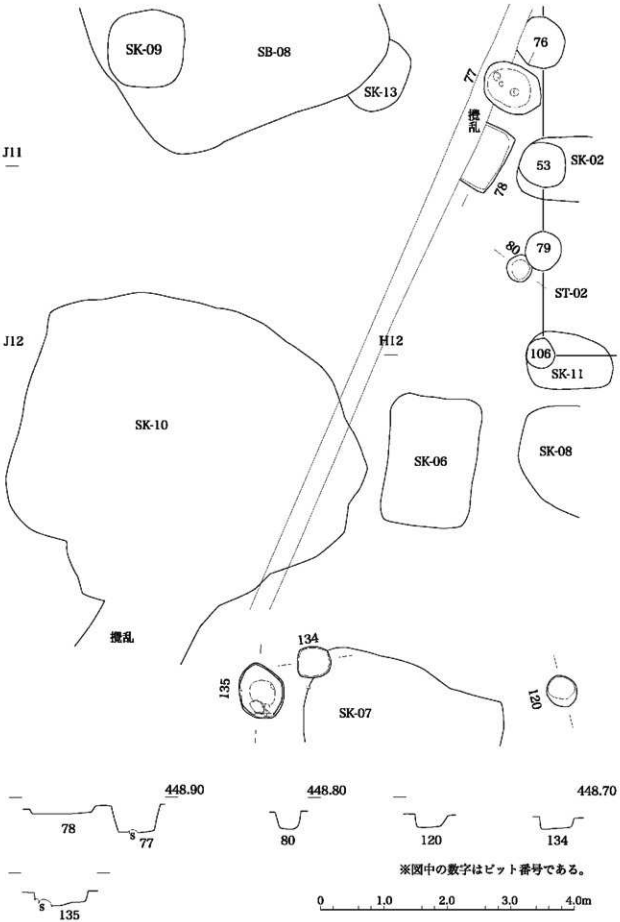

SK-09
SB-08
SK-13
J11
76
77
攪乱
53
SK-02
78
80
79
ST-02
J12
H12
106
SK-11
SK-10
SK-06
SK-08
攪乱
134
135
SK-07
120
448.90
448.80
448.70
78
S
77
80
120
134
S
135
※図中の数字はピット番号である。
0
1.0
2.0
3.0
4.0m

図 64　P 実測図 (4)

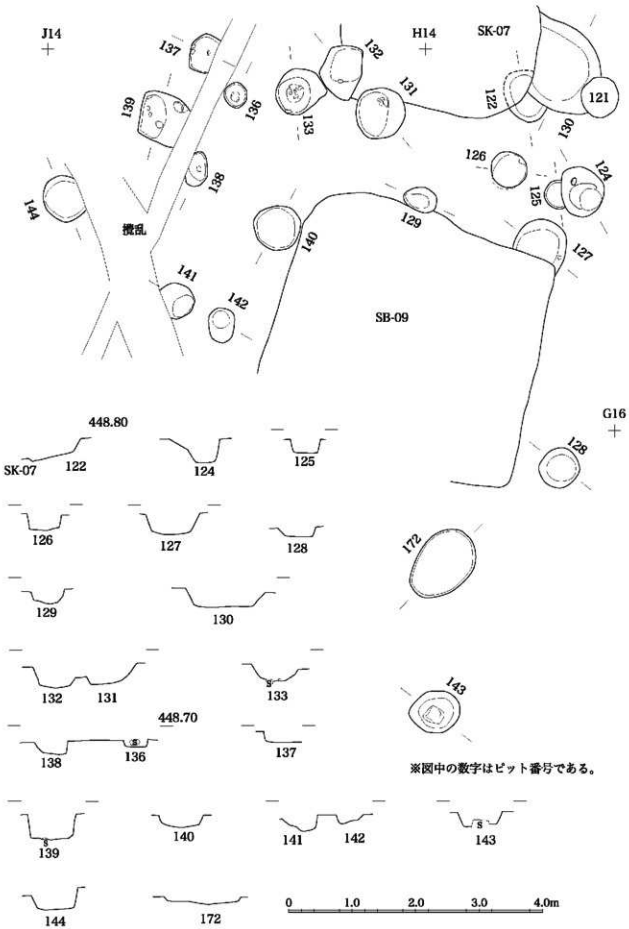
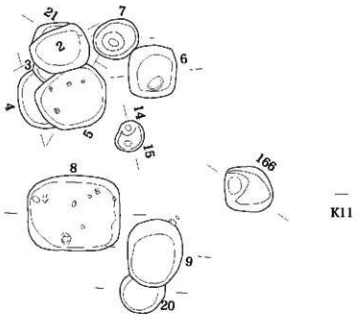
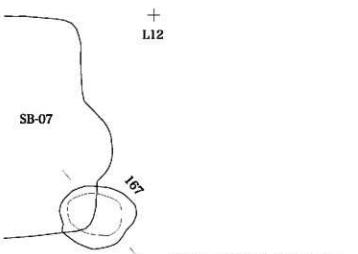

J14
H14
SK-07
G16
SB-09
攪乱
448.80
448.70
※図中の数字はピット番号である。
0 1.0 2.0 3.0 4.0m

図65　P実測図(5)





※図中の数字はピット番号である。

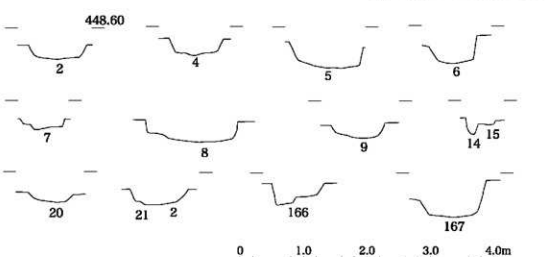


図 66　P 実測図 (6)

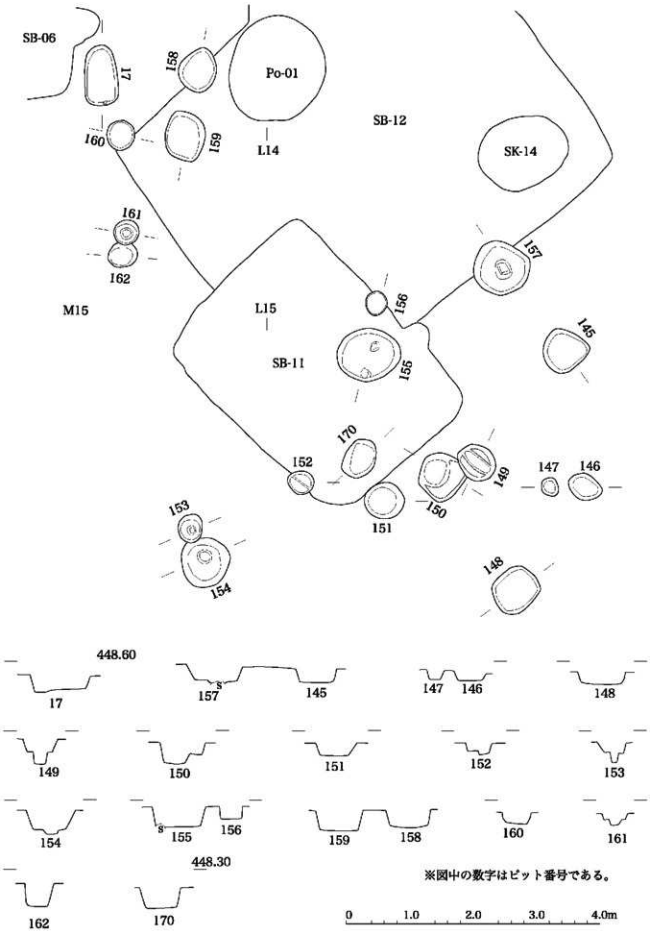

SB-06
17
158
Po-01
159
160
L14
SB-12
SK-14
161
162
157
M15
L15
156
145
SB-11
155
170
152
149
147
146
153
150
151
154
148
448.60
17
157
S
145
147
146
148
149
150
151
152
153
154
S
155
156
159
158
160
161
448.30
162
170
※図中の数字はピット番号である。
0
1.0
2.0
3.0
4.0m

図 67　P 実測図 (7)

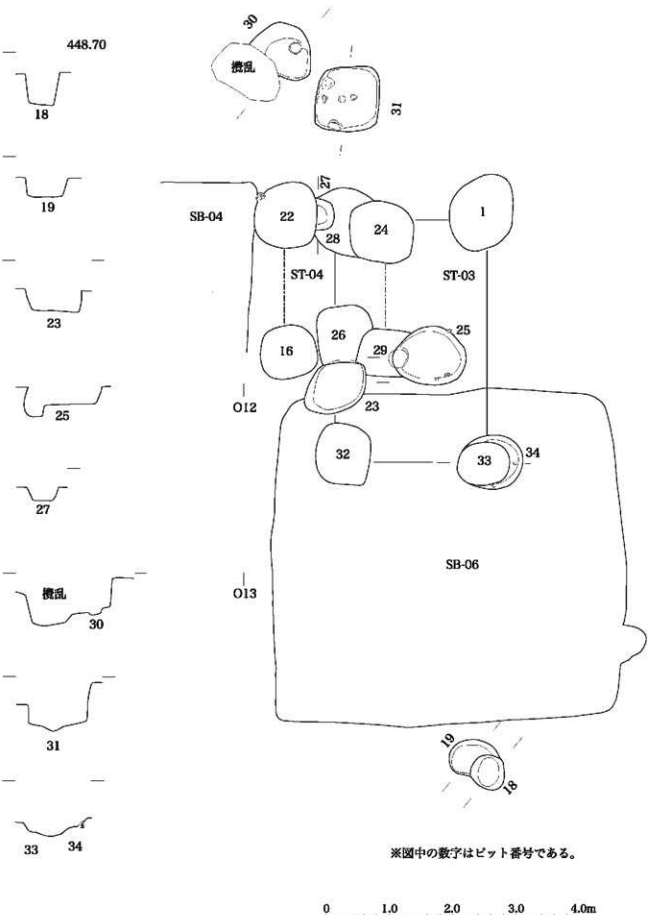
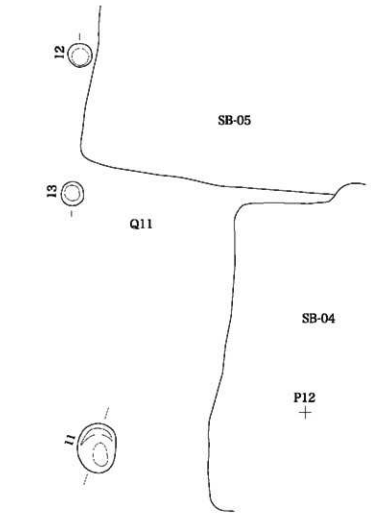
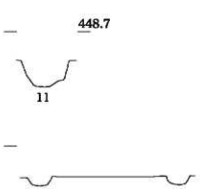

448.70
18
19
23
25
27
機乱
30
31
33
34
機乱
30
31
SB-04
22
27
28
24
1
ST-04
ST-03
16
26
29
25
O12
23
32
33
34
SB-06
O13
19
18
※図中の数字はピット番号である。
0
1.0
2.0
3.0
4.0m

図 68　P 実測図 (8)





※図中の数字はピット番号である。

0 1.0 2.0 3.0 4.0m

図 69　P 実測図 (9)

第3節　遺　物

(1) 土器

1　SB-01

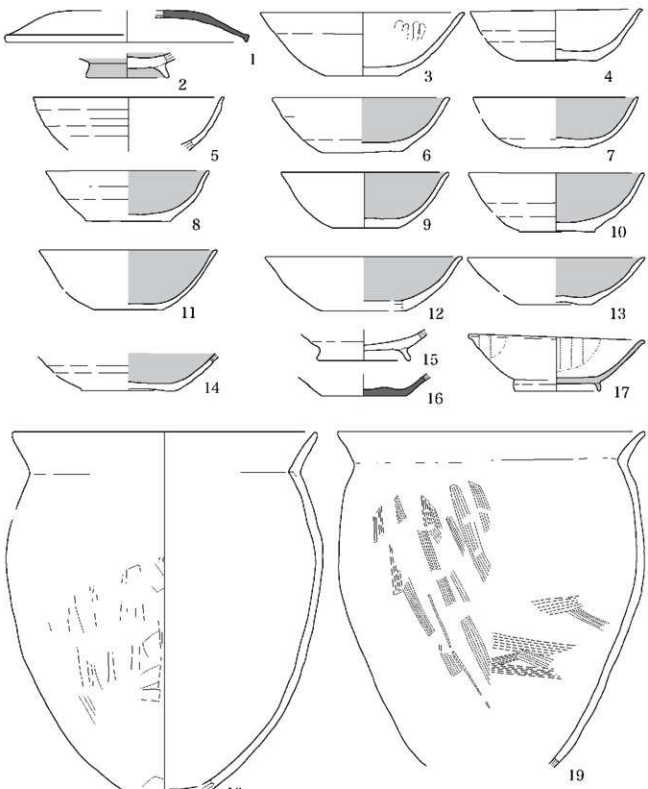


図70　SB-01出土土器実測図(1)

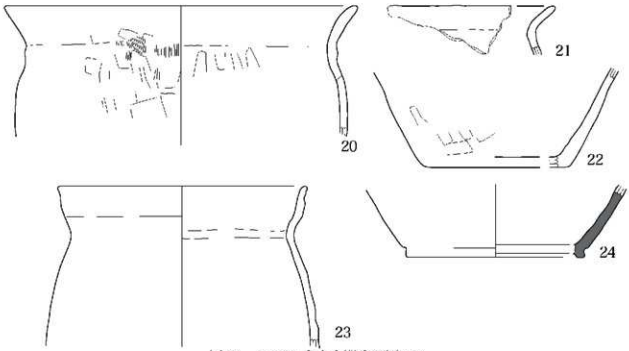


図 71　SB-01 出土土器実測図 (2)

2　SB-02

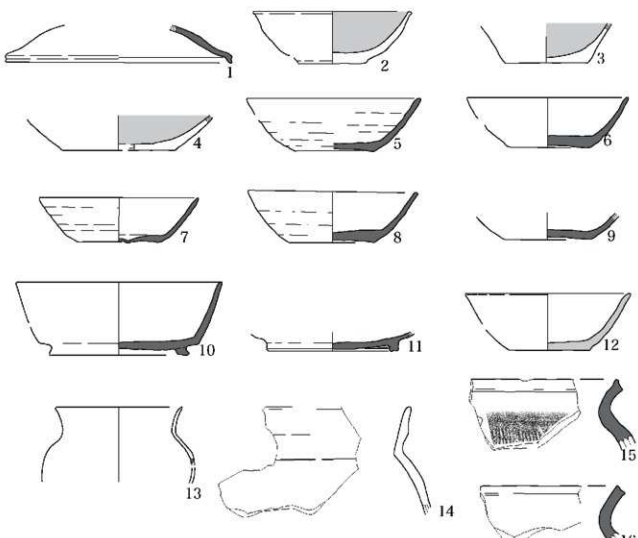


図 72　SB-02 出土土器実測図

3 SB-03

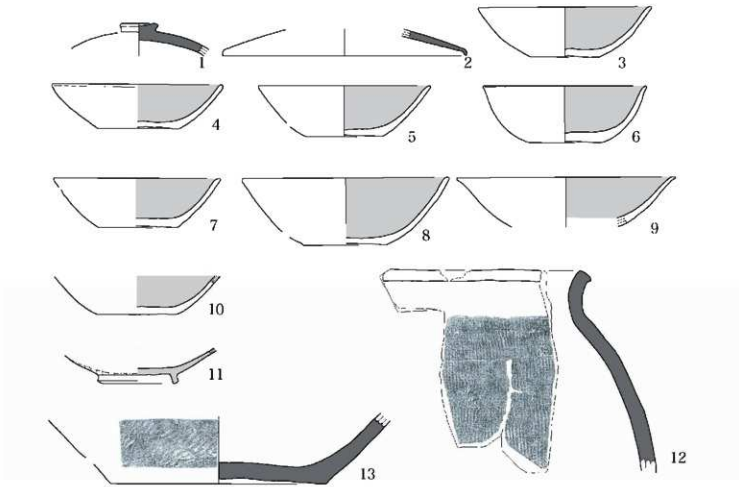


図 73　SB-03 出土土器実測図

4 SB-04

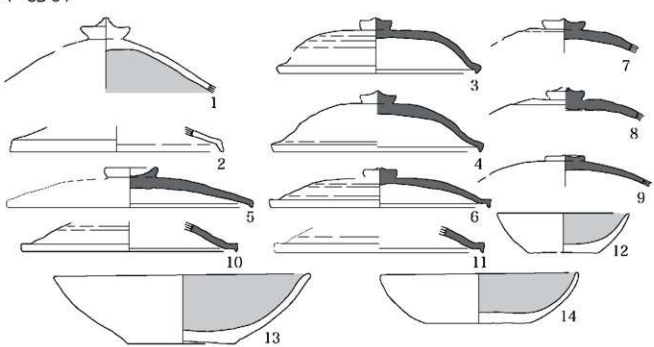


図 74　SB-04 出土土器実測図 (1)

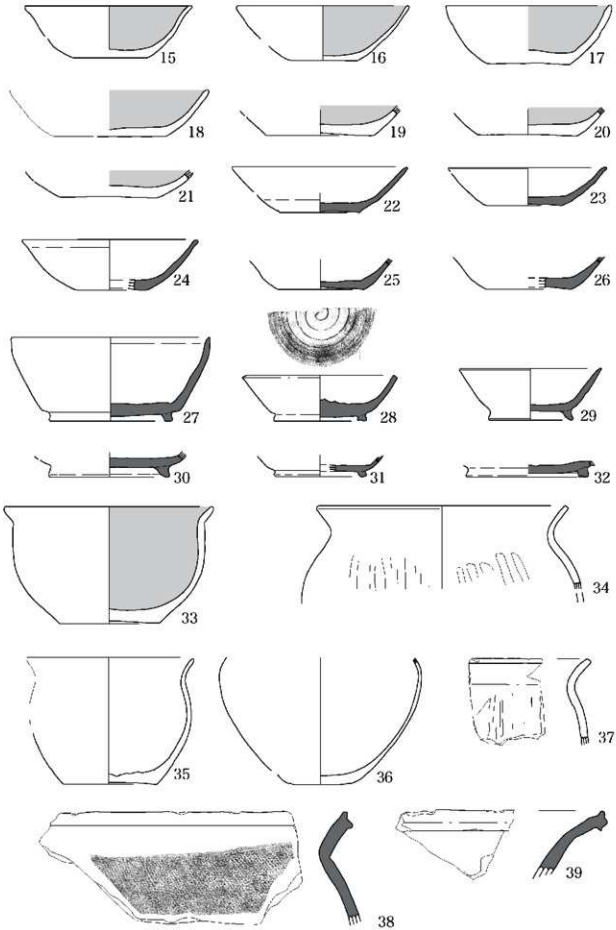


図 75　SB-04 出土土器実測図 (2)

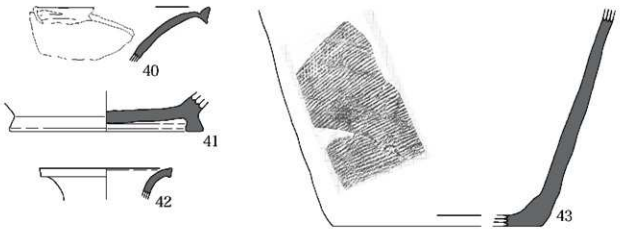


図 76　SB-04 出土土器実測図 (3)

5　SB-05

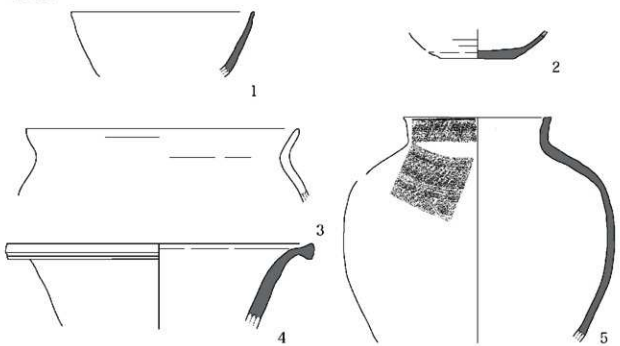


図 77　SB-05 出土土器実測図

6　SB-06

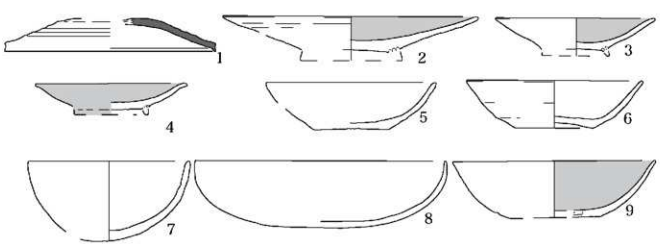


図 78　SB-06 出土土器実測図 (1)

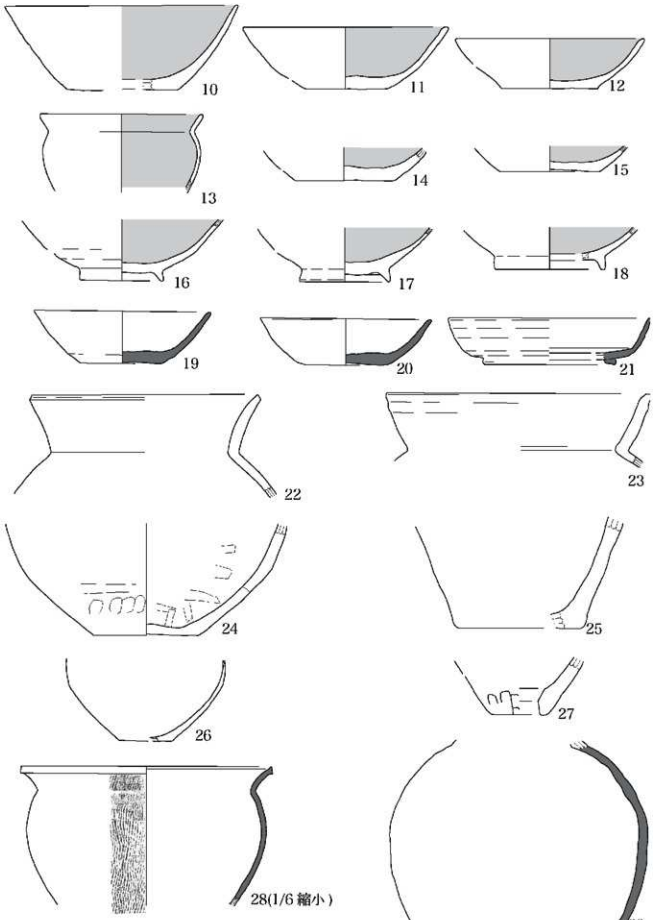


図 79　SB-06 出土土器実測図 (2)

7 SB-07

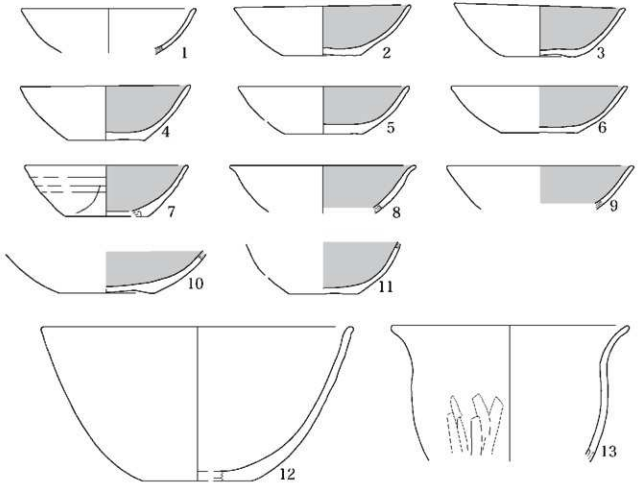


図 80　SB-07 出土土器実測図

8 SB-08

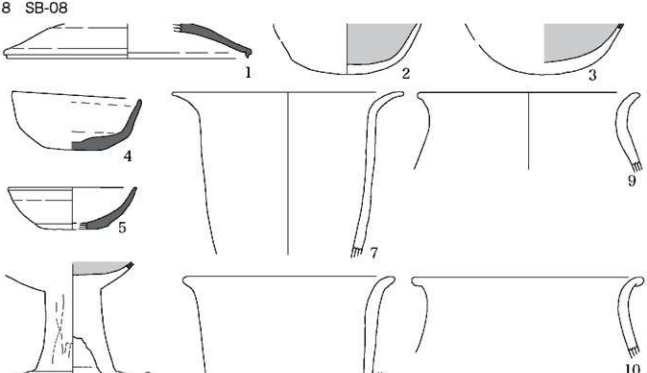


図 81　SB-08 出土土器実測図 (1)

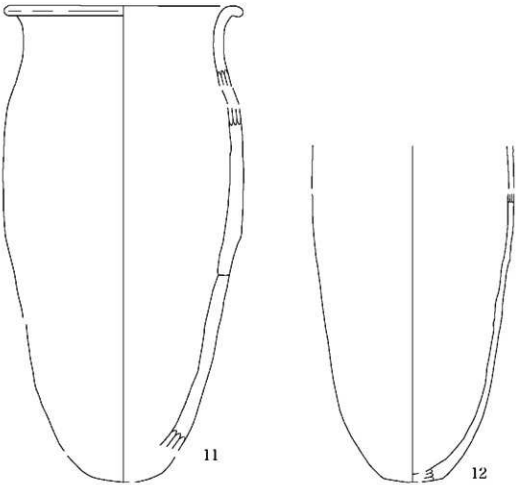


図 82　SB-08 出土土器実測図 (2)

9　SB-09

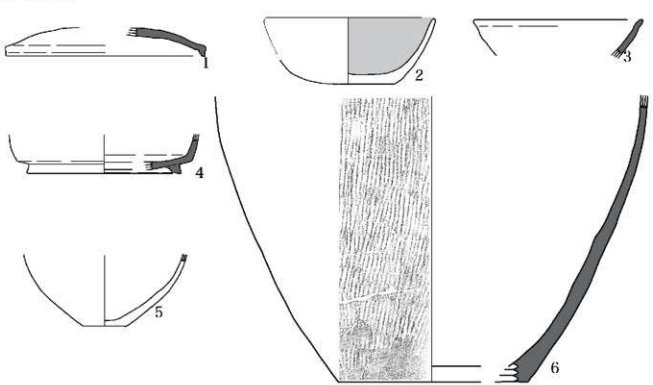


図 83　SB-09 出土土器実測図

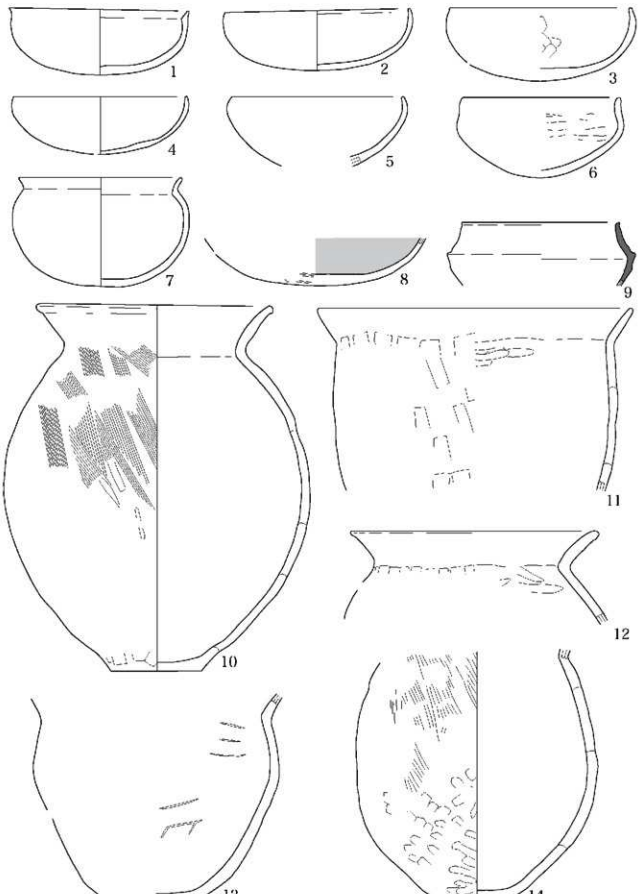


図 84　SB-10 出土土器実測図

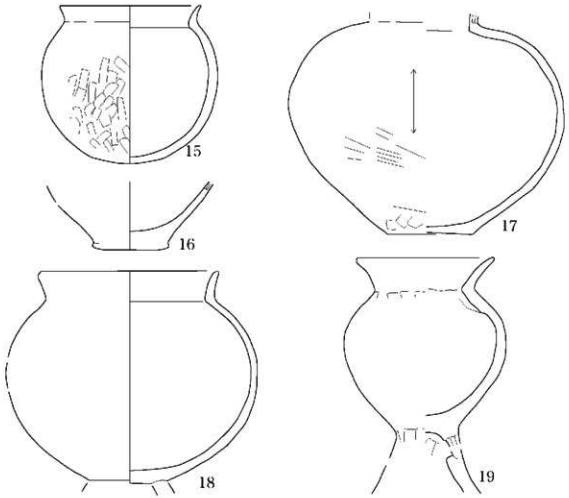


図 85　SB-10 出土土器実測図 (2)

11　SB-11

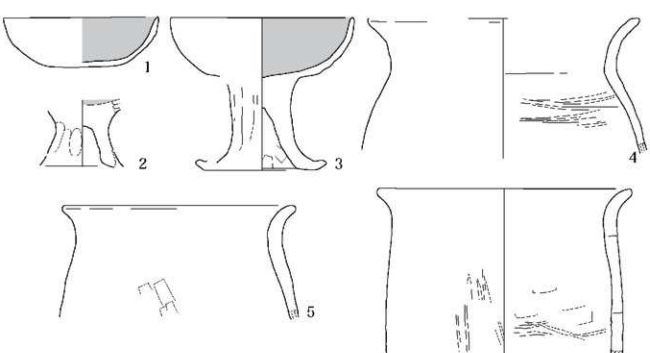


図 86　SB-11 出土土器実測図

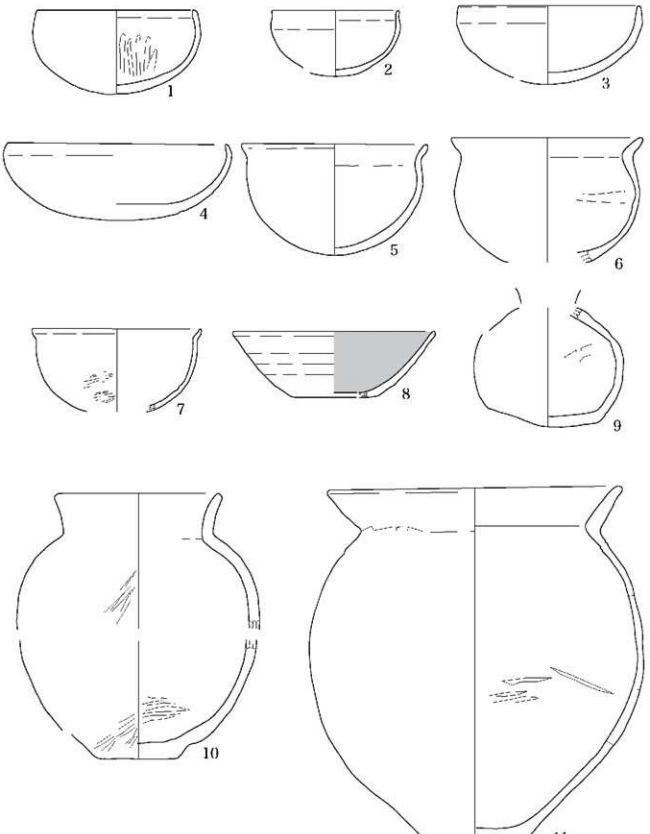


図 87　SB-12 出土土器実測図 (1)

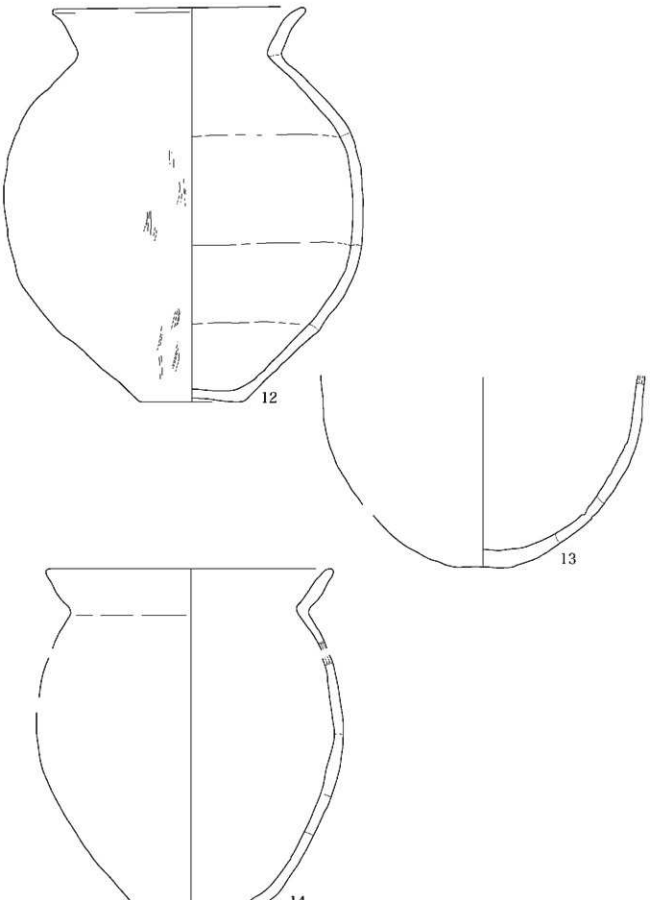


図 88　SB-12 出土土器実測図 (2)

13 SB-13

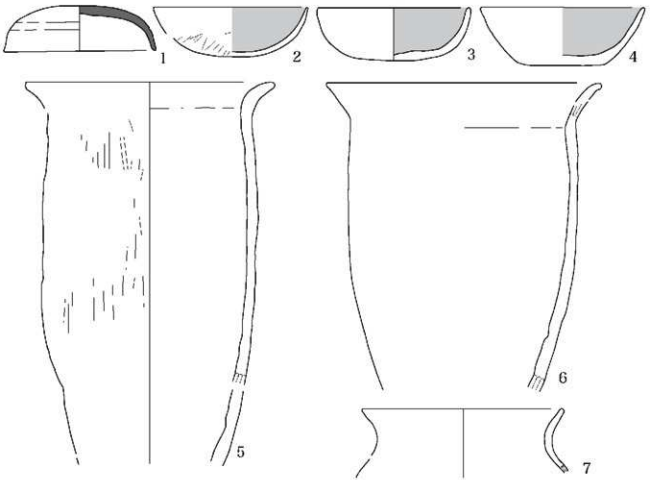


図 89　SB-13 出土土器実測図

14 SK

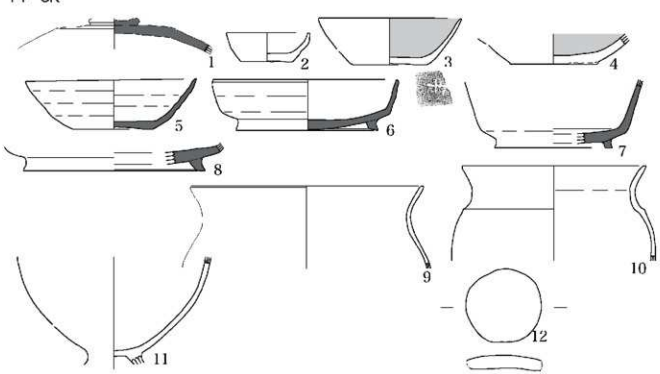


図 90　SK-02 出土土器実測図

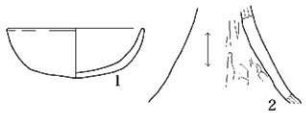


図 91　SK-03 出土土器実測図

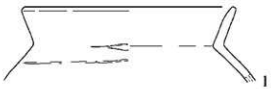


図 92　SK-04 出土土器実測図

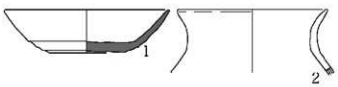


図 93　SK-05 出土土器実測図

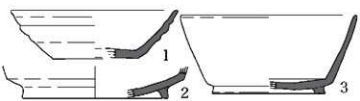


図 94　SK-06 出土土器実測図

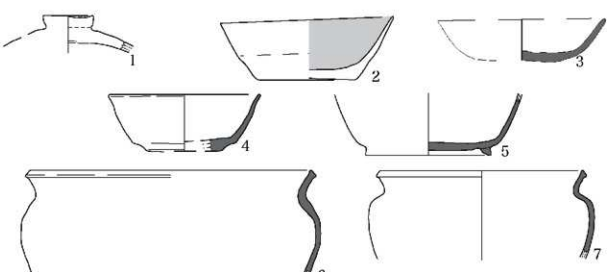


図 95　SK-07 出土土器実測図

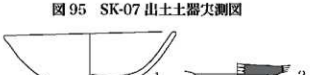


図 96　SK-08 出土土器実測図

図 97　SK-10 出土土器実測図 (1)

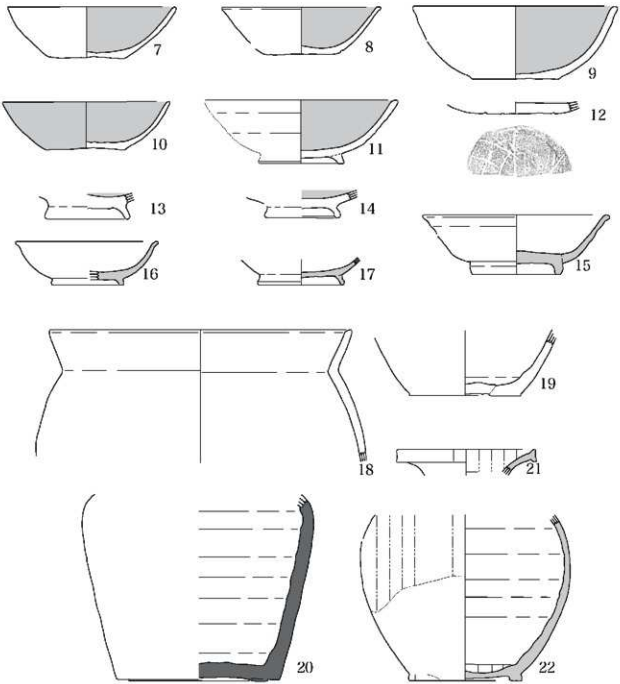


図 98　SK-10 出土土器実測図 (2)

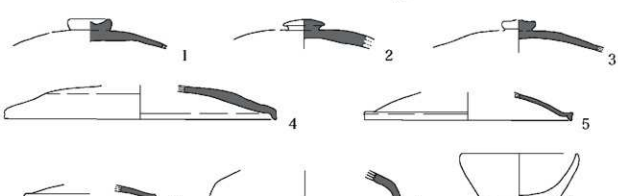


図 99　SK-15 出土土器実測図 (1)

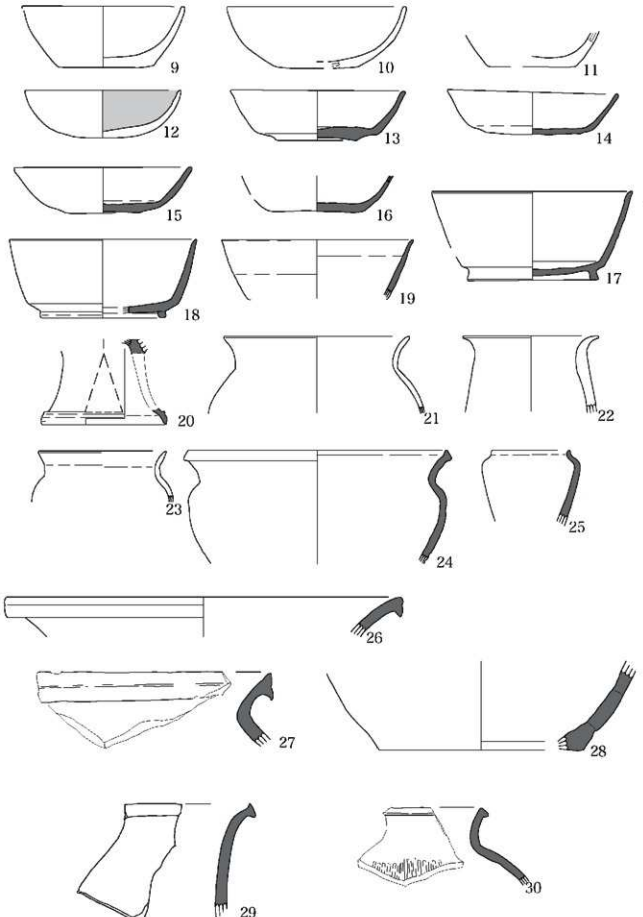
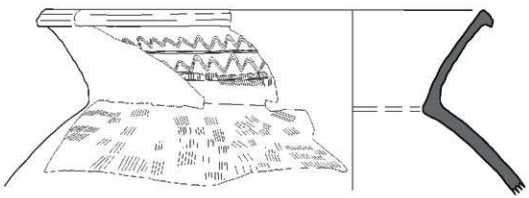


図 100　SK-15 出土土器実測図 (2)

15 SD

図 101　SD-01 出土土器実測図

16 Po



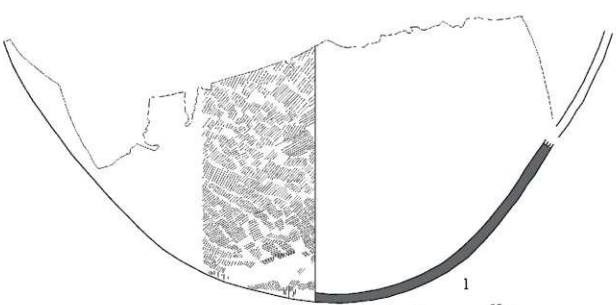


図 102　Po-01 出土土器実測図

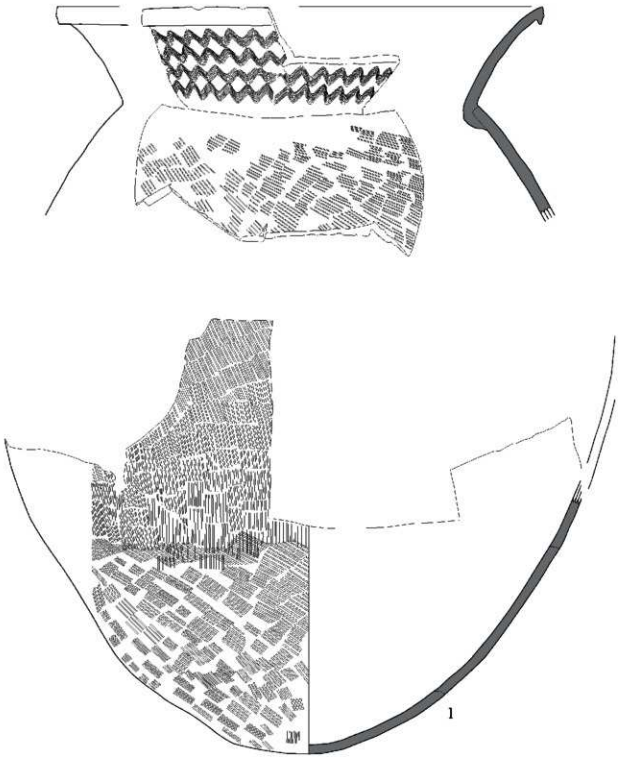


図 103　Po-02 出土土器実測図

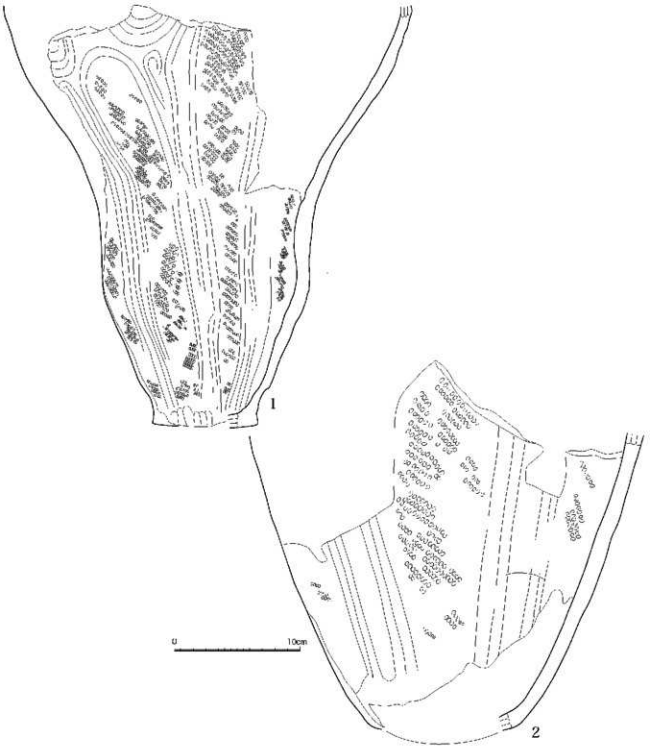


図 104　Po-04,05 出土土器実測図

17 P

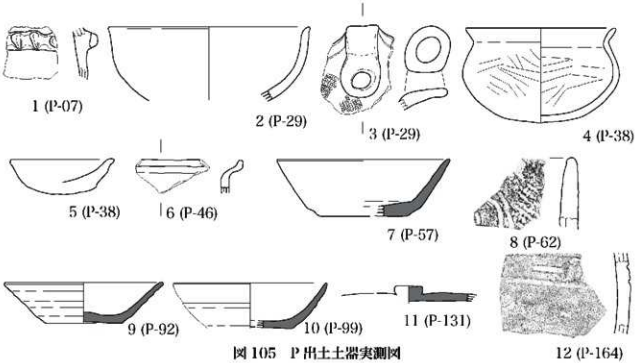


図 105　P 出土土器実測図

18　遺構外 [歴史時代]

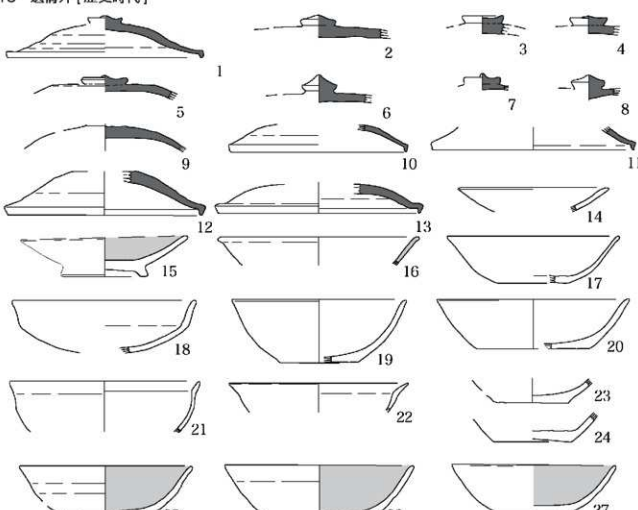


図 106　遺構外出土土器実測図 [歴史時代](1)

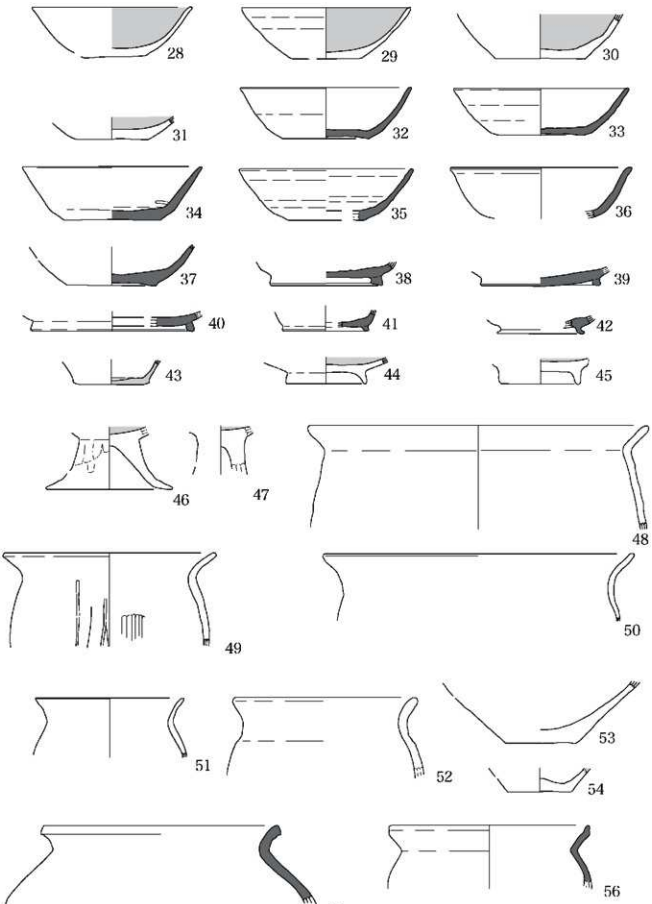


図 107　遺構外出土土器実測図［歴史時代］(2)

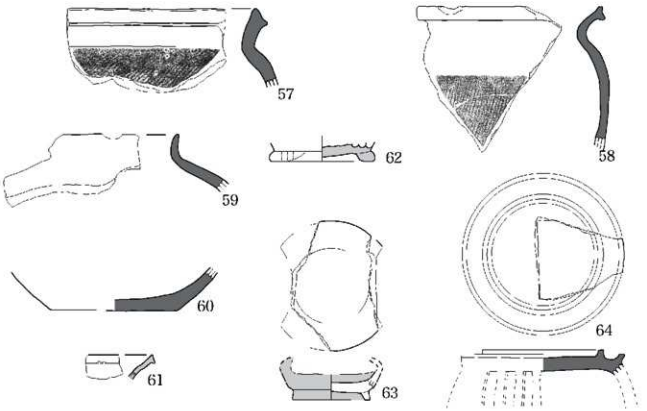


図 108　遺構外出土土器実測図 [歴史時代](3)

19　遺構外 [縄文時代]

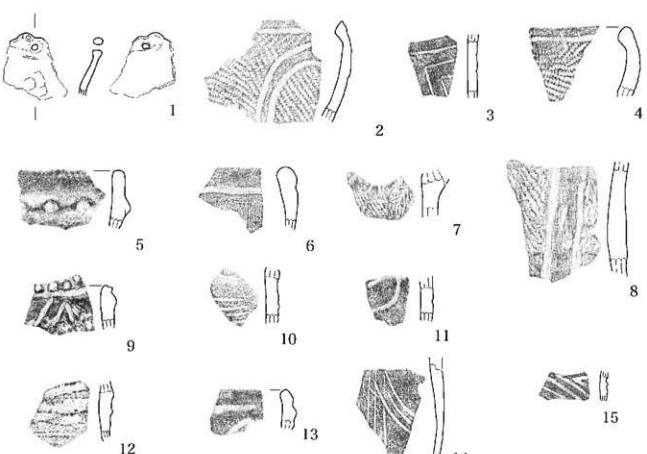


図 109　遺構外出土土器実測図 [縄文時代](1)

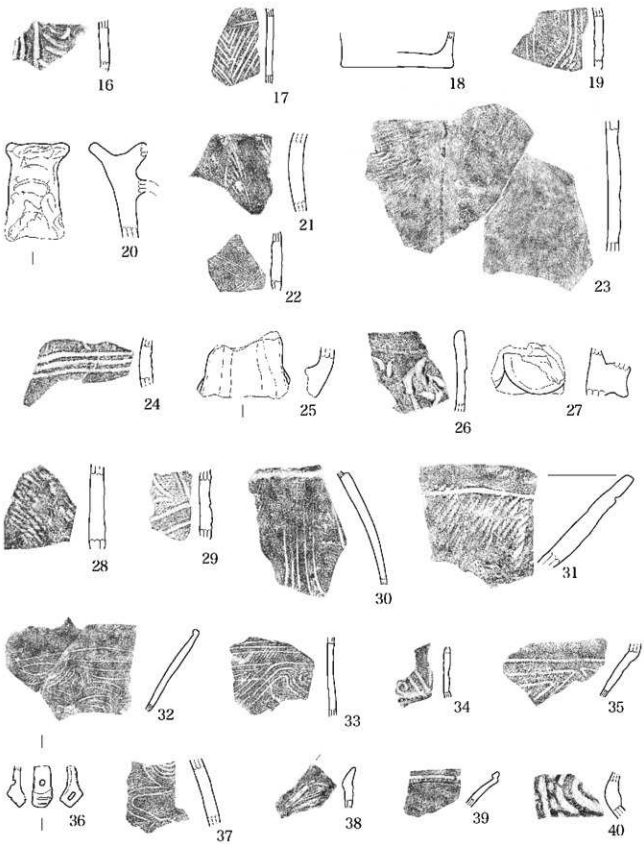


図 110　道構外出土土器実測図 [縄文時代](2)

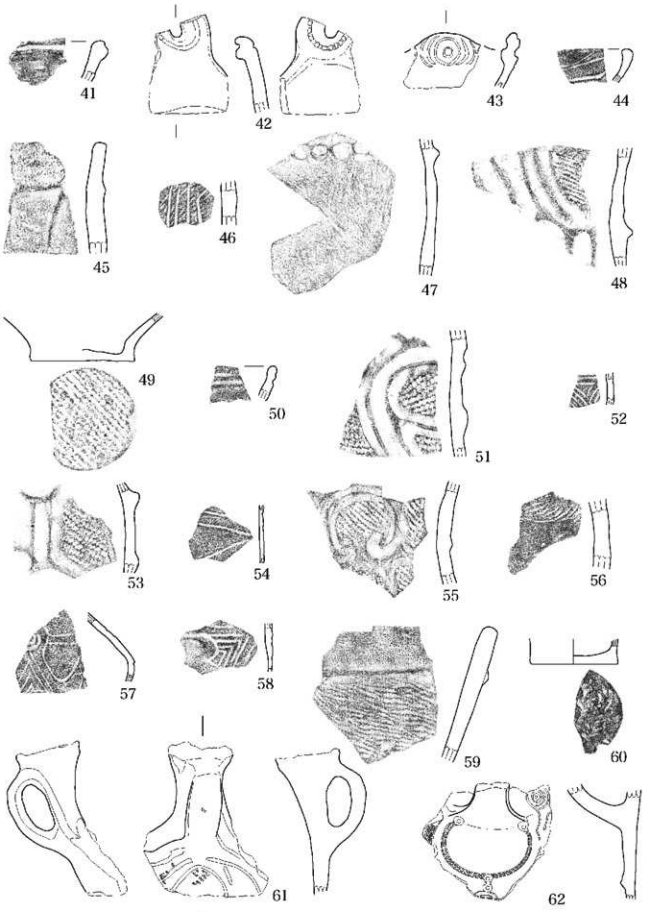


図 111　遺構外出土土器実測図 [縄文時代](3)

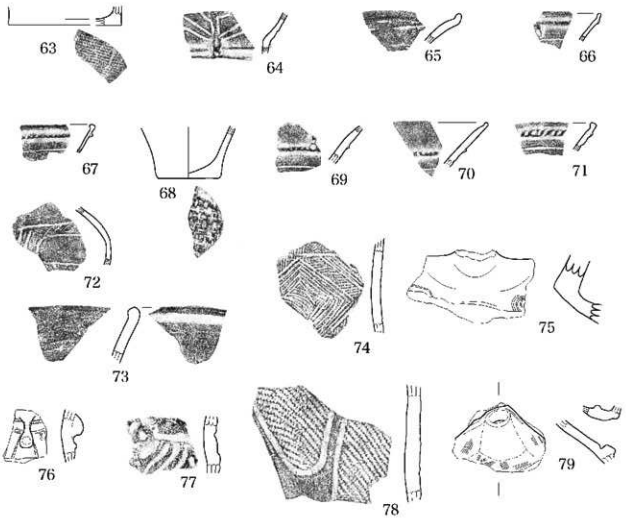


図 112　遺構外出土土器実測図「縄文時代」(4)

(2) 金属器

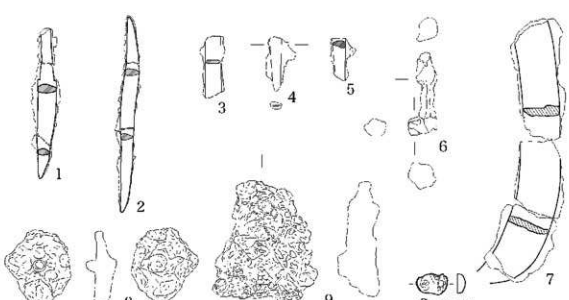


図 113　出土金属器実測図 (1)

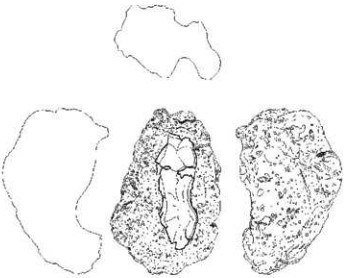


図 114　出土金属器実測図 (2)

(3) 石器・土製品

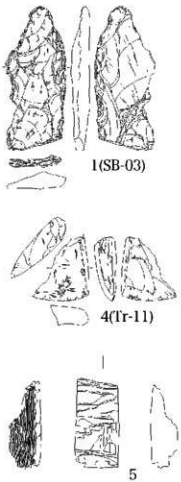


図 115　出土石器実測図

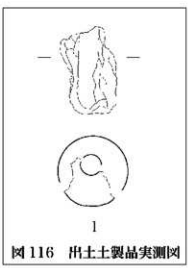


図 116　出土土製品実測図

図	No	遺構	番号	種類	器種	口径	器高	底径	残存	胎土	焼成	外面色調	内面色調	成形・形態	外面調整	内面調整	備考
70	1	SB	01	須恵器	壺	~	2.5	19.4	胴部1/6	粗砂粒、礫を含む	良好	7.5Y5/1灰	N3/灰	胴部は僅かに内傾する	轆轤による調で	轆轤による調で	補部自然釉
70	2	SB	01	土師器	皿	~	1.9	6.4	高台部2/3	粗砂粒、礫を含む	良好	黒	黒	横轆成形 付け高台	轆轤による調で 黒色処理	放射状の調磨き 黒色処理	
70	3	SB	01	土師器	坏	16.3	5.0	5.8	口縁~底部完存	細砂粒、0.5の礫を含む	良好	5YR6/8橙~7.5YR6/6橙	10YR5/2灰黄褐~7.5YR7/6橙	轆轤成形 小反りの平底より体部は残く内湾して立ち上がる	(口縁~体部)轆轤による調で (底部回転糸切り	轆轤による調で 指頭あり 黒色処理?	
70	4	SB	01	土師器	坏	13.8	4.1	6.4	口縁~底部1/2強	粗砂粒、礫を含む	良好	5YR5/6明赤褐	5YR5/6明赤褐	轆轤成形 平底より体部は内湾して立ち上がる	(口縁~体部)轆轤による調で (底部回転糸切り	轆轤による調で	
70	5	SB	01	土師器	坏	13.2	4.3	~	口縁部1/5	石英、粗砂粒、礫を含む	良好	7.5YR6/4にぶい橙	5YR5/6明赤褐~7.5YR3/1黒褐	轆轤成形 浅い椀を有する体部は外傾して開く	(口縁~体部)横轆による調で	調で	
70	6	SB	01	土師器	坏	13.9	4.3	6.3	完存	粗砂粒を含む	良好	7.5YR6/6橙	黒	轆轤成形 平底より体部は僅かに内湾して立ち上がる	(口縁~体部)轆轤による調で (底部回転糸切り後周調整	調で 黒色処理	
70	7	SB	01	土師器	坏	13.2	4.0	5.3	口縁~底部1/2	石英、雲母、粗砂粒を含む	良好	10YR6/4にぶい黄橙	黒	轆轤成形 平底より体部は内湾して立ち上がる	(口縁~体部)轆轤による調で (底部回転糸切り	調で 黒色処理	
70	8	SB	01	土師器	坏	12.9	4.0	6.7	口縁~体部5/6 底部完存	石英、雲母、粗砂粒を含む	良好	10YR4/2灰黄褐	黒	轆轤成形 平底より体部は内湾して立ち上がる	(口縁~体部)轆轤による調で (底部回転糸切り	調で 黒色処理	
70	9	SB	01	土師器	坏	13.2	4.4	5.3	口縁~底部1/3	細砂粒、礫を含む	良好	7.5YR5/4にぶい褐~2/1黒	黒	轆轤成形 平底より体部は内湾して立ち上がる	(口縁~体部)轆轤による調で (底部回転糸切り	磨き 黒色処理	
70	10	SB	01	土師器	坏	13.6	4.7	6.0	口縁部1/3~底部完存	雲母、石英、粗砂粒、礫を含む	良好	7.5YR6/4にぶい橙	黒	横轆成形 上げ底気味の平底より内湾して立ち上がる	(口縁~体部)横轆による調で (底部回転糸切り後周調整	磨き 黒色処理	
70	11	SB	01	土師器	坏	14.0	4.8	5.4	口縁~底部1/2	石英、粗砂粒、礫を含む	良好	7.5YR7/4にぶい橙	黒	横轆成形 平底より体部は僅かに内湾して立ち上がる	(口縁~体部)横轆による調で (底部回転糸切り	縦、横の磨き 黒色処理	
70	12	SB	01	土師器	坏	13.6	4.3	6.6	口縁部1/5~底部	雲母、粗砂粒、礫を含む	良好	7.5YR6/4にぶい橙	黒	横轆成形 平底より体部は内湾して立ち上がる	(口縁~体部)横轆による調で (底部回転糸切り	磨き 黒色処理	
70	13	SB	01	土師器	坏	14.1	3.8	5.7	口縁部 底~底部3/4	粗砂粒を含む	良好	5YR7/4にぶい橙	黒褐色(5YR6/6橙)	横轆成形 上げ底気味の底部より内湾して立ち上がる	横轆による調で	磨き 黒色処理 (調痕)	
70	14	SB	01	土師器	坏	~	3	7.4	体~底部完存	粗砂粒、礫を含む	良好	10YR6/4にぶい黄橙	黒	轆轤成形 体部は稜を有して立ち上がる	(体部)横轆による調で (底部回転糸切り	放射状の磨き 黒色処理	

表11 SB土器観察表(1)

図	No	遺構	番号	種類	器種	口径	器高	底径	残存	胎土	焼成	外面色調	内面色調	成形・形態	外面調整	内面調整	備考
70	15	SB	01	土師器	鉢	～	2.4	7.4	体部下位～底部1/2	雲母、短針状を含む	良好	5YR6/6橙	7.5YR6/6橙	輪積成形　付け高台	(高台部)横位の撫で(底部)回転糸切り後撫で	撫で	
70	16	SB	01	須恵器	坏	～	1.7	6.8	底部1/2～体部下位一部	短針状を含む	良好	7.5Y6/1灰	7.5Y6/1灰	輪積成形　平底	(口縁～体部)輪積による撫で　(底部)回転糸切り	輪積による撫で	
70	17	SB	01	灰釉陶器	坏	13.6	4.5	6.3	口縁部3/4	細砂粒、礫を含む	良好	7.5Y6/1灰	7.5Y6/1灰	輪積成形　付け高台より体部は僅かに内傾して開く	輪積による撫で	輪積による撫で	内外面に灰釉がみられる
70	18	SB	01	土師器	甕	23.8	29.3	―	体部下位～底部1/2	細砂粒、礫を含む	良好	5YR5/4にぶい赤褐～3/3暗赤褐	5YR5/4にぶい赤褐～3/3暗赤褐	丸底より撫やかな曲線の胴部を経て外反する口縁部に至る	(口縁部)横撫で　(胴部)箆削り	(口縁部)横撫で	
70	19	SB	01	土師器	甕	24.2	26.7	―	口縁部1/3～胴部	細砂粒、礫を含む	良好	7.5YR6/4にぶい橙～3/3　暗褐	7.5YR6/4にぶい橙	肥土帯積み上げ　撫やかな曲線を描く胴部より外反する口縁部に至る	(口縁～頸部)横撫で(胴部)箆削り　縄毛調整	(口縁～頸部)横撫で(胴部)箆削り　縄毛調整	
71	20	SB	01	土師器	甕	27.6	10.3	―	口縁部1/4～胴部	雲母は、細砂粒、礫を含む	良好	5YR5/6明赤褐～4/4にぶい赤褐	5YR4/3にぶい赤褐	肥土帯積み上げ　口縁部は外反する	(口縁部)横撫で　(胴部)縄毛調整　(頸部)箆削り	荒削り　撫で	
71	21	SB	01	土師器	甕	―	3.9	―	口縁部一部	雲母、細砂粒を含む	良好	7.5YR6/4にぶい橙	7.5YR6/4にぶい橙	口縁部は「く」の字状に外反する	横撫で	横撫で	
71	22	SB	01	土師器	甕	―	7.8	11.4	胴部下位～底部一部	石英、雲母、短針粒、礫を含む	良好	5YR7/3にぶい橙～7/6橙	5YR3/4にぶい赤褐	平底	(胴部)荒削り　磨き	(胴部)横撫で　磨き調整	
71	23	SB	01	土師器	甕	19.9	12.8	―	口縁～胴部一部	細砂粒を含む	酸化焼成	2.5YR6/4にぶい橙～5/4にぶい赤褐	7.5YR6/4にぶい橙	輪積成形　口縁部は「く」の字状に外反し、口縁部中位肥厚する	横撫による撫で	(口縁部)撫で　縄毛調整　(頸部)横撫で(胴部)縄毛調整	
71	24	SB	01	須恵器	甕	―	5.7	14.1	胴部下位～底部一部	細砂粒、礫を含む	良好	5Y6/2灰オリーブ	5Y6/1灰	輪積成形　付け高台	横撫による撫で	横撫による撫で	
72	1	SB	02	須恵器	壺	―	2.9	18.0	胴部一部	細砂粒を含む	良好	7.5Y6/1灰～5/1灰	7.5Y6/1灰～5/1灰	輪積成形　胴部部は緩を有して短く屈曲する	横撫による撫で	横撫による撫で	
72	2	SB	02	土師器	坏	12.4	4.2	5.4	口縁～体部1/4　底部完存	雲、細砂粒を含む	良好	7.5YR6/4にぶい橙	黒	輪積成形　平底より体部は内傾して口縁に至る	(口縁～体部)輪積による撫で(底部)回転糸切り	放擦き　黒色処理	
72	3	SB	02	土師器	坏	―	3.1	6.4	底部1/3	雲母は、細砂粒を含む	良好	7.5YR5/4にぶい褐	黒	平底から体部は外傾して立ちあがる	(体部)撫で(底部)箆削り	放擦き　黒色処理	
72	4	SB	02	土師器	坏	―	2.7	9.0	底部一部	細砂粒を含む	良好	2.5YR5/6明赤褐	黒	輪積成形　平底から体部は外傾して開く	(体部)輪積による撫で　(底部)撫で	放擦き　黒色処理	

表12　SB土器観察表(2)

図	No	遺構	番号	種類	器種	口径	器高	底径	残存	胎土	焼成	外面色調	内面色調	成形・形態	外面調整	内面調整	備考
72	5	SB	02	須恵器	坏	13.8	4.2	6.8	口縁～体部1/3 底部完存	粗砂粒を含む	良好	10Y7/1灰白	10Y7/1灰白	横轆成形 上げ遅気味の底部より体部内外面に稜を有して立ち上がる	(口縁～体部)横轆による撫で (底部)回転糸切り	横轆による撫で	
72	6	SB	02	須恵器	坏	13.0	4.0	6.3	口縁～体部1/2 底部完存	粒は、細砂粒含む	良好	7.5Y6/1灰 7.5Y6/1灰	7.5Y6/1灰	横轆成形 上げ遅から体部は外傾して開き口縁に至る	(口縁～体部)横轆による撫で (底部)回転糸切り	横轆による撫で	
72	7	SB	02	須恵器	坏	12.6	3.5	6.5	1/2	粗砂粒を含む	良好	10Y4/1灰～7.5Y5/1灰	7.5Y5/1灰	横轆成形 上げ遅から体部外面に浅い稜を有して立ち上がる	(口縁～体部)横轆による撫で (底部)回転糸切り	横轆による撫で	
72	8	SB	02	須恵器	坏	13.4	4.2	6.8	口縁～体部2/3 底部完存	粗砂粒を含む	酸化炎焼成	2.5YR1/2灰赤～3/2暗赤褐	2.5YR4/2灰赤～3/2暗赤褐	横轆成形 上げ遅気味の底部から体部は内傾して立ち上がる	(口縁～体部)横轆による撫で (底部)回転糸切り	横轆による撫で 火膨あり	
72	9	SB	02	須恵器	坏	～	2.2	6.9	底部1/2	礫、細砂粒を含む	良好	7.5Y6/1灰～4/1灰	10Y6/1灰～4/1灰	横轆成形 上げ遅気味の底部から外傾して立ち上がる	(体部)横轆による撫で (底部)回転糸切り 火膨あり	横轆による撫で	
72	10	SB	02	須恵器	坏	16.3	5.8	10.5	口縁～体部1/4 底部完存	礫、粗砂粒を含む	良好	10Y4/1灰	10Y4/1灰	横轆成形 付け高台の底部から体部は屈曲外傾して立ち上がる	(口縁～体部)横轆による撫で (底部)回転糸切りの痕跡残存	横轆による撫で	
72	11	SB	02	須恵器	坏	～	1.5	10.2	体部 ～底部3/4	粗砂粒を含む	良好	10Y6/1灰	10Y6/1灰	横轆成形 付け高台	(体部)横轆による撫で (底部)回転糸切りの痕跡調整	横轆による撫で	
72	12	SB	02	灰釉陶器	坏	13.1	4.5	6.4	口縁～体部1/4 底部完存	礫、細砂粒を含む	良好	7.5Y7/1灰白	7.5Y7/1灰白	横轆成形 平底から僅かに内傾して立ち上がる	(口縁～体部)横轆による撫で (底部)回転糸切り	横轆による撫で	
72	13	SB	02	土師器	甕	10.0	5.9	～	口縁～胴部 ～部	石英、粗砂粒を含む	やや不良	7.5YR5/3にぶい褐	5YR6/3にぶい橙～3/2黒褐	小型の甕		(口縁部)横位の撫で	
72	14	SB	02	土師器	甕	～	8.5	～	口縁～胴上部～部	礫、細砂粒を含む	良好	5YR6/6橙	5YR6/6橙	口縁部は緩く外反する 最大径は胴部	横位の撫で	(口縁部)横位の調毛E (胴部)斜位の調毛L	
72	15	SB	02	須恵器	甕	～	5.5	～	口縁～胴部～部	細砂粒を含む	良好	10Y6/1灰～4/1灰	10Y5/1灰	横轆成形 外反する口縁は端部を短く折り返し、口縁帯を作る	(口縁)横轆による撫で (胴部)平行文工具による撫で	横轆による撫で	
72	16	SB	02	須恵器	甕	～	4.8	～	口縁 ～部	礫、粗砂粒を含む	良好	10Y4/1灰～3/1オリーブ黒	5GY4/1暗オリーブ灰	横轆成形 外反する口縁は端部を短く折り返し、口縁帯を作る	(口縁)横轆による撫で	横轆による撫で	

表13 SB土器観察表(3)

図	No	遺構	番号	種類	器種	口径	器高	底径	残存	胎土	焼成	外面色調	内面色調	成形・形態	外面調整	内面調整	備考
73	1	SB	03	須恵器	蓋	3.0	2.5		抓み部完存　天井部上位一部	粗砂粒を含む	良好	N5/灰～N3/暗灰	N5/灰～N3/暗灰	機械成形　ボタン状の抓み部から張りのある天井部が開く火庫	機械による撫で	機械による撫で	
73	2	SB	03	須恵器	蓋	～	2.0	19.4	裾部1/6	粗砂粒、礫を含む	良好	10Y4/1灰	7.5Y4/1灰	機械成形　裾端部に直立する	軸線による撫で	軸線による撫で	
73	3	SB	03	土師器	坏	13.6	3.9	5.4	完存	粗砂粒、礫、石英を含む	良好	5YR6/6橙	黒	軸線成形　上げ底気味の底部から体部に内弯して立ち上がる	口縁～体部:軸線による撫で(底部)回転糸切り	軸線による撫での後(口縁部)横位の箆磨き(体部)放射状箆磨き　黒色処理	
73	4	SB	03	土師器	坏	13.7	3.5	6.5	口縁～体部1/2強底部ほぼ完存	粗砂粒、礫を含む	良好	7.5YR7/4にぶい橙～黒	黒	軸線成形　上げ底気味の底部から体部は緩く内弯して立ち上がる	口縁～体部:軸線による撫で(底部)回転糸切り	軸線による撫での後箆磨き　黒色処理	
73	5	SB	03	土師器	坏	13.7	4.0	6.0	口縁～体部1/3　底部完存	粗砂粒を含む	良好	5YR7/4にぶい橙	黒	軸線成形　上げ底気味の底部から体部に緩く内弯して立ち上がる	口縁～体部:軸線による撫で(底部)回転糸切り	軸線による撫での後箆磨き　黒色処理	
73	6	SB	03	土師器	坏	13.0	4.5	5.8	口縁～体部1/4　底部3/4	粗砂粒を含む	良好	7.5YR7/4橙	黒	軸線成形　上げ底気味の底部から体部に内弯して立ち上がる	口縁～体部:軸線による撫で(底部)回転糸切りの後箆削り	軸線による撫での後箆磨き　黒色処理	
73	7	SB	03	土師器	坏	13.3	3.9	6.2	口縁～体部1/2　底部完存	粗砂粒、礫、石英を含む	良好	5YR6/4にぶい橙	黒	軸線成形　上げ底気味の底部から体部に緩やかに内弯して立つ	口縁～体部:軸線による撫で(底部)回転糸切り	軸線による撫での後箆磨き　黒色処理	
73	8	SB	03	土師器	坏	16.5	5.3	6.5	口縁～体部一部　底部完存	粗砂粒、礫を含む	良好	7.5YR7/4にぶい橙	黒	軸線成形　上げ底気味の底部から体部に内弯して立ち上がる	口縁～体部:軸線による撫で(底部)回転糸切り	軸線による撫での後箆磨き　黒色処理	
73	9	SB	03	土師器	坏	17.4	3.8	～	口縁～体部1/4	粗砂粒、礫、石英を含む	良好	7.5YR6/4にぶい橙～黒	黒	軸線成形　体部に内弯して立ち上がる	軸線による撫で	軸線による撫での後箆磨き　黒色処理	
73	10	SB	03	土師器	坏	～	3.1	6.2	体部～底部一部	粗砂粒、石英を含む	良好	7.5YR6/4にぶい橙～3/3暗褐	黒	軸線成形　平底から体部は内弯して立ち上がる	口縁～体部:軸線による撫で(底部)回転糸切り	軸線による撫での後箆磨き　黒色処理	
73	11	SB	03	灰釉陶器	坏	～	2.8	5.8	体部一部　底部完存	粗砂粒を含む	良好	5Y7/1灰白	5Y7/1灰白	軸線成形　付高台に内側で接地する	軸線による撫で　灰釉を施す	軸線による撫で　灰釉を施す	
73	12	SB	03	須恵器	甕	～	16.0	～	口縁～胴部上部一部	粗砂粒を含む	良好	10Y5/1灰～4/1灰	10Y5/1灰～4/1灰	口縁部に面取りを施し口縁部を作る	口縁部:横位の撫で(胴部)平行文　工具による叩き	横位の撫で	

表 14　SB 土器観察表 (4)

図	No	遺構	番号	種類	器種	口径	器高	底径	残存	胎土	焼成	外面色調	内面色調	成形・形態	外面調整	内面調整	備考
73	13	SB	03	須恵器	甕	—	5.5	17.2	胴部一部　底部2/3	粗砂粒、礫を含む	酸化気味	7.5YR5/1褐灰～6/3にぶい褐	10YR5/1褐灰	上げ底気味の大きな底部	(胴部)平行文　工具による叩き　箆削り(底部)箆削り	刷毛調整	
74	1	SB	04	土師器	盤	3.9	5.9	–	抓み部完存　天井部1/2	雲母、粗砂粒を含む	良好	7.5YR5/4にぶい褐～黒	黒	鋭宝珠状の抓み部から張りのある天井部が開く	(抓み部)撫で(天井部上位)輪鍵による撫で後箆削き	箆磨き　刷毛調整？黒色処理	
74	2	SB	04	土師器	盤	-	2	17	褐部1/7	粗砂粒を含む	良好	5YR5/6明赤褐	5YR5/6明赤褐		(褐部)横位の撫で	輪鍵による撫で	
74	3	SB	04	須恵器	蓋	2.5	4.4	15.8	抓み部完存　天井部上位～下位1/5	粗砂粒を含む	良好	7.5GY5/1緑灰～7.5YR5/1褐灰	10Y5/1灰	扁平な鋭宝珠状の抓み部から張りのある天井部が広がり裾部は短く屈曲する	(抓み部～天井部上位)横位の撫で(天井部下位～裾部)横鍵による撫で	輪鍵による撫で	
74	4	SB	04	須恵器	盤	2.8	4.8	16.5	抓み部完存　天井部1/2	0.3の礫、粗砂粒を含む	良好	5Y7/1灰白	5Y7/1灰白	扁平な鋭宝珠状を呈する抓み部から、張りのある天井部が広がり、褐部は短く屈曲する	(抓み部、天井部上位)横位の撫で(天井部下位、裾部)横鍵による撫で	輪鍵による撫で	
74	5	SB	04	須恵器	盤	4.0	3.2	19.4	抓み部完存　天井部1/2	0.2～0.3の礫、白色砂粒、粗砂粒を含む	良好	N5/ 灰	5YR4/1褐灰	ボタン状の抓み部から張りのある天井部を経て、短く直立する褐部に至る	(抓み部)撫で(天井部～褐部)横位の撫で	撫で	
74	6	SB	04	須恵器	盤	2.6	3.1	17.4	抓み部完存　天井～褐部1/12	粗砂粒を含む	良好	5Y6/1灰	5Y6/1灰	扁平な鋭宝珠状の抓み部から張りのある天井部が広がり、褐部は短く直立する	(抓み部、褐部)輪鍵による撫で(天井部上位)横位の撫で	輪鍵による撫で	
74	7	SB	04	須恵器	蓋	3.4	2.8	–	抓み部完存　天井部2/3	0.2～0.3の礫、粗砂粒を含む	良好	7.5Y5/1灰	7.5Y5/1灰	扁平な鋭宝珠状の抓み部から天井部に張り出す	(抓み部～天井部)横位の箆撫で	輪鍵による撫で	
74	8	SB	04	須恵器	蓋	3.0	2.0	–	抓み部ほぼ完存　天井部1/4	0.3の礫、白色粒子、粗砂粒を含む	良好	N5/ 灰	N5/ 灰	扁平な鋭宝珠状の抓み部から稜を持つ天井部	(抓み部～天井部上位)横位の箆毛撫で	横鍵による撫で	
74	9	SB	04	須恵器	蓋	3.0	2.4	–	抓み部完存　天井部上位完存	白色粒子、雲母、粗砂粒を含む	良好	N5/ 灰～N4/ 灰	N5/ 灰～N4/ 灰	扁平な抓み部から張りのある天井部が開く	(抓み部～天井部上位)横位の撫で	撫で	
74	10	SB	04	須恵器	蓋	—	2.3	17.2	裾部1/3	粗砂粒を含む	良好	5Y6/1灰	5Y6/1灰	短く直立する裾部	(裾部)横位の撫で	横鍵による撫で	
74	11	SB	04	須恵器	蓋	—	2.1	16.7	裾部1/4	粗砂粒を含む	良好	10Y6/ 灰	10Y6/ 灰	短く直立する裾部	(裾部)横位の撫で	横鍵による撫で	
74	12	SB	04	土師器	皿	10.5	3.1	5.5	口縁～体部1/5　底部1/2	雲母、粗砂粒を含む	良好	7.5YR6/4にぶい橙	黒	輪鍵成形　平底から体部は浅く内湾して開く	(口縁～体部)輪鍵による撫で(底部)箆毛調整	箆削り　黒色処理	

表 15　SB 土器観察表 (5)

図	No	遺構	番号	種類	器種	口径	器高	底径	残存	胎土	焼成	外面色調	内面色調	成形・形態	外面調整	内面調整	備考
74	13	SB	04	土師器	坏	20.7	5.5	8.8	口縁～体部1/4 底部完存	粗砂粒を含む	良好	5YR6/6橙	黒	横軸成形 平底から体部に外傾して開き口縁に至る	(口縁～体部)横軸による撫で(底部)回転糸切りの後提調整	脆軸による撫で 黒色処理	
74	14	SB	04	土師器	坏	15.6	4.0	8.3	口縁～体部1/4 底部3/4	石英、粗砂粒を含む	良好	7.5YR5/4にぶい褐	黒	横軸成形 大きい平底から体部に大きく内弯して直立する口縁に立ち上がる	(口縁～体部)横軸による撫で 扇軸調整(底部)箆削り 磨き調整	(口縁部)横位の磨き(体部)放射状の磨き 黒色処理	
75	15	SB	04	土師器	坏	13.2	4.0	5.8	口縁～体部1/3底部完存	礫、石英、粗砂粒を含む	良好	5YR7/3にぶい橙	黒	横軸成形 平底から内弯して立ち上がり口縁部に僅かに外反する	(口縁～体部)横軸による撫で(底部)回転糸切りの後提調整	脆軸による撫で 黒色処理	
75	16	SB	04	土師器	坏	13.6	4.3	5.5	体部1/6 底部完存	雲母、粗砂粒を含む	良好	7.5YR6/4にぶい橙	黒	平底から体部に外傾して開く	(体部)横軸による撫で(底部)箆削り？	撫で 黒色処理	
75	17	SB	04	土師器	坏	13.2	4.4	6.6	ほぼ完存	雲母、粗砂粒を含む	良好	7.5YR6/4にぶい橙～2.5YR6/8橙	黒	平底から体部に続く内弯して立ち上がる	(口縁～体部)横軸による撫で(底部)回転糸切り後提調整	撫で 施磨き 黒色処理	
75	18	SB	04	土師器	坏	15.6	3.7	8.8	口縁～体部一部 底部1/2	粗砂粒を含む	良好	7.5YR4/2灰褐～2/1黒褐	黒	横軸成形 大きめの平底から内弯して立ち上がる	(口縁～体部)横軸による撫で(底部)箆調整	施磨き 黒色処理	
75	19	SB	04	土師器	坏	～	2.3	8.6	体部一部 底部2/3	粗砂粒を含む	良好	5YR5/6明赤褐	黒	平底から立ち上がる	(体部)横位の撫で(底部)箆磨き	施磨き 黒色処理	
75	20	SB	04	土師器	坏	～	2.3	7.8	底部完存	0.3の礫、雲母、粗砂粒を含む	良好	7.5YR6/4にぶい橙～黒	黒	平底から立ち上がる	(底部)回転糸切りの後提削り	施削り 黒色処理	
75	21	SB	04	土師器	坏	～	2.2	8	底部完存	粗砂粒を含む	良好	7.5YR6/6橙	黒	平底	(底部)箆調整	施磨き 黒色処理	
75	22	SB	04	須恵器	坏	13.8	3.6	6.2	口縁～体部1/3 底部完存	礫、粗砂粒を含む	良好	5Y5/1灰～4/1灰	5Y5/1灰～4/1灰	横軸成形 上げ底気味の底部から僅かに内弯して開く	(口縁～体部)横軸による撫で(底部)回転糸切り	脆軸による撫で	火準あり
75	23	SB	04	須恵器	坏	12.3	3.0	6.0	口縁～底部1/2	礫、粗砂粒を含む	良好	5Y5/1灰	5Y5/1灰	横軸成形 上げ底気味の平底から内弯して立ち上がる	(口縁～体部)横軸による撫で(底部)回転糸切り	脆軸による撫で	火準あり
75	24	SB	04	須恵器	坏	13.8	4.0	5.6	口縁～体部1/3 底部一部	礫、粗砂粒を含む	良好	5Y6/2灰オリーブ	5Y6/2灰オリーブ	横軸成形 上げ底から内弯して立ち上がる	(口縁～体部)横軸による撫で(底部)回転糸切り	脆軸による撫で	
75	25	SB	04	須恵器	坏	―	2.3	6.8	体部一部 底部1/2	礫、粗砂粒を含む	良好	5YR5/1灰	5YR5/1灰	横軸成形 上げ底気味の平底から僅かに内弯して立ち上がる	(体部)横軸による撫で 扇軸調整(底部)回転糸切り	脆軸による撫で	火準あり
75	26	SB	04	須恵器	坏	―	2.5	6.8	体部一部 底部1/2	粗砂粒を含む	酸化炎焼成	7.5YR4/1褐灰～5/2灰褐	7.5YR4/1褐灰～5/2灰褐	横軸成形 上げ底気味の平底から内弯して立ち上がる	(体部)横軸による撫で(底部)回転糸切り	脆軸による撫で	

表16 SB土器観察表(6)

図	No	遺構	番号	種類	器種	口径	器高	底径	残存	胎土	焼成	外面色調	内面色調	成形・形態	外面調整	内面調整	備考
73	27	SB	04	須恵器	坏	15.7	8.6	9.7	口縁～体部・部 底部1/2	粗砂粒を含む	良好	10Y5/1灰	10Y5/1灰	輪轆成形 付け高台の底部から体部は屈曲外傾して立ち上がる	(口縁～体部)輪轆による撫で(底部)回転箆切りの後撫で(高台部)箆撫	輪轆による撫で	
73	28	SB	04	須恵器	坏	11.8	3.6	7.3	口縁～体部・部 底部1/2	粗砂粒を含む	良好	10YR4/1褐灰	10YR5/1褐灰	機轆成形 付け高台の底部から内湾して立ち上がる	機轆による撫で	輪轆による撫で 底部再巻く	口唇部、底部に釉薬
73	29	SB	04	須恵器	坏	11.2	4.1	6.4	口縁～体部1/4 底部1/2	礫、粗砂粒を含む	良好	7.5Y6/1灰	7.5Y6/1灰	機轆成形 付け高台の底部から内湾して立ち上がる	(口縁～体部)輪轆による撫で 扇毛調整(底部)回転糸切りの後箆調整	機轆による撫で	
73	30	SB	04	須恵器	坏	～	2.0	9.3	体部・部 底部3/4	礫、粗砂粒を含む	良好	2.5Y6/1黄灰	5Y6/1灰	輪轆成形 付け高台	(体部)輪轆による撫で(底部)回転糸切りの後箆調整	輪轆による撫で	
73	31	SB	04	須恵器	坏	～	1.7	6.7	体部・部 底部1/3	粗砂粒を含む	酸化炎焼成	7.5YR4/1褐灰	5YR5/3にぶい赤褐	輪轆成形 付け高台の底部から内湾して立ち上がる	(体部)輪轆による撫で(底部)回転箆切りの後箆調整	輪轆による撫で	
73	32	SB	04	須恵器	坏	～	1.2	9.3	底部5/6	礫、粗砂粒を含む	良好	7.5Y4/1灰	7.5Y4/1灰	輪轆成形 付け高台	(高台部)輪轆による撫で(底部)回転糸切りの後箆調整	輪轆による撫で	
73	33	SB	04	土師器	碗	16.6	9.2	8.0	1/2	雲母、粗砂粒を含む	良好	5YR5/6明赤褐	黒	輪轆成形 平底から内湾して立ち上がり外反して開く口縁に至る	(口縁～体部)輪轆による撫で(底部)箆削り?	箆削り 黒色処理	
73	34	SB	04	土師器	塞	19.4	7.7	―	口縁～側部一部	粗砂粒を含む	良好	5YR5/6明赤褐～3/2暗赤褐	5YR3/2暗赤褐	「くの字」状に外反する口縁	(口縁端部)面取り(口縁部)横位の撫で(側部)縦位の箆削り	(口縁部)横位の撫で(側部)縦位の箆削り	
73	35	SB	04	土師器	塞	13.4	9.9	7.4	口縁部1/2 体部2/3 底部完存	雲母、粗砂粒を含む	良好	5YR5/6明赤褐～7.5YR5/6明褐	7.5YR5/4にぶい褐	平底から内湾して立ち上がり口縁部は外反する	(口縁～体部)横位の扇毛撫で(底部)扇毛撫	撫で	
73	36	SB	04	土師器	塞	―	10.0	5.0	側部一部 底部完存	粗砂粒を含む	良好	2.5YR5/6明赤褐～4/2灰赤	2.5YR5/6明赤褐	小さな平底から球形の胴部に至る	(胴部)箆削り 扇毛調整(底部)箆削り	撫で	
73	37	SB	04	土師器	塞	―	6.8	―	口縁～側部一部	石英、粗砂粒を含む	良好	7.5YR4/3褐	7.5YR3/2黒褐	口縁部は外反し、口縁端部は面取りを施す	(口縁)横位の撫で(胴部)縦位の削り 撫で	(口縁)横位の撫で(胴部)縦位の削り 撫で	
73	38	SB	04	須恵器	塞	―	9.0	―	口縁～側部一部	粗砂粒を含む	良好	10Y4/1灰～3/1オリーブ黒	10Y4/1灰	口縁部は外反して段のある口縁帯を有する	(口縁部)横位の撫で(側部)平行文工具による形さ	(口縁部)横位の撫で(胴部)箆削り	
73	39	SB	04	須恵器	塞	―	5.4	―	口縁部一部	粗砂粒を含む	良好	2.5Y3/2黒褐	10YR4/1褐灰	大きく外反する口縁端部に段を有する口縁帯を作る	輪轆による撫で	輪轆による撫で	

表17 SB土器観察表(7)

図	No	遺構	番号	種類	器種	口径	器高	底径	残存	胎土	焼成	外面色調	内面色調	成形・形態	外面調整	内面調整	備考
76	40	SB	04	須恵器	甕	−	4.2	−	口縁部一部	粗砂粒を含む	良好	2.5Y5/1黄灰	5Y3/1オリーブ黒	大きく外反して口縁帯に至る	横位の撫で	横位の撫で	自然釉が内外面にかかる
76	41	SB	04	須恵器	甕	−	3.2	15.4	底部1/2	白色砂粒、粗砂粒を含む	良好	7.5Y5/1灰	7.5Y4/1灰	付け高台	(高台部)輪線による撫で(底部)荒撫で	横線による撫で	
76	42	SB	04	須恵器	壺	10.5	2.5	−	口縁部一部	粗砂粒を含む	良好	5Y6/2灰オリーブ～3/2オリーブ黒	5Y5/2灰オリーブ	輪線成形　大きく外反する口縁部は口縁帯を有する	横線による撫で	横線による撫で	内外面に振動(口縁帯直下にブルー)
76	43	SB	04	須恵器	甕	−	17.1	16.7	胴部～底部1/8	白色砂粒、粗砂粒を含む	良好	N4/灰	N4/灰	粘土帯積み上げ	(胴部)平行文工具による叩き(底部)荒削り	撫で	
77	1	SB	05	須恵器	坏	14.3	5.1	−	口縁部1/5	粗砂粒を含む	良好	N6/灰	N5/灰	輪線成形	輪線による撫で	輪線による撫で	
77	2	SB	05	須恵器	坏	−	2.2	5.9	体部下位～底部完存	粗砂粒を含む	良好	10YR5/1褐灰 0YR5/2灰黄褐	10YR5/2灰黄褐	輪線成形　平底から外面に浅い稜を有し、内湾して立ち上がる	(体部)横線による撫で(底部)回転糸切り	輪線による撫で	
77	3	SB	05	土師器	壺	21.6	5.8	−	口縁部1/6	粗砂粒を含む	良好	5YR6/6橙	7.5YR7/6橙	頸部は「く」の字状に外反する	(口縁部)横位の撫で(体部)箆削り	横位の撫で	
77	4	SB	05	須恵器	壺	11.6	17.7	−	口縁部4/5～体部1/4	粗砂粒を含む	良好	5Y5/1灰～2.5GY3/1暗オリーブ灰	2.5Y5/1黄灰～N3/暗灰	張りのある胴部から短く直立する口縁に至る	(口縁～体部)平行文工具による叩き自然釉	撫で	
77	5	SB	05	須恵器	壺	24.6	6.7	−	口縁部1/5	白色ほかの粗砂粒を含む	良好	7.5Y2/2オリーブ黒	7.5Y4/1灰	口縁は大きく外反し段のある口縁帯を作る	輪線による撫で	撫で　内外面に自然釉がかかる	
78	1	SB	06	須恵器	蓋	16.8	2.6	−	天井～裾部1/3	白色砂粒を含む	良好	N4/灰	5YR5/3にぶい赤褐～5Y5/1灰	稜を持つ天井部から短く直立する裾部に至る	(天井部)輪線撫で	輪線撫で	
78	2	SB	06	土師器	皿	20.3	2.8	−	口縁～体部1/2	白色砂を粒含む	良好	5YR6/8橙	黒	横線成形　付け高台体部は外傾して口縁部に至る	(口縁～体部)横線撫で(底部)回転糸切りの後筋調整	撫で　黒色処理	
78	3	SB	06	土師器	皿	12.7	2.5	−	口縁～体部完存	白色砂粒、粗砂粒を含む	良好	7.5YR5/6明褐	黒(画落)	横線成形　付け高台体部は外傾して口縁部に至る	(口縁～体部)輪線撫で	撫で　黒色処理	
78	4	SB	06	土師器	皿	12.5	2.1	−	口縁～体部1/4	雲母、粗砂粒を含む	良好	黒	黒	横線成形　付け高台体部は外傾して口縁部で僅かに外反する	(口縁～体部)横線撫で(底部)箆調整 黒色処理	撫で　荒調整　黒色処理	
78	5	SB	06	土師器	坏	13.2	3.7	6.0	口縁～体部1/2　高部完存	粗砂粒を含む	良好	2.5YR5/8明赤褐～10YR4/1褐灰	10R4/6赤～10YR3/1黒褐	輪線成形　平底から外傾して立ち上がり口縁部に至る	(口縁～体部)輪線撫で(底部)箆磨き	輪線撫で	

表18　SB土器観察表(8)

図	No	遺構	番号	種類	器種	口径	器高	底径	残存	胎土	焼成	外面色調	内面色調	成形・形態	外面調整	内面調整	備考
78	6	SB	06	土師器	坏	13.8	3.8	6.2	口縁～体部2/3　底部は1/2残存	赤砂粒、礫を含む	酸化炎焼成気味	7.5YR7/3にぶい橙～5/1褐灰	10YR6/2灰黄褐	粘輪成形　上げ底から外面に浅い稜を持つ体部が開く	横撫による撫で(底部回転糸切り)	輪積による撫で	
78	7	SB	06	土師器	坏	12.8	6.3	–	口縁部1/6　体部1/2	雲母、粗砂粒を含む	良好	7.5YR5/4にぶい褐	7.5YR5/4にぶい褐	丸底から体部は内湾して立ち上がり口縁部に至る	(口縁部)横撫で(体部)撫で	(口縁部)横撫き(体部)撫で	
78	8	SB	06	土師器	坏	19.5	5.3	–	口縁部1/5　体部一部	粗砂粒を含む	良好	7.5YR7/6橙～5/2灰褐	7.5YR7/6橙～5/2灰褐	丸底から体部は内湾して直立気味の口縁部に至る	横位の撫で	放射状の磨き	
78	9	SB	06	土師器	坏	16.0	4.5	7.2	口縁～体部3/4　底部1/2	0.3の礫、粗砂粒を含む	良好	5YR6/6橙	黒(黒斑有り)～10YR6/4にぶい黄橙	平底から立ち上がり体部は緩く内湾して口縁部に至る	(口縁～体部)横撫撫で(底部)回転糸切り	輪積撫で　黒色処理	
79	10	SB	06	土師器	坏	18.5	6.7	8.8	3/4	雲母、粗砂粒を含む	良好	5YR6/6明赤褐～7.5YR6/2暗褐	黒	平底から外傾して開き口縁部に至る	(口縁～体部)横撫撫で(底部)回転糸切り	撫で　黒色処理	
79	11	SB	06	土師器	坏	16.2	4.9	6.4	口縁部一部　底部2/3	粗砂粒、雲、石英を含む	良好	7.5YR7/3にぶい橙	黒	粘輪成形　平底から僅かに内湾して立ち上がる	(底部)回転糸切りの後周回り	(口縁部)横位の磨き(坏部)放射磨き　黒色処理	歪みが大きい
79	12	SB	06	土師器	坏	14.8	3.9	7.6	口縁～体部一部　底部完存	粗砂粒を含む	良好	5YR6/6橙	黒	粘輪成形　大きめの平底から内湾して立ち上がる	(体部)横撫による撫で(底部)回転糸切りの後周調整	撫磨き　黒色処理	
79	13	SB	06	土師器	坏	12.8	6.2	–	口縁部1/5	雲は、粗砂粒を含む	良好	7.5YR7/6橙	黒	粘輪成形　口縁部は「くの字」状に屈曲する	粘輪撫で	撫で　黒色処理	
79	14	SB	06	土師器	坏	–	2.6	7.9	体部一部　底部3/4	粗砂粒、礫、石英を含む	良好	7.5YR6/4にぶい橙	黒	粘輪成形　大きな平底から体部は内湾して立ち上がる	(体部)横撫による撫で(底部)回転糸切りの後周調整	撫磨き　黒色処理	
79	15	SB	06	土師器	坏	–	2.1	8.0	体部一部　底部1/2	粗砂粒、石英を含む	良好	7.5YR6/4にぶい橙	黒	機械成形　上げ底から体部は内湾して立ち上がる	(体部)横撫による撫で(底部)回転糸切りの後周調整	撫磨き　黒色処理	
79	16	SB	06	土師器	坏	–	4.9	6.7	体部下位　底部完存	雲は、粗砂粒を含む	良好	7.5YR6/4にぶい橙	黒	機械成形　付け高台体部は僅かに内湾する	(体部)横撫による撫で　(高台部)横位の撫で　(底部)撫で	撫で　黒色処理	
79	17	SB	06	土師器	坏	–	4.3	7.2	体部一部　底部完存	粗砂粒、石英、雲母を含む	良好	7.5YR7/4にぶい橙	黒	機械成形　付け高台体部は浅く内湾して立ち上がる	横撫による撫で(底部)回転糸切りの後周撫	黒色処理	
79	18	SB	06	土師器	坏	–	3.3	8.8	体部下位　底部1/2	雲母、粗砂粒を含む	良好	7.5YR6/4にぶい橙	黒	付け高台	(体部)横撫撫で　(高台部)横位の撫で　(底部)撫で	撫で　黒色処理	
79	19	SB	06	須恵器	坏	14.0	4.2	6.6	口縁部3/4　体部～底部完存	粗砂粒、雲を含む	良好	7.5YR7/1灰白～5/1灰	7.5YR7/1灰白	機械成形　平底から体部は外傾して口縁部に至る	粘輪による撫で　底部回転糸切り	輪積による撫で　火襷	

表19　SB土器観察表(9)

図	No	遺構	番号	種類	器種	口径	器高	底径	残存	胎土	焼成	外面色調	内面色調	成形・形態	外面調整	内面調整	備考
79	20	SB	06	須恵器	坏	13.4	3.7	6.5	口縁～底部4/5	素砂粒、礫を含む	良好	7.5Y6/1灰	7.5Y6/1灰	糸鋸成形　平底から体部は内湾して立ち上がる	糸鋸による撫で　底部同転糸切りの後置調整	横軸による撫で	
79	21	SB	06	須恵器	坏	15.8	3.8	10.4	口縁～体部1/4　底部一部	素砂粒を含む	良好	10Y6/1灰	5Y6/1灰	横軸成形　付け高台外側で接地する高台部から体部は回転外傾して立ち上がる	糸鋸による撫で	輪軸による撫で	
79	22	SB	06	土師器	塞	18.2	8.1	－	口縁部1/3	白色砂粒、粗砂粒を含む	良好	7.5YR7/6橙～2.5YR6/8橙	5YR5/4にぶい赤褐	頸部は「くの字」状に外反する	箆磨き	横位の箆で	
79	23	SB	06	土師器	塞	20.8	5.8	－	口縁部1/6	雲母、白色砂粒、粗砂粒を含む	良好	5YR5/6明赤褐	7.5YR6/6橙	頸部は屈曲して僅かに内湾する口縁部に垂る	(口縁部)横位の箆磨き	横位の箆磨き	
79	24	SB	06	土師器	塞	－	8.8	8.4	側部一部～底部2/3	粗砂粒、礫を含む	良好	5YR6/6橙～7/3にぶい橙	7.5YR7/4にぶい橙	粘土帯積み上げ　平底から側部は大きく内湾して立ち上がる	箆削り　指頭による撫で付け	箆削り	
79	25	SB	06	土師器	塞	－	8.8	10.3	側部下位～底部1/4	雲母、白色砂粒、粗砂粒を含む	良好	7.5YR4/4褐～7.5YR3/3暗褐	10YR5/3にぶい黄褐	粘土帯積み上げ？	箆削り	箆削り	
79	26	SB	06	土師器	塞	－	6.4	4.3	胴部下位1/4　底部1/3	雲母、粗砂粒を含む	良好	10YR5/4にぶい黄褐～4/2灰黄褐	7.5YR5/4にぶい褐	張りのある側部	(側部)箆削り	箆で	
79	27	SB	06	土師器	甑	－	4.5	4.3	底部1/2	粗砂粒を含む	良好	5YR6/6橙	5YR6/6橙	平底に1孔を穿つ	箆削り	箆削り	
79	28	SB	06	須恵器	塞	40.0	22.0	－	口縁～体部1/4	粗砂粒を含む	良好	7.5Y6/1灰	7.5Y6/1灰	外反する口縁部に最大径を有し端部に面取りを施す	(口縁～体部)平行文工具による叩き	箆で	
79	29	SB	06	須恵器	壺		14.9	－	側部一部	粗砂粒、礫を含む	良好	2.5Y5/2暗灰黄～4/1黄灰	7.5YR5/3にぶい褐	糸鋸成形　球形の胴部	糸鋸による撫で	輪軸による撫で	
80	1	SB	07	土師器	坏	13.8	3.6	－	口縁部一部	石英、粗砂粒を含む	良好	2.5YR6/6橙～5/4にぶい赤褐	2.5YR6/6橙～5/4にぶい赤褐	糸鋸成形　体部は内湾して立ち上がる	糸鋸による撫で	輪軸による撫で	
80	2	SB	07	土師器	坏	13.8	3.9	6.0	はば完存	石英、粗砂粒を含む	良好	5YR6/4にぶい橙	黒	横軸成形　平底より体部は内湾して立ち上がる	(口縁～体部)横軸による撫で　(底部)回転糸切り	放射状磨き　黒色処理	
80	3	SB	07	土師器	坏	13.4	4.2	5.7	はば完存	石英、粗砂粒を含む	良好	10YR7/3にぶい黄橙～2/1黒	黒	横軸成形　上げ底気味の底部より体部は内湾して立ち上がる	(口縁～体部)横軸による撫で　(底部)回転糸切り	(口縁部)横位の磨き(体部)放射状磨き　黒色処理	
80	4	SB	07	土師器	坏	13.4	4.4	6.2	口縁部1/3～底部完存	石英、雲母、粗砂粒を含む	良好	7.5YR7/3にぶい橙	黒	糸鋸成形　平底より内湾して立ち上がる	(口縁～体部)糸鋸による撫で　(底部)同転糸切りの後置調整	(口縁部)横位の磨き(体部)放射状磨き　黒色処理	

表 20　SB 土器観察表 (10)

図	No	遺構	番号	種類	器種	口径	器高	底径	残存	胎土	焼成	外面色調	内面色調	成形・形態	外面調整	内面調整	備考
80	5	SB	07	土師器	坏	13.5	3.8	6.2	口縁部・部～底部完	石英、粗砂粒、礫を含む	良好	7.5YR7/3にぶい橙～6/4にぶい橙	黒	輪轆成形　平底より体部は内湾して立ち上がる	(口縁～体部)輪轆による撫で　(底部)回転糸切りの後箆調整	(口縁部)横位の磨き (体部)放射状磨き 黒色処理	
80	6	SB	07	土師器	坏	13.8	3.7	6	口縁～底部1/4	粗砂粒を含む	良好	7.5YR6/4にぶい橙	黒	輪轆成形　平底より体部は内湾して立ち上がる	(口縁～体部)輪轆による撫で　(底部)回転糸切り	磨き　黒色処理	
80	7	SB	07	土師器	坏	12.8	4.0	6.4	口縁部1/3～底部・部	粗砂粒、礫を含む	良好	7.5YR6/4にぶい橙～2/1黒	黒	輪轆成形　平底より体部は内湾して立ち上がり、浅い稜を有する	輪轆による撫で　剥み	磨き　黒色処理	
80	8	SB	07	土師器	坏	14.6	3.8	—	口縁部1/4～体部一部	粗砂粒を含む	良好	7.5YR6/4にぶい橙	黒	横轆成形　体部は内湾し、口縁部は僅かに外反する	横轆による撫で	磨き　黒色処理	
80	9	SB	07	土師器	坏	14.8	3.4	—	口縁部1/4～体部	雲母、粗砂粒を含む	良好	7.5YR6/4にぶい橙～2/1黒	黒	輪轆成形　体部は内湾する	輪轆による撫で	横位の箆磨き　黒色処理	
80	10	SB	07	土師器	坏	—	3.3	7.6	体部一部～底部1/4	粗砂粒を含む	良好	7.5YR6/3にぶい橙	黒	横轆成形　上げ底気味の底部より体部は内湾して立ち上がる	(口縁～体部)横轆による撫で　(底部)回転糸切りの後箆調整	磨き　黒色処理	
80	11	SB	07	土師器	坏	—	4.1	5.6	体～底部完存	石英、粗砂粒を含む	良好	7.5YR7/3にぶい橙	黒	輪轆成形　平底より体部は内湾して立ち上がる	(口縁～体部)輪轆による撫で　(底部)回転糸切り	放射状磨き　黒色処理	
80	12	SB	07	土師器	鉢	24.4	12.2	8.6	口縁～底部一部	石英、粗砂粒を含む	良好	2.5YR5/6明赤褐	2.5YR5/6明赤褐～4/8赤褐	輪轆成形　平底より体部は内湾して立ち上がる	横轆による撫で	磨き	
80	13	SB	07	土師器	甕	18.8	10.8	—	口縁～胴部一部	雲母、粗砂粒を含む	良好	5YR6/4にぶい橙	5YR6/6橙	輪轆成形　口縁部は外反して開く	輪轆による撫で　箆削り	横轆による撫で	
81	1	SB	08	須恵器	蓋	—	2.9	19.0	天井部1/5	粗砂粒を含む	良好	N6/ 灰	N4/ 灰		横轆による撫で	横轆による撫で	
81	2	SB	08	土師器	坏	11.4	4.2	—	1/2	雲母、粗砂粒を含む	良好	7.5YR3/1黒褐	黒	丸底から体部は内湾して開き、直立気味の口縁に立ち上がる	(口縁部)横位の撫で (体部～底部)箆削り	箆磨き　黒色処理	
81	3	SB	08	土師器	坏	—	4.1	—	体～底部ほぼ完存	石英、雲母、粗砂粒を含む	良好	2.5YR5/6明赤褐	黒	丸底		黒色処理	
81	4	SB	08	須恵器	坏	10.4	4.4	3.6	体部7/8底部完存	礫、粗砂粒を含む	良好	N5/ 灰	N5/ 灰	輪轆成形　平底から屈曲外傾する体部が立ち上がる	(体部)輪轆による撫で(底部)回転箆切りの後箆調整	輪轆による撫で	
81	5	SB	08	須恵器	坏	10.2	3.3	4.0	1/2	粗砂粒を含む	良好	5YR5/4にぶい赤褐	10YR4/1褐灰	横轆成形　平底から体部は外傾して開く	(体部)輪轆による撫で(底部)横位の磨毛？	輪轆による撫で	

表 21　SB 土器観察表 (11)

図	No	遺構	番号	種類	器種	口径	器高	底径	残存	胎土	焼成	外面色調	内面色調	成形・形態	外面調整	内面調整	備考
81	6	SB	08	上師器	高坏	－	9.2	9.4	坏部一部　胴部3/4	石英、雲は、粗砂粒を含む	良好	7.5YR6/4にぶい橙	7.5YR6/4にぶい橙		(胴部)縦位の箆削り	(坏部内面)赤色塗彩	
81	7	SB	08	上師器	甕	18.0	12.8	－	口縁～胴部一部	石英、粗砂粒を含む	良好	7.5YR5/4にぶい褐	7.5YR5/4にぶい褐	張りのない胴部と外反して大きく開く口縁	(口縁部)横位の撫で (胴部)箆撫で		
81	8	SB	08	土師器	甕	16.0	8.7	－	口縁～胴部一部	粗砂粒を含む	良好	7.5YR7/6橙	7.5YR5/4にぶい褐	短く開く口縁	縦位の箆削り		
81	9	SB	08	土師器	甕	16.6	6.1	－	口縁部一部	石英、粗砂粒を含む	良好	7.5YR7/6橙	7.5YR7/6橙	胴部は緩く外反して短く開く口縁に至る	横位の撫で	横位の撫で	
82	10	SB	08	上師器	甕	18.0	5.9	－	口縁～胴部一部	石英、粗砂粒を含む	良好	7.5YR5/4にぶい褐	7.5YR5/4にぶい褐	口縁部は外側へ折り返す	横位の撫で	横位の撫で	
82	11	SB	08	上師器	甕	17.6	37.8	－	口縁～底部一部	礫、石英、雲は、粗砂粒を含む	良好	5YR4/4にぶい赤褐	5YR5/4にぶい赤褐	鉢上部積み上げ　僅かに張る胴部より外反して開く口縁部に至る	撫で	撫で	
82	12	SB	08	上師器	甕	－	26.8	4.0	胴～底部一部	石英、雲は、粗砂粒を含む	良好	5YR4/6赤褐	5YR5/4にぶい赤褐	張りのない胴部	箆削り	撫で	
83	1	SB	09	須恵器	盤	－	2.2	15.8	天井部1/5	粗砂粒を含む	良好	5Y5/1灰	5Y5/1灰		轆轤による撫で	轆轤による撫で	
83	2	SB	09	土師器	坏	13.2	5.2	7.2	口縁～体部1/4　底部完存	石英、雲母、粗砂粒を含む	良好	5YR5/6明赤褐	黒	平底から体部は内湾して直立気味に立ち上がる		黒色処理	
83	3	SB	09	須恵器	坏	13.2	3.0	－	口縁部一部	粗砂粒を含む	良好	5Y6/1灰	5Y5/1灰	轆轤成形	轆轤による撫で	轆轤による撫で	
83	4	SB	09	須恵器	坏	－	2.7	12.2	体部～底部一部	粗砂粒を含む	良好	5Y5/1灰	5Y5/1灰	横轆成形　付高台は外側で接地する	轆轤による撫で	轆轤による撫で	
83	5	SB	09	土師器	甕	－	5.6	3.2	胴部一部　底部3/4	雲母、粗砂粒を含む	良好	7.5YR5/4にぶい褐	5YR4/6赤褐	小さい底部から胴部は内湾して立ち上がる	箆磨き	箆磨き	
83	6	SB	09	須恵器	甕	－	22.0	15.0	胴部～底部一部	白色粗砂粒を含む	良好	7.5YR3/1黒褐	7.5YR5/1褐灰	撫で	平行文工具による叩き	箆撫で	
84	1	SB	10	土師器	坏	14.3	5.3	－	ほぼ完存	石英、雲は、粗砂粒を含む	良好	5YR6/6橙～7/4にぶい橙	5YR6/6橙～7/4にぶい橙	丸底より体部は内湾して立ち上がり、口縁部で僅かに外反する	(体～底部)箆削り撫で　(口縁部)横磨き	(体～底部)箆削り撫で　(口縁部)横磨き	
84	2	SB	10	土師器	坏	14.8	4.9	－	口縁部4/5	石英、雲母、粗砂粒を含む	良好	2.5YR7/6橙～5/6明赤褐	2.5YR7/6橙～6/8橙	丸底より体部は大きく内湾して立ち上がるり、口縁部は僅かに内傾する	箆削　撫で	(体～底部)箆削り撫で　(口縁部)横磨き	
84	3	SB	10	土師器	坏	14.4	5.8	－	口縁部1/3～底部完存	石英、雲母、白色粗砂粒を含む	良好	7.5YR7/3にぶい橙～黒	7.5YR7/3にぶい橙～黒	丸底より体部は大きく内湾して立ち上がるり、口縁部は僅かに内傾する	箆削り　箆撫で	箆削り　箆撫で	

表 22　SB 土器観察表 (12)

図	No	遺構	番号	種類	器種	口径	器高	底径	残存	胎土	焼成	外面色調	内面色調	成形・形態	外面調整	内面調整	備考
84	4	SB	10	土師器	坏	13.8	4.6	–	口縁～底部3/12	石英、雲母、粗砂粒を含む	良好	5YR7/6橙～5/3にぶい赤褐	5YR7/4にぶい橙～6/6橙	丸底より体部は大きく内湾して立ち上がり、口縁部は僅かに内傾する	箆削り　箆磨で	箆削り　箆磨で	
84	5	SB	10	土師器	坏	13.0	5.5	–	口縁～体部1/4	石英、雲母、粗砂粒を含む	良好	5YR6/3にぶい橙～5/6明赤褐	7.5YR6/4にぶい橙	丸底より体部は大きく内湾して立ち上がり、口縁部は内傾する	箆削り　横位の箆で	箆削り　横位の箆で	
84	6	SB	10	土師器	坏	12.4	5.3	–	口縁～底部完存	石英、雲母、粗砂粒を含む	良好	2.5YR4/6赤褐～3/2暗赤褐	5YR7/4にぶい橙～3/2暗赤褐	丸底より体部は緩やかに内湾し、長めの直立気味の口縁部に至る	(体～底部)箆削り　箆で　(口縁部)横位の箆で	箆削り　横位の箆で	
84	7	SB	10	土師器	坏	12.7	8.6	–	口縁部1/2～底部完存	石英、粗砂粒を含む	良好	5YR5/6明赤褐～1.7/1黒	5YR5/6明赤褐～4/8赤褐	粘土帯積み上げ　丸底より体部は内湾して「く　の字状に外反する口縁部に至る	(胴～底部)箆削り　(口縁部)横位の箆で	箆削り　箆磨き	
84	8	SB	10	土師器	坏	–	3.8	–	体部　部～底部	石英、粗砂粒を含む	良好	5YR7/4にぶい橙～6/6橙	黒	丸底より体部は内湾して大きく開いて立ち上がる	箆削り　磨毛調整	箆削り　磨毛調整　黒色処理	
84	9	SB	10	須恵器	坏	12.4	5	–	口縁～体部　部	粗砂粒、礫を含む	良好	7.5YR6/1灰～5/1灰	7.5YR6/1灰	底部欠損　体部上端に段を持ち、口縁部は内傾する	横撫による箆で	横撫による箆で	
84	10	SB	10	土師器	甕	18.4	29.3	7.2	口縁～底部完存	石英、雲母、粗砂粒を含む	良好	5YR4/3にぶい赤褐～2/3暗褐赤褐	5YR4/3にぶい赤褐	粘土帯積み上げ　平底より中位に成形をもつ球形の胴部が立ち上がり、頸部は「く　の字状に外反する	(胴部)箆削り後磨毛調整　(口縁部)横位の箆で	(側部)箆削り　(口縁部)横位の箆で	
84	11	SB	10	土師器	甕	24.8	14.4	–	口縁部1/2弱～胴部	石英、雲母、粗砂粒を含む	良好	5YR5/6明赤褐	7.5YR5/4にぶい褐～3/3暗褐	粘土帯積み上げ　歪みのない胴部より外反して開く口縁部に至る	箆削り　箆で	箆削り　箆で	
84	12	SB	10	土師器	甕	19.4	7.3	–	口縁部は1/2完存～胴部上位	石英、雲母、粗砂粒を含む	良好	5YR5/6明赤褐	5YR5/6明赤褐	粘土帯積み上げ　頸部は「く　の字状に外反する	(頸～胴部)箆削り　(口縁部)横位の箆で	(頸～胴部)箆削り　(口縁部)横位の箆で	
84	13	SB	10	土師器	甕	–	16.8	6.0	頸部　部～底部完存	石英、雲母、粗砂粒を含む	良好	5YR4/6赤褐～3/4暗赤褐	5YR4/4にぶい赤褐～3/1黒褐	粘土帯積み上げ　肥厚のある底部より胴部は内湾し、頸部は外反して立ち上がる	箆削り　箆で	箆削り　箆で	

表23　SB土器観察表(13)

図	No	遺構	番号	種類	器種	口径	器高	底径	残存	胎土	焼成	外面色調	内面色調	成形・形態	外面調整	内面調整	備考
84	14	SB	10	土師器	甕	–	20.4	4.8	胴～底部	石英、雲母、細砂粒を含む	良好	5YR6/4にぶい橙～3/2暗赤褐	5YR5/4にぶい赤褐	粘土帯積み上げ 丸底気味の底部に中心に窪みがあり、胴部は下膨れ	(胴部下位)箆削り (胴部上位)横位の箆で	(胴部下位)箆削り (胴部上位)横毛調整	
85	15	SB	10	土師器	甕	16.8	12.5	–	口縁部1/2 胴～底部完存	石英、黄母、粗砂粒を含む	良好	7.5YR7/3にぶい橙～2/1黒	7.5YR7/3にぶい橙～2/1黒	粘土帯積み上げ 丸底 球形の胴部より短く外反する口縁部に至る	箆削り 箆で 磨き	(胴部箆削り口縁部)横位の箆で 磨き	
85	16	SB	10	土師器	甕	–	5.3	6.0	胴部下位～底部完存	石英、細砂粒を含む	良好	2.5YR4/8赤褐	5YR3/1黒褐	粘土帯積み上げ 厚手で丸底気味の底部	箆削り 箆で	箆削り 箆で	
85	17	SB	10	土師器	甕	–	17.5	6.8	底～胴部4/5圧先存	石英、白色細砂粒を含む	良好	5YR6/4にぶい橙～黒	5YR6/4にぶい橙～5/2灰褐	粘土帯積み上げ 上げ底気味の底部より大きく内湾して球形の胴部に至る	箆削りの後縦位の箆磨き	箆削り	
85	18	SB	10	土師器	甕	14.0	16.8	–	口縁部1/2～胴部3/4	黄母、粗砂粒を含む	良好	5YR7/4にぶい橙～6/6橙～黒	7.5YR7/3にぶい橙	粘土帯積み上げ 胴との接合部より球形の胴部を経て、外反する口縁部に至る	箆削りの後縦磨き	箆削りの後縦磨き	台付き甕
85	19	SB	10	土師器	甕	10.7	13.7	–	口縁部2/3～胴部一部	石英、雲母、細砂粒を含む	良好	5YR6/6明赤褐	5YR5/6明赤褐	粘土帯積み上げ 胴との接合部より丸みを持って張りのある胴部を経て、外反する口縁部に至る	(胴部)箆削り (口縁部)横位の箆で (胴部)縦位の箆で	(胴～胴部)箆削り (口縁部)横位の箆で	
86	1	SB	11	土師器	坏	12.3	3.9	–	完存	0.2の砂、亜砂粒を含む	良好	7.5YR6/6橙	黒	丸底より体部に内湾して立ち上がり、直立気味の口縁に至る	(口縁)横位の箆で (体部)箆削り	箆磨き 黒色処理	
86	2	SB	11	土師器	高坏	–	5.3	–	脚部2/3	細砂粒を含む	良好	7.5YR5/4にぶい橙	黒～7.5YR6/4にぶい橙	短めの脚部	指による箆で	(坏部)黒色処理 (脚部)箆削り	
86	3	SB	11	土師器	高坏	14.8	12.2	10.4	坏部1/3～脚部	細砂粒を含む	良好	5YR5/6明赤褐	黒～5YR6/6橙	坏部に接合部より内湾して立ち上がり口縁に至る 脚部は裾が広く開く	(口縁)横位の箆で (坏部)箆で (脚部)縦位の箆削り	(坏部)黒色処理 みがき (脚部)箆削り	裾部に歪みあり
86	4	SB	11	土師器	甕	21.3	10.8	–	口縁1/4～体部 一部	黄母、白色砂粒を含む	良好	5YR5/6明赤褐	5YR5/6明赤褐	口縁部に外反する	(口縁)横位の箆で (体部)箆削りによる調整	(口縁)横位の箆で (体部)横位の箆磨き	

表24 SB土器観察表(14)

図	No	遺構	番号	種類	器種	口径	器高	底径	残存	胎土	焼成	外面色調	内面色調	成形・形態	外面調整	内面調整	備考
86	5	SB	11	土師器	塞	18.4	9.0	−	口縁1/6～体部一部	雲母、白色砂粒を含む	良好	5YR4/4にぶい赤褐	7.5YR4/4褐	張りのない胴部から緩く外反する口縁部に立ち上がる	(口縁)横位の撫で(体部)縦削り	横位の撫で	
86	6	SB	11	土師器	塞	20.3	13.5	−	口縁1/5～体部一部	雲は、粗砂粒を含む	良好	5YR5/6明赤褐	5YR5/6明赤褐	粘土帯積み上げ 張りのない胴部より僅かに外反する口縁に至る	(口縁)横位の撫で(体部)縦の磨き	(口縁)横位の撫で(体部)縦削り	
87	1	SB	12	土師器	坏	12.6	6.0	−	完存	雲は、白色砂粒、粗砂粒を含む	良好	7.5YR5/4にぶい褐～10YR3/3暗褐	7.5Y R4/4褐～10YR3/2黒褐	丸底より体部は内彎して内傾する口縁に至る	(口縁)横位の撫で(体部)縦磨き	(口縁)横位の撫で(体部)縦磨き	
87	2	SB	12	土師器	坏	10.2	5.2	−	1/2	雲は、赤色土、粗砂粒を含む	良好	7.5YR6/6橙～4/2灰褐	7.5YR6/6橙～4/2灰褐	丸底より体部は内彎して直立する口縁に至る	(口縁)横位の撫で(体部)磨き	(口縁)横位の撫で(体部)縦磨き	
87	3	SB	12	土師器	坏	14.4	6.3	−	1/3	雲母、粗砂粒を含む	良好	5YR5/6明赤褐	5YR5/6明赤褐	丸底より内彎して立ち上がり垂直気味の口縁に至る	(口縁)横位の撫で(体部)磨き	(口縁)横位の撫で(体部)磨き	
87	4	SB	12	土師器	坏	17.4	6.1	−	口縁2/3～体部はば完存	雲母、粗砂粒を含む	良好	5YR6/6橙～10YR7/3にぶい黄橙	5YR6/8橙	丸底より内彎して立ち上がる	(口縁)横位の撫で(体部)磨き	(口縁)横位の撫で	
87	5	SB	12	土師器	甕	14.6	8.8	−	2/3	0.3～0.5の礫、雲は、粗砂粒を含む	良好	7.5YR5/6明褐	7.5YR5/4にぶい褐	丸底より丸みをおびた胴部が立ち上がり外反する口縁に至る	(口縁)横位の撫で(体部)削り	(口縁)横位の撫で(体部)縦削り	
87	6	SB	12	土師器	甕	15.0	9.8	−	口縁1/6～体部	雲母、粗砂粒を含む	良好	7.5YR4/6褐	7.5YR4/6褐～5/6明褐	丸底より内彎して立ち上がり、外反する口縁に至る	(口縁)横位の撫で	(口縁)横位の撫で(体部)削り	
87	7	SB	12	土師器	坏	13.3	6.5	−	口縁1/8～体部	雲は、粗砂粒を含む	良好	5YR5/8明赤褐	5YR5/8明赤褐	丸底より内彎して立ち上がり、短く外反する口縁に至る	(口縁)横位の撫で(体部)削り	(口縁)横位の撫で(体部)削り	
87	8	SB	12	土師器	坏	16	5.2	6.8	口縁～坏部1/3 底部一部	雲は、粗砂粒を含む	良好	7.5YR4/3褐～2/1黒	黒	粘縁成形 平底より僅かに内彎し、外面に浅い稜線を有して立ち上がる	粘縁による撫で	輪幅による撫で 黒色処理	
87	9	SB	12	土師器	甜	−	9.5	−	体部のみ	0.5の礫、雲母、粗砂粒を含む	良好	5YR5/8明赤褐	5YR5/8明赤褐	体部の歪みが大きい		縦削り	
87	10	SB	12	土師器	甕	12.2	−	6.5	口縁1/5～体部1/3	雲母、粗砂粒を含む	良好	10YR4/3にぶい黄褐～2.5Y R5/8明赤褐	10Y R2/1黒	平底から中位に最大径を有する胴がは内彎して立ち上がり「く」状に外反する口縁に至る	(口縁)横位の撫で(体部)磨き	(口縁)横位の撫で(体部)磨き	

表 25　SB 土器観察表 (15)

図	No	遺構	番号	種類	器種	口径	器高	底径	残存	胎土	焼成	外面色調	内面色調	成形・形態	外面調整	内面調整	備考
88	11	SB	12	土師器	甕	23.2	28.2	7.8	ほぼ完存	0.2の礫、雲母、粗砂粒を含む	良好	5Y R4/8赤褐～4/4にぶい赤褐	5Y R4/8赤褐～4/4にぶい赤褐	平底から中位に最大径をもつ張りのある胴部が立ち上がり「く」状に外反する口縁に至る	(口縁)横位の撫で(体部)削り	(口縁)横位の撫で(体部)箆削り	
88	12	SB	12	土師器	甕	19.8	31.3	8.4	口縁2/3　体部ほぼ完存	雲母、粗砂粒を含む	良好	5Y R5/6明赤褐～5/8明赤褐	5Y R6/6橙	平底から中位に最大径をもつ張りのある胴部が立ち上がり「く」状に外反する口縁に至る	(口縁)横位の撫で(体部)刷毛調整　削り	(口縁)横位の撫で(体部)刷毛調整　削り	
88	13	SB	12	土師器	甕	22.6	27.0	8.4	口縁1/3～体部2/3	雲母、粗砂粒を含む	良好	5YR5/6明赤褐	5YR5/6明赤褐	上位に最大径をもつ胴部から「く」状に外反する口縁に至る	(口縁)横位の磨き	(口縁)横位の磨き(体部)箆磨き	
88	14	SB	12	土師器	甕	－	15.2	4.8	胴部～底部完存	雲母、粗砂粒を含む	良好	10YR3/2黒褐～7.5YR4/3褐	7.5YR4/2灰褐～4/3褐	小さめの底部から球形の胴部が立ち上がる	(体部)削り	(体部)削り	
89	1	SB	13	須恵器	蓋	－	3.0	11.8	天井部完存　裾部2/3	粗砂粒、礫を含む	良好	10YR6/2灰黄褐～10Y5/1灰	10YR6/2灰黄褐～10Y5/1灰	機械成形　丸味のある天井から裾部に向かって内弯して下る。	機械による撫で	機械による撫で	歪みが大きい
89	2	SB	13	土師器	坏	12.0	3.9	－	口縁部1/2～底部	石英、粗砂粒を含む	良好	7.5YR7/2明褐灰～黒	黒	丸底より体部は内弯して立ち上がる	(体～底部)箆削り(口縁部)横位の撫で	箆削りの後箆磨き　黒色処理	
89	3	SB	13	土師器	坏	11.9	4.2	－	口縁部1/2～底部	粗砂粒、礫を含む	良好	5YR6/6橙～5/6明赤褐	黒	丸底より体部は内弯して立ち上がり直立気味の口縁部に至る	(体～底部)箆削り(口縁部)横位の撫で	箆削り　撫で　黒色処理	
89	4	SB	13	土師器	坏	12.8	4.6	6.5	口縁部一部～底部1/2	粗砂粒を含む	良好	5YR6/6橙	黒	平底より体部は緩く内弯して立ち上がる	箆削り	箆削り　黒色処理	
89	5	SB	13	土師器	塞	19.4	30.5	－	口縁部1/2～胴部	粗砂粒、礫を含む	良好	2.5YR5/6明赤褐	2.5YR5/6明赤褐	粘土帯積み上げ　張りのない胴部より外反して開く口縁部に至る	(胴部)箆削り　(口縁部)横位の撫で	箆削り　撫で	
89	6	SB	13	土師器	甕	21.6	24.5	－	口縁～胴部一部	石英、粗砂粒を含む	良好	2.5YR3/6暗赤褐	5YR4/4にぶい赤褐	粘土帯積み上げ　張りのない胴部より外反する口縁部に至る	箆削り　刷毛調整	箆削り　撫で	
89	7	SB	13	土師器	甕	14.8	5.5	－	口縁部3/4～胴部上位	粗砂粒を含む	良好	5YR6/4にぶい橙	5YR6/4にぶい橙	粘土帯積み上げ　口縁部は「く」の字状に外反する	(頸部)箆削り　(口縁部)横位の撫で	箆削り　撫で	

表 26　SB 土器観察表 (16)

図	No	遺構	番号	種別	器種	口径	器高	底径	残存	胎土	焼成	外面色調	内面色調	成形・形態	外面調整	内面調整	備考
90	1	SK	02	須恵器	蓋	3.4	2.3	—	摘み部完存　天井部1/5	泥砂粒を含む	良好	5Y5/1灰	5Y5/1灰	ボタン状の摘み部から窄りのない天井部に至る	横転による撫で	横転による撫で	
90	2	SK	02	土師器	皿	6.6	2.3	4.0	2/3	石英、粗砂粒を含む	良好	2.5Y3/1黒褐	2.5Y3/1黒褐	小型の坏	(体部下位)箆削り(底部)回転糸切り		内部に付着物あり
90	3	SK	02	土師器	坏	11.2	3.6	6.0	体部1/2　底部完存	雲母、粗砂粒を含む	良好	5YR5/6明赤褐	黒	緩かな上げ底から体部は内湾して立ち上がる	(体部)横転による撫で	黒色処理	体部外面に煤書
90	4	SK	02	土師器	坏	—	2.4	6.8	体部～底部一部	石英、粗砂粒を含む	良好	5YR6/6橙	黒	平底から体部は内湾して立ち上がる	(底部)回転糸切り	黒色処理	
90	5	SK	02	須恵器	坏	13.5	4.0	6.4	2/3	泥砂粒を含む	良好	N5/ 灰	N5/ 灰	横転成形	(口縁～体部)横転による撫で(底部)回転糸切り	横転による撫で	
90	6	SK	02	須恵器	坏	14.6	4.0	10.2	体部～底部一部　高台部完存	礫、粗砂粒を含む	良好	N3/暗灰	N4/ 灰	横転成形　付け高台	横転による撫で	横転による撫で	
90	7	SK	02	須恵器	坏	—	5.3	9.2	体部～底部　一部	泥砂粒を含む	良好	N3/ 暗灰	N5/ 灰	横転成形　付け高台	横転による撫で	横転による撫で	
90	8	SK	02	須恵器	坏	—	2.1	14.4	高台部～底部一部	泥砂粒を含む	良好	5YR4/1褐	5R4/1暗褐	付け高台	横転による撫で	横転による撫で	
90	9	SK	02	土師器	甕	13.4	6.5	—	LI縁部1/2	石英、雲母、粗砂粒を含む	良好	2.5YR4/6赤褐	2.5YR5/6明赤褐	胴部は緩く外反して口縁に至る	横位の撫で	横位の撫で	
90	10	SK	02	土師器	甕	14.5	7.5	—	LI縁～胴部　一部	石英、雲母、粗砂粒を含む	良好	5YR5/4にぶい赤褐	5YR6/6橙				
90	11	SK	02	土師器	高坏	-	8.8	—	坏部一部　接合部完存	石英、雲母、粗砂粒を含む	良好	5YR4/4にぶい赤褐	5YR6/8橙		丁寧ナデ		
90	12	SK	02	土製品	円盤	5.7	6.0	1.0	完存	泥砂粒を含む	良好	5YR6/6橙	5YR5/6明赤褐				39.5g
91	1	SK	03	土師器	坏	10.7	3.9	—	LI縁～体部1/4	石英、粗砂粒を含む	良好	5YR6/4にぶい橙～5/3にぶい赤褐	5YR6/4にぶい橙～5/3にぶい赤褐	丸底より内湾して立ち上がる	箆削り　(口縁部)横撫で	箆削り　撫で	
91	2	SK	03	土師器	高坏	—	7.5	—	脚部一部	粗砂粒を含む	良好	7.5YR6/6橙	7.5YR6/6橙		縦位の箆撫で	箆削り　指による押圧	
91	3	SK	03	土師器	甕	22.8	7.5	—	口縁1/3～胴部上位一部	粗砂粒、礫を含む	良好	5YR6/6橙～4/2灰褐	5YR6/6橙～4/2灰褐	粘土帯積み上げ窄りのない胴部より外反する口縁部に立ち上がる	(胴部)箆削り(口縁部)横位の撫で	箆撫で	
91	4	SK	03	土師器	甕	20.6	8.2	—	口縁～胴部上位一部	石英、雲母、粗砂粒を含む	良好	5YR4/8赤褐	5YR4/8赤褐	粘土帯積み上げ口縁部は大きく外反する　口唇部に浅く窪い凹帯を有する	(胴部)斜位の刷毛目	(胴部)斜位の刷毛目	

表 28　SK 土器観察表 (1)

図	No	遺構	番号	種類	器種	口径	器高	底径	残存	胎土	焼成	外面色調	内面色調	成形・形態	外面調整	内面調整	備考
92	1	SK	04	土師器	甕	16.6	6.9	—	口縁～胴部上位一部	石英、粗砂粒を含む	良好	7.5YR3/3暗褐	7.5YR3/3暗褐	粘土帯積み上げ 口縁部は「く」の字状に開く	横撫り、箆撫で	箆撫り、箆撫で	
93	1	SK	05	須恵器	坏	13.0	3.4	6.0	1/3	細砂粒を含む	良好	N5/ 灰	N5/ 灰	輪縦成形 上げ底から体部は外内面に稜を有して立ち上がる	(口縁～体部)横撫による撫で(底部)回転糸切り	横撫による撫で	
93	2	SK	05	土師器	甕	11.8	5.0	—	口縁部一部	石英、雲母、細砂粒を含む	良好	5YR5/6明赤褐	5YR4/6赤褐		横位の撫で	横位の撫で	
94	1	SK	06	須恵器	坏	13.2	3.8	6.8	1/4	白色砂粒、細砂粒を含む	良好	7.5Y6/1灰	7.5Y7/1灰	輪縦成形 上げ底から体部は外内面に稜を有して立ち上がる	横撫による撫で	横撫による撫で	
94	2	SK	06	須恵器	坏	14.0	6.2	9.0	口縁～底部 一部	細砂粒を含む	良好	N3/ 暗灰	N5/ 灰	輪縦成形 付け高台	横撫による撫で	横撫による撫で	
94	3	SK	06	須恵器	坏	—	2.5	11.4	体部～底部 一部	細砂粒を含む	良好	N3/ 暗灰	N3/ 暗灰	輪縦成形 付け高台	横撫による撫で	横撫による撫で	
95	1	SK	07	土師器	蓋	4.0	2.9	—	摘み部完存	0.2の礫、雲母、細砂粒を含む	良好	5YR5/6明赤褐	7.5YR5/6明褐	ボタン状の摘み	(摘み部) 撫で (天井部) 箆削り	撫で	
95	2	SK	07	土師器	坏	13.8	4.8	8.0	口縁～体部2/3 底部完存	雲母、細砂粒を含む	良好	7.5YR6/6橙	黒	輪積成形 平底より強かに内湾して立ち上がる	(口縁～体部) 横撫による撫で (底部) 箆調整	撫で 黒色処理	
95	3	SK	07	須恵器	坏	13.5	3.4	6.0	口縁5/6 体部完存	粗砂粒を多く含む	良好	5Y5/1灰	7.5Y5/1灰	輪積成形 平底から体部は外頓して開く	(口縁～体部) 横撫による撫で (底部) 回転糸切り	横撫による撫で	
95	4	SK	07	須恵器	坏	12.3	4.5	6.0	口縁1/5	細砂粒を含む	良好	5Y6/1灰	5Y6/1灰	輪積成形 平底から内外面に稜を有し外頓して立ち上がる	(口縁～体部) 横撫による撫で (底部) 回転糸切り	横撫による撫で	
95	5	SK	07	須恵器	坏	—	4.8	9.7	底部完存	白色(3かの)細砂粒を含む	良好	2.5GY5/1オリーブ灰	2.5GY5/1オリーブ灰	輪縦成形 付け高台から体部は外反して立ち上がる	(体部) 横撫による撫で (底部) 回転糸切りの後撫調整	横撫による撫で	
95	6	SK	07	須恵器	甕	22.4	8.6	—	口縁～胴部上位 1/4	0.2～0.3の礫、細砂粒を含む	良好	2.5Y7/2灰黄	2.5Y7/2灰黄	最大径を持つ胴部から口縁はS字状に作る	横撫による撫で	横撫による撫で	
95	7	SK	07	須恵器	甕	16.3	6.9	—	口縁～胴部上位 1/4	粗砂粒を含む	良好	N3/黒灰	5Y5/1灰	口縁はS字状に作る	横撫による撫で	横撫による撫で	

表 29　SK 土器観察表 (2)

図	No	遺構	番号	種別	器種	口径	器高	底径	残存	胎土	焼成	外面色調	内面色調	成形・形態	外面調整	内面調整	備考
96	1	SK	08	土師器	坏	13.4	4.2	—	1/3残存	石英、雲母、粗砂粒を含む	良好	2.5YR5/6明赤褐	7.5YR3/1黒褐	輪積成形　体部から上げ底から、体部は緩く内湾して立ち上がる	(口縁～体部)横ナデによる整で(底部)回転糸切り	横ナデによる整で	
96	2	SK	08	須恵器	坏	—	1.6	6.6	高台部1/2	金雲母、粗砂粒を含む	良好	7.5YR5/2灰褐	2.5YR5/8明赤褐	付け高台	(底部)回転糸切り		
97	1	SK	10	土師器	坏	13.6	3.7	7.0	完存	雲母、粗砂粒を含む	良好	7.5YR6/4にぶい橙	黒	輪積成形　平底から体部は僅かに内湾して立ち上がる	(口縁～体部)横ナデによる整で(底部)回転糸切り	鹿磨き　黒色処理	
97	2	SK	10	土師器	坏	13.6	4.6	5.4	完存	石英、雲母、粗砂粒を含む	良好	2.5YR6/4にぶい橙	黒	輪積成形　上げ底から体部は僅かに内湾して開く	(底部)回転糸切り	4条の放射状の暗文を施す　黒色処理	
97	3	SK	10	土師器	坏	13.4	4.1	5.8	1/2	雲母、粗砂粒を含む	良好	7.5YR7/4にぶい橙	黒	輪積成形　平底から体部は内湾して立ち上がる	(底部)回転糸切り	磨き　黒色処理	
97	4	SK	10	土師器	坏	13.3	4.2	6.4	完存	雲母、粗砂粒を含む	良好	7.5YR7/6橙	黒～10YR5/8黄褐	輪積成形　平底から体部は僅かに内湾して立ち上がる	(口縁～体部)横ナデによる整で(底部)回転糸切り	鹿磨き？　黒色処理	
97	5	SK	10	土師器	坏	12.9	4.1	5.8	口縁～体部3/4底部完存	粗砂粒を含む	良好	10YR6/4にぶい黄橙	黒～7.5YR7/4にぶい橙	輪積成形　平底から内湾して立ち上がり口縁に至る	(口縁～体部)横ナデによる整で(底部)回転糸切り	磨き　黒色処理	
97	6	SK	10	土師器	坏	13.2	4.0	5.5	口縁～体部2/3底部完存	粗砂粒を含む	良好	5YR6/6橙	黒	輪積成形　平底から僅かに内湾して立ち上がる	(口縁～体部)横ナデによる整で(底部)回転糸切り	横ナデによる整で黒色処理	
98	7	SK	10	土師器	坏	13.5	4.0	6.2	口縁～体部3/4底部完存	雲母、粗砂粒を含む	良好	10YR6/3にぶい黄橙	黒	輪積成形　平底から僅かに内湾して立ち上がり口縁に至る	(口縁～体部)横ナデによる整で(底部)回転糸切り	横ナデによる整で磨き　黒色処理	
98	8	SK	10	土師器	坏	12.6	3.8	6.0	口縁～体部1/8底部完存	雲母、粗砂粒を含む	良好	7.5YR6/6橙	黒	輪積成形　平底から僅かに内湾して立ち上がる	(口縁～体部)横ナデによる整で(底部)回転糸切り	磨き　4条の放射状の暗文を施す　黒色処理	
98	9	SK	10	土師器	坏	16.0	5.8	6.6	1/3残存	礫、雲母、粗砂粒を含む	良好	7.5YR7/3にぶい橙	黒	輪積成形　平底から体部は内湾して立ち上がり、口縁に至る	(口縁～体部)横ナデによる整で(底部)回転糸切り	磨き　黒色処理	内面に付着物あり
98	10	SK	10	土師器	坏	13.3	3.8	6.3	口縁～体部3/4底部完存	雲母、粗砂粒を含む	良好	黒	黒	輪積成形　平底から僅かに内湾して立ち上がる	(口縁～体部)横ナデによる整で(底部)回転糸切り　黒色処理	横ナデによる整で黒色処理	

表 30　SK 1:器観察表 (3)

図	No	遺構	番号	種別	器種	口径	器高	底径	残存	胎土	焼成	外面色調	内面色調	成形・形態	外面調整	内面調整	備考
98	11	SK	10	土師器	碗	15.2	5.0	6.6	1/2	礫、粗砂粒を含む	良好	7.5YR7/2明褐灰	黒	輪積成形 付け高台 体部は外面に稜を有して僅かに内湾して口縁に至る	横撫による撫で	磨き 黒色処理	
98	12	SK	10	土師器	坏	—	0.9	—	底部一部	雲母、粗砂粒を含む	良好	10YR6/4にぶい黄橙	黒			(底部)文字痕？	黒色処理	底部に刻書
98	13	SK	10	土師器	碗	—	2.0	6.2	高台部3/4 底部完存	細砂粒を含む	良好	7.5YR6/4にぶい橙	黒	輪積成形 付け高台		(高台部)横撫による撫で(底部)回転糸切りの後撫で	黒色処理	
98	14	SK	10	土師器	碗	—	2.2	5.5	高台部 底部完存	雲母、粗砂粒を含む	良好	10YR8/4浅黄橙	黒	輪積成形 付け高台		(高台部)横撫による撫で(底部)撫で	黒色処理	
98	15	SK	10	灰釉 陶器	碗	14.4	4.7	7.0	口縁～体部1/2 底部完存	精良	良好	N8/ 灰白	5Y7/1灰白	輪積成形 付け高台 O脚の高台から体部に僅かに内湾して立ち上がり、口縁部で僅かに外反する	横撫による撫で	横撫による撫で		外面口縁～体部中位、内面口縁～体部に施釉
98	16	SK	10	緑釉 陶器	碗	—	3.4	5.8	口縁～体部一部 底部1/4	精良	良好	5Y5/2灰オリーブ	7.5Y5/3灰オリーブ	輪積成形 付け高台から内湾して立ち上がる				
98	17	SK	10	灰釉 陶器	碗	—	2.0	6.6	底部完存	精良	良好	2.5Y6/2灰黄	2.5Y7/1灰白	輪積成形 付け高台	横撫による撫で	横撫による撫で		
98	18	SK	10	土師器	鉢	24.0	10.4	—	口縁部1/4	雲母、粗砂粒を含む	良好	5YR6/6橙～2.5Y2/1黒	7.5YR5/4にぶい褐	粘土帯積み上げ 頸部は「くの字」状に外反して開く	(口縁)横位の撫で(胴部)刷毛目状工具の撫で	(口縁)横位の撫で		
98	19	SK	10	土師器	鉢	—	4.6	8.8	胴部～底部一部	石英、雲母、黒砂粒を含む	良好	7.5YR4/1褐灰	7.5YR6/4にぶい橙					外面底部に付着物
98	20	SK	10	須恵器	甕	—	14.6	12.6	胴部～底部一部	粗砂粒を含む	良好	N3/ 暗灰	N5/ 灰	平底	工具による叩き目			
98	21	SK	10	緑釉 陶器	壺	11.0	2.0	—	口縁部一部	精良	良好	N7/ 灰白	10GY6/1緑灰	LI縁部を短く折り返し帯状にする	横撫による撫で	横撫による撫で		
98	22	SK	10	灰釉 陶器	長頸壺？	—	13.1	9.0	体部～底部一部	精良	良好	7.5Y7/1灰白	5Y7/1灰白	輪積成形	横撫による撫で	横撫による撫で		体部外面上位、内面下位に施釉

表 31 SK 1:器観察表 (4)

図	No	遺構	番号	種類	器種	口径	器高	底径	残存	胎土	焼成	外面色調	内面色調	成形・形態	外面調整	内面調整	備考
99	1	SK	15	須恵器	蓋	3.2	2.3	—	抓み部完存　天井部一部	粗砂粒含む	良好	N5/ 灰	7.5Y5/1灰	ボタン状の抓み部から、張りのある天井部に至る	轆轤による撫で	轆轤による撫で	
99	2	SK	15	須恵器	蓋	3.2	2.3	—	抓み部完存　天井部一部	白色粗砂粒を含む	良好	5Y7/1灰	5Y6/1灰	抓み部はボタン状を呈する	轆轤による撫で	轆轤による撫で	
99	3	SK	15	須恵器	蓋	2.6	2.5	—	抓み部4/5　天井部一部	粗砂粒を含む	良好	N5/ 灰	7.5Y6/1灰	ボタン状の抓み部から張りのない天井部に至る	轆轤による撫で	轆轤による撫で	
99	4	SK	15	須恵器	蓋	—	2.7	21.6	天井部1/5	粗砂粒を含む	良好	5Y5/1灰	5Y5/1灰		轆轤による撫で	轆轤による撫で	
99	5	SK	15	須恵器	蓋	—	2.2	16.4	天井部1/5	0.2の礫、雲母、粗砂粒を含む	良好	7.5Y5/1灰	N5/ 灰	張りのある天井部から短く直立する裾部に至る	轆轤による撫で	轆轤による撫で	
99	6	SK	15	須恵器	蓋	—	1.3	10.2	天井部1/5	粗砂粒を含む	良好	N6/ 灰	N5/ 灰	天井部から短く直立する裾部に至る	轆轤による撫で	轆轤による撫で	
99	7	SK	15	須恵器	蓋	—	2.5	15.5	天井部1/13	粗砂粒を含む	良好	5Y5/1灰	5Y5/1灰	屈曲して巾広の裾部に至る	轆轤による撫で	轆轤による撫で	
99	8	SK	15	土師器	坏	9.2	3.8	5.8	1/3	石英、雲母、粗砂粒を含む	良好	7.5YR8/4浅黄橙	7.5YR7/4にぶい橙		撫で	撫で	
100	9	SK	15	土師器	坏	13.0	4.8	7.5	口縁～体部2/3 底部3/4	雲母、粗砂粒を含む	良好	7.5YR7/4にぶい橙	5YR6/6橙	轆轤成形　平底から体部に内弯して立ち上がる	(口縁～体部)轆轤による撫で(底部)回転糸切り後箆調整	箆磨き	
100	10	SK	15	土師器	坏	14.5	4.9	6.5	口縁～胴部1/3	雲母、粗砂粒を含む	良好	5YR5/6明赤褐	2.5YR5/6明赤褐～黒	轆轤成形　小さめの平底から内弯して立ち上がり口縁に至る	(口縁～体部)轆轤による撫で(底部)箆調整	轆轤による撫で箆磨き	
100	11	SK	15	土師器	坏	—	2.8	7.0	胴～底部1/2	0.3の礫、粗砂粒を含む	良好	5YR6/6橙	5YR6/6橙	轆轤成形　平底から立ち上がる	(体部)轆轤による撫で(底部)回転糸切り後箆調整	轆轤による撫で	
100	12	SK	15	土師器	坏	12.2	3.8	—	口縁～底部一部	石英、雲母、粗砂粒を含む	良好	5YR6/8橙	黒	丸底から体部は内弯して直立気味の口縁に立ち上がる	(底部)箆磨り	黒色処理	
100	13	SK	15	須恵器	坏	14.0	4.9	6.3	ほぼ完存	粗砂粒を含む	良好	2.5Y7/1灰白	2.5Y6/2灰黄	轆轤成形　上げ底から体部に外傾屈曲して立ち上がる	(口縁～体部)轆轤による撫で(底部)回転糸切り	轆轤による撫で	
100	14	SK	15	須恵器	坏	13.7	3.4	7.7	ほぼ完存	0.3の礫、粗砂粒を含む	良好	2.5Y7/1灰白	5Y7/1灰白	轆轤成形　丸底気味の底部から外傾屈曲して立ち上がる	(口縁～体部)轆轤による撫で(底部)箆調整		

表 32　SK 土器観察表 (5)

図	No	遺構	番号	種別	器種	口径	器高	底径	残存	胎土	焼成	外面色調	内面色調	成形・形態	外面調整	内面調整	備考
100	15	SK	15	須恵器	坏	14.3	3.7	5.9	口縁部3/4～底部完存	0.3の礫、粗砂粒を含む	良好	5Y6/1灰	5YG/1灰	成形 小さめの平底からわずかに内湾して立ち上がる	横転による撫で(口縁～体部)横転による撫で(底部)回転糸切り	横転による撫で	
100	16	SK	15	須恵器	坏	—	2.8	7.0	底部完存	0.2の礫、粗砂粒を含む	良好	2.5Y6/1黄灰	2.5Y6/1黄灰	成形 上げ底気味の底部から立ち上がる	横転による撫で(体部)横転による撫で(底部)回転糸切り	横転による撫で	
100	17	SK	15	須恵器	坏	16.0	7.0	10.5	口縁～体部一部底部1/2	粗砂粒を含む	良好	2.5Y5/1黄灰～7.5YR5/2灰褐	5YR5/3にぶい赤褐	成形 付け高台の底部から体部は屈曲外傾して立ち上がる	(口縁～底部)横転による撫で(高台部)横位の撫で(底部)回転糸切り	横転による撫で	
100	18	SK	15	須恵器	坏	14.8	6.2	9.8	1/3	白色砂粒、雲母、粗砂粒を含む	良好	5YR4/1褐灰	5YR4/2灰褐	成形 付け高台の底部から体部は屈曲して直立気味に立ち上がる	横転による撫で	横転による撫で	
100	19	SK	15	須恵器	坏	15.3	4.7	—	口縁～体部 一部	細砂粒を含む	良好	5Y6/1灰	2.5Y5/1黄灰	成形 体部は外傾して口縁に至る	(口縁～体部)横転による撫で	横転による撫で	
100	20	SK	15	須恵器	高坏	—	6.7	9.7	脚部1/4	白色砂粒、細砂粒を含む	良好	N6/ 灰	N6/ 灰	成形 脚部に二角形の透彫が3つ?ある	横転による撫で	横転による撫で	
100	21	SK	15	土師器	甕	14.2	6.1	—	口縁～胴部一部	石英、雲母、粗砂粒を含む	良好	7.5YR5/4にぶい褐	7.5YR5/3にぶい褐	頸部は「くの字」状に屈曲して外反する口縁に立ち上がる	横位の撫で	撫で	
100	22	SK	15	土師器	甕	10.8	6.0	—	口縁～胴部 一部	0.4の礫、粗砂粒を含む	良好	7.5YR6/4にぶい橙	7.5YR6/4にぶい橙	張りのない胴部から短く開く口縁に至る	(胴部)底部ケズリ	撫で	
100	23	SK	15	土師器	甕	10.2	4.0	—	口縁部1/3	石英、雲母、粗砂粒を含む	良好	7.5YR5/3にぶい褐	7.5YR5/2灰褐	頸部は「くの字」状に外反する			
100	24	SK	15	須恵器	甕	20.6	9.0	—	口縁～胴部 一部	細砂粒を含む	良好	2.5Y7/1灰白	2.5Y6/2灰黄	最大径を有する口縁部は口縁帯をS字状に作る	横転による撫で	横転による撫で	
100	25	SK	15	須恵器	甕	6.3	6.0	—	口縁～胴部一部	白色砂粒を含む	良好	7.5YR5/2灰褐	N4/ 灰	成形 成形			
100	26	SK	15	須恵器	甕	31.4	3.1	—	口縁部 一部	白色砂粒ほかの粗砂粒を含む	良好	5RP4/1暗紫灰	5RP4/1暗紫灰	口縁部に外反し端部に段を有する口縁帯を作る	撫で	撫で	

表33 SK 1器観察表(6)

図	No	遺構	番号	種類	器種	口径	器高	底径	残存	胎土	焼成	外面色調	内面色調	成形・形態	外面調整	内面調整	備考
100	27	SK	15	須恵器	甕	—	5.5	—	口縁部一部	白色粗砂粒を含む	良好	N3/ 暗灰	N5/ 灰	口縁部は外反して端部に段を附けた口縁部を作る	撫で	撫で	
100	28	SK	15	須恵器	甕	—	7.0	16.2	胴～底部一部	0.2～0.4の礫、粗砂粒を含む	良好	N6/ 灰～5GY4/3 暗オリーブ灰	5Y6/1灰	粘土帯積み上げ	(胴部)平行文工具による叩き(胴部下位)箆削り (底部)箆調整	横位の撫で	
100	29	SK	15	須恵器	甕	—	9.2	—	口縁～胴部一部	石英、雲母、粗砂粒を含む	良好	N3/ 暗灰	5Y6/1灰	口縁部は穏やかに外反して端部に口縁帯を作る	撫で	撫で	
100	30	SK	15	須恵器	甕	—	6.1	—	口縁～胴部一部	粗砂粒を含む	良好	N6/ 灰	N4/ 灰	口縁部は外反して端部に口縁帯を作る	(胴部)平行文工具による叩き	撫で	

表 34　SK 土器観察表 (7)

図	No	遺構	番号	種類	器種	口径	器高	底径	残存	胎土	焼成	外面色調	内面色調	成形・形態	外面調整	内面調整	備考
101	1	SD	01	土師器	坏	—	1.6	6.0	底部1/2～体部一部	石英、粗砂粒を含む	良好	10YR7/2にぶい黄褐～3/2黒褐	黒	焼成形　平底より僅かに内弯して立ち上がる	(底部) 回転糸切りの後箆調整	箆磨き　黒色処理	
101	2	SD	01	土師器	甕	—	2.2	8.5	底部完	石英、雲母、粗砂粒を含む	良好	7.5YR3/4暗褐～3/1黒褐	5YR7/6橙	粘土帯積み上げ平底	箆削り、撫で	箆削り	

表 35　SD 土器観察表

図	No	遺構	番号	種類	器種	口径	器高	底径	残存	胎土	焼成	外面色調	内面色調	成形・形態	外面調整	内面調整	備考
102	1	Po	01	須恵器	甕	58.0	23.3 38.0	—	口縁～頸部　胴～底部	粗砂粒、礫を含む	良好	10Y4/1灰	10Y5/1灰	丸底より緩く立ち上がり、歪みが大きい胴部は「くの字」状に外反し、折り返し口縁帯を有す	(口縁部) 3条の櫛歯状工具による波状文を施す (胴部) 平行文工具による叩き	青海波状の叩き	口縁一部に自然釉
103	1	Po	02	須恵器	甕	63.0	28.3 58.0	—	口縁～頸部　胴～底部	粗砂粒、礫を含む	良好	2.5GY5/1オリーブ	5PB4/1暗青灰	粘土帯積み上げ。不安定な丸底より歪みが大きい胴部に立ち上がる。頸部は「くの字」状に外反し、折り返し口縁帯を有す	(口縁部) 6条の櫛歯状工具による波状文を施す (胴部) 平行文工具による叩き	撫で	
104	1	Po	04	縄文土器	深鉢	-	33.5	8.5	胴部～底部	粗砂粒を含む	良好	5YR6/6橙～7.5YR6/4にぶい橙	7.5YR6/6橙		逆V字形沈線 L R 縄文を施す		
104	2	Po	05	縄文土器	深鉢	-	23.5	11	胴部	雲母、粗砂粒を含む	良好	7.5YR5/6明褐	10YR4/1褐灰～黒		L R 縄文を施す	削り	

表 36　Po 土器観察表

図	No	遺構	番号	種類	器種	口径	器高	底径	残存	胎土	焼成	外面色調	内面色調	成形・形態	外面調整	内面調整	備考
105	1	P	07	縄文土器	深鉢	—	(4.1)	—	胴部一部	石英、粗砂粒を含む	良好	5YR5/6明赤褐	5YR5/4にぶい赤褐		刻みを入れた隆帯を巡らす		
105	2	P	29	土師器	鉢	16	5.8	—	口縁～体部一部	石英、粗砂粒を含む	良好	5YR6/4にぶい橙～4/6赤褐	7.5YR6/4にぶい橙	内弯して立ち上がり直立する口縁に至る	(口縁部)横位の撫で	磨き	
105	3	P	29	縄文土器	深鉢	—	(7.9)	—	把手部	石英、雲母、粗砂粒を含む	良好	5YR5/6明赤褐～2/1黒褐	5YR3/1黒褐	把手部から胴部に1孔を穿つ	縄文	箆撫で	
105	4	P	38	土師器	鉢	21.8	7.5	—	口縁～体部一部	粗砂粒を含む	良好	5YR6/6橙	5YR6/6橙	丸底から内弯して立ち上がり口縁部は外反する	扇毛調整	扇毛調整	
105	5	P	38	土師器	皿	8	2.8	—	3/4	石英、雲母、粗砂粒を含む	良好	10YR7/3にぶい黄橙	10YR7/4にぶい黄橙	手捏ね			手捏ね
105	6	P	46	土師器	坏	-	2.6	—	口縁部一部	石英、粗砂粒を含む	良好	5YR6/6橙	黒	口縁部はS字状を呈する		黒色処理	
105	7	P	57	須恵器	坏	13.6	4.5	7	口縁～底部1/4	白色粗砂粒を含む	良好	N5/ 灰	N5/ 灰	横軸成形　下底から体部は鏡を有して外傾して開く	(口縁～体部)横軸による撫で(底部)回転糸切りの後箆調整	輪軸による撫で	
105	8	P	62	縄文土器	深鉢	—	(5.5)	—	口縁部一部	石英、雲母、粗砂粒を含む	良好	5YR5/4にぶい赤褐	5YR5/4にぶい赤褐		沈線による文様　縄文	箆撫で	
105	9	P	92	須恵器	坏	12.4	3.3	6	口縁～体部1/5、底部1/2	粗砂粒を含む	良好	7.5YR5/2灰褐	7.5YR5/1褐灰	輪軸成形　上げ底から体部内外面に鏡を有して立ち上がる	(口縁～体部)輪軸による撫で(底部)回転糸切り	輪軸による撫で	
105	10	P	99	須恵器	坏	12.2	3.6	6.8	口縁～底部一部	細砂粒を含む	良好	10Y6/1灰	5Y6/1灰	輪軸成形　上げ底気味の底部から体部に鏡を有して立ち上がる	(口縁～体部)輪軸による撫で(底部)回転糸切り	輪軸による撫で	
105	11	P	131	須恵器	蓋	2	1.2	—	抓み部完存、天井部一部	粗砂粒を含む	良好	N5/ 灰	N5/ 灰	抓み部はボタン状を呈する	(抓み部)撫で(天井部)輪軸による撫で	横軸による撫で	
105	12	P	164	縄文土器	深鉢	—	(6.3)	—	胴部一部	石英、雲母、粗砂粒を含む	良好	7.5YR4/3褐	7.5YR7/3にぶい橙		沈線による文様	箆撫で	

表 37　P 土器観察表

図	No	遺構	番号	種類	器種	口径	器高	底径	残存	胎土	焼成	外面色調	内面色調	成形・形態	外面調整	内面調整	備考
106	1	G	D10	須恵器	蓋	2.7	3.3	15.6	抓み部完存、天井部上位1/4、下位1/12	白色砂粒、粗砂粒を含む	良好	N5/ 灰	N5/ 灰	扁平な擬宝珠状を呈する抓み部から張りのある天井部が広がり、短く屈曲する裾部に至る	(抓み部天井部下位)輪縄による撫で(天井部上位)輪縄による箆削り	輪縄による撫で	
106	2	G	G9	須恵器	蓋	2.8	1.9	—	抓み部完存、天井部上位1/5	粗砂粒を含む	良好	5Y6/2灰オリーブ～N6/ 灰	N5/ 灰	擬宝珠状の抓み部		輪縄による撫で	外面に灰オリーブの軸がかかる
106	3	G		須恵器	蓋	3.2	1.4	—	抓み部完存	白色はかの粗砂粒を含む	良好	7.5Y5/1灰	7.5Y5/1灰	輪縄成形　ボタン状の抓み部	撫で	輪縄による撫で	
106	4	G		須恵器	蓋	2.9	1.5	—	抓み部2/3	白色はかの粗砂粒を含む	良好	7.5Y5/1灰～4/1灰	5Y4/1灰	輪縄成形　ボタン状の抓み部	輪縄による撫で	輪縄による撫で	
106	5	G	Tr-18	須恵器	蓋	3.5	1.8	—	抓み部完存、天井部一部	粗砂粒を含む	良好	10Y6/1灰～4/1灰	10Y6/1灰～4/1灰	輪縄成形　ボタン状の抓み部から張りのある天井部に至る	輪縄による撫で	輪縄による撫で	火押あり
106	6	G		須恵器	蓋	2.8	2.1	—	抓み部完存、天井部一部	白色はかの粗砂粒を含む	良好	2.5Y5/1黄灰	2.5Y5/1黄灰	機械成形　擬宝珠形の抓み	(抓み部) 撫で (天井部上位) 輪縄による撫で	輪縄による撫で	
106	7	G	Tr-11	須恵器	蓋	2.7	1.3	—	抓み部完存	粗砂粒を含む	酸化炎焼成	7.5YR4/6褐	7.5YR4/4褐	輪縄による撫で ボタン状の抓み部	輪縄による撫で	輪縄による撫で	
106	8	G	Tr-09	須恵器	蓋	2.6	1.9	—	抓み部完存	白色砂粒、粗砂粒を含む	良好	N5/ 灰	N5/ 灰	丸みがかった擬宝珠状の抓み部	(抓み部)撫で	輪縄による撫で	
106	9	G		須恵器	蓋	—	2.2	—	天井部一部	粗砂粒を含む	良好	5Y4/1灰	5Y4/1灰	輪縄成形	(天井部上位) 輪縄による撫で	輪縄による撫で	
106	10	G	Tr 10	須恵器	蓋	—	2.2	14.2	天井部1/4	白色砂粒、粗砂粒を含む	良好	N6/ 灰～4/ 灰	N6/ 灰～4/ 灰	輪縄成形　張りのある天井部から短く直立する裾部に至る	輪縄による撫で	輪縄による撫で	
106	11	G	Tr 18	須恵器	蓋	—	1.8	16.0	裾部1/5	粗砂粒を含む	良好	5Y6/1灰～3/1オリーブ黒	2.5Y5/1黄灰～4/1黄灰	輪縄成形　短く屈曲する裾部	輪縄による撫で	輪縄による撫で	
106	12	G	G12	須恵器	蓋	—	3.5	15.6	天井部1/5	白色砂粒、粗砂粒を含む	良好	5Y5/1灰	5Y6/2灰オリーブ～5Y6/1灰	張りのある天井部から内傾する裾部に至る	輪縄による撫で	輪縄による撫で	内面に灰オリーブの軸がかかる
106	13	G		須恵器	蓋	—	2.3	16.0	天井部一部	粗砂粒を含む	良好	7.5Y6/1灰	7.5Y6/1灰	機械成形　張りのある天井部から短く屈曲する裾部に至る	(天井部上～下位) 輪縄による撫で	輪縄による撫で	

表 38　遺構外出土土器観察表 [歴史時代](1)

図	No	遺構	番号	種類	器種	口径	器高	底径	残存	胎土	焼成	外面色調	内面色調	成形・形態	外面調整	内面調整	備考
106	14	G	Tr-01	土師器	皿	11.8	1.8	~	口縁部一部	粗砂粒を含む	良好	7.5YR8/4浅黄橙	7.5YR8/4浅黄橙	横輪成形　浅い体部	脇輪による撫で	輪輪による撫で	
106	15	C		上師器	皿	13.1	3.2	6.6	口縁一部～底部完存	粗砂粒を含む	良好	7.5YR7/4にぶい橙	黒	横輪成形　体部に浅く大きく回く付け高台	（口縁～体部）輪輪による撫で　（底部）回転糸切り後撫調整	磨き　黒色処理	
106	16	G	Tr-01,03	灰釉陶器	皿	15.6	2.2	~	口縁部一部	粗砂粒を含む	良好	10Y6/2オリーブ灰	10Y6/2オリーブ灰	横輪成形　口縁部は外反する	脇輪による撫で		
106	17	G	Tr-08	土師器	坏	13.6	3.7	5.6	口縁～底部一部	礫、石英、粗砂粒を含む	良好	7.5YR7/3にぶい橙	5YR7/2明褐灰～5/1褐灰	輪輪成形　平底から内弯して立ち上がる	（口縁～体部）輪輪による撫で（底部）回転糸切り	輪輪による撫で	
106	18	C	Tr-8	上師器	坏	14.6	4.2	~	口縁～体部一部	粗砂粒を含む	良好	10YR7/4にぶい黄橙	10YR7/4にぶい黄橙	横輪成形	（口縁～体部）輪輪による撫で	輪輪による撫で　筋調整	
106	19	G	Tr-19	土師器	坏	13.8	5.0	6.2	1/2	0.3～0.5の礫、雲母、粗砂粒を含む	良好	7.5YR5/4にぶい褐～7.5Y2/1黒	7.5YR5/4にぶい褐～7.5Y2/1黒	輪輪成形　平底から体部は内弯して立ち上がる	（口縁～体部）輪輪による撫で	輪輪による撫で　崩毛調整	
106	20	G		土師器	坏	15.4	4.9	9.0	1/2	0.2～0.3の礫、雲母、粗砂粒を含む	良好	7.5YR5/6明褐	7.5YR6/6橙	横輪成形　平底から体部は外傾して開く	（口縁～体部）横輪による撫で　（底部）筋調整	輪輪による撫で	
106	21	G	Tr-11	土師器	坏	14.8	4	~	口縁～体部一部	石英、粗砂粒を含む	良好	7.5YR6/4にぶい橙	7.5YR6/3にぶい褐～4/1褐灰	内弯する体部から口縁部は緩やかに外反する	撫で	（口縁部）崩毛調整（体部）磨き	
106	22	C		上師器	坏	14	2.3	~	口縁一部	雲母、粗砂粒を含む	良好	2.5YR5/6明赤褐	2.5YR5/6明赤褐	外反する口縁	横位の磨き	横位の磨き	
106	23	G	Tr-08	土師器	坏	~	1.9	5.8	底部完存	雲母、粗砂粒を含む	良好	10YR5/4にぶい黄褐～2.5Y3/1黒褐	7.5YR6/6橙～2.5Y3/1黒褐	輪輪成形　平底	（底部）回転糸切り	輪輪による撫で	
106	24	G	Tr-18	土師器	坏	~	2.3	6.2	底部完存	0.2～0.4の礫、粗砂粒を含む	良好	7.5YR5/4にぶい褐	7.5YR6/4にぶい橙	横輪成形　平底から立ち上がる	（底部）回転糸切り	輪輪による撫で	
106	25	C	Tr-02	上師器	坏	13.6	4.3	5.6	口縁部一部、底部完存	粗砂粒を含む	良好	5YR7/3にぶい橙～7/6橙	黒	横輪成形　平底から内弯して立ち上がり、浅い縁を有して立ち上がる	横輪による撫で	輪輪による撫で　黒色処理	
106	26	G	Tr-01	土師器	坏	14.8	4.4	7.6	口縁～体部1/5、底部1/4	粗砂粒を含む	良好	5YR4/4にぶい赤褐～2.5Y2/1黒	黒	輪輪成形　平底から体部は外傾して開く	（口縁～体部）輪輪による撫で（底部）回転糸切り	横輪による撫で　黒色処理	
106	27	C		上師器	坏	12.8	3.8	5.9	口縁2/3	礫、雲母、石英、粗砂粒を含む	良好	5YR6/6橙	黒	輪輪成形　平底より内弯して立ち上がる	（口縁～体部）輪輪による撫で	輪輪による撫で　黒色処理	

表39　遺構外出土土器観察表［歴史時代］(2)

図	No	遺構	番号	種類	器種	口径	器高	底径	残存	胎土	焼成	外面色調	内面色調	成形・形態	外面調整	内面調整	備考
107	28	G		土師器	坏	12.8	4.0	5.0	体部1/2、底部完存	雲母、白色砂粒、粗砂粒を含む	良好	7.5YR6/6橙	黒	輪軸成形　下底から体部は外傾して開き口縁に至る	（口縁～体部）輪軸による撫で　焼調整（底部）回転糸切り後箆調整	輪軸による撫で黒色処理	
107	29	G		土師器	坏	13.5	4.0	5.6	1/4	粗砂粒を含む	良好	7.5Y6/4にぶい橙	黒	輪軸成形　平底から体部は外傾して開き口縁に至る	（口縁～体部）輪軸による撫で　（底部）回転糸切り	輪軸による撫で黒色処理	
107	30	G	E11	土師器	坏	―	3.5	7.2	体部一部、高部1/2	石英、雲母、粗砂粒を含む	良好	5YR7/6橙	N3/暗灰	輪軸成形　下底から体部は内弯して立ち上がる	(体部)輪軸による撫で(底部)回転糸切り	黒色処理	器内面が荒れる
107	31	G	Tr 18	土師器	坏	―	1.8	5.8	体部一部、高部完存	石英、粗砂粒を含む	良好	7.5YR7/4にぶい橙	黒	輪軸成形　下底から内弯して立ち上がる	(体部)輪軸による撫で(底部)回転糸切り	輪軸による撫で　磨き　黒色処理	
107	32	G	Tr-11	須恵器	坏	13.4	4.0	7.0	口縁～底部1/3	礫、粗砂粒を含む	良好	10Y7/1灰白	7.5Y6/1灰	輪軸成形　上げ底気味の底部から内弯して立ち上がる	(口縁～体部)輪軸による撫で(底部)回転糸切り	輪軸による撫で	
107	33	G		須恵器	坏	14.0	3.8	6.6	口縁1/4～底部1/2	礫、石英、粗砂粒を含む	良好	5Y6/1灰～5/1灰	5Y6/1灰	輪軸成形　上げ底気味の底部から外面に浅い粒を有して立ち上がる	（口縁～体部）輪軸による撫で　（底部）回転糸切り	輪軸による撫で	
107	34	G		須恵器	坏	14.9	4.2	7.8	口縁～底部一部	粗砂粒を含む	良好	7.5Y5/1灰～4/1灰	7.5Y5/1灰～4/1灰	輪軸成形　平底から体部は粒を有し外傾して開く	（口縁～体部）輪軸による撫で　（底部）回転箆切りの後調毛雑軸	輪軸による撫で箆削り　火線	
107	35	G		須恵器	坏	13.6	4.1	5.9	口縁～高部一部	粗砂粒を含む	酸化炎焼成	7.5YR6/3にぶい褐～5/1褐灰	7.5YR6/3にぶい褐～5/1褐灰	輪軸成形　平底から内外面に浅い粒を有して立ち上がる	（口縁～体部）輪軸による撫で　（底部）回転糸切り	輪軸による撫で	
107	36	G	G13	須恵器	坏	14.4	4.0	―	口縁～底部一部	0.2の礫、石英、雲母、粗砂粒を含む	良好	5Y6/1灰	5Y6/1灰	輪軸成形　体部は直立気味に立ち上がり口縁に至る	輪軸による撫で	輪軸による撫で	
107	37	G	Tr-07	須恵器	坏	―	3.2	7.2	体部一部、底部3/4	粗砂粒を含む	酸化気味	10YR4/1褐灰～3/3暗褐	10YR3/3暗褐	輪軸成形　上げ底気味の底部から内弯して立ち上がる	(体部)輪軸による撫で(底部)回転糸切り	輪軸による撫で	
107	38	G	F10	須恵器	坏	―	1.9	9.0	底部1/2	0.2～0.3の礫、粗砂粒を含む	良好	5Y5/1灰	5Y5/1灰	輪軸成形　付け高台	(高台部)横位の撫で(底部)回転糸切りの後箆調整	輪軸による撫で	
107	39	G		須恵器	坏	―	1.1	9.4	高部1/2	粗砂粒を含む	良好	10Y6/1灰～5/1灰	10Y6/1灰～5/1灰	輪軸成形　付け高台	（体部）輪軸による撫で　（底部）回転箆切り後調毛調整	輪軸による撫で	

表40　遺構外出土土器観察表［歴史時代］(3)

図	No	遺構	番号	種類	器種	口径	器高	底径	残存	胎土	焼成	外面色調	内面色調	成形・形態	外面調整	内面調整	備考
107	40	G		須恵器	坏	－	1.0	12.8	底部一部	礫、粗砂粒を含む	酸化炎焼成	7.5YR3/2灰褐	7.5YR3/2灰褐	軸縫成形　付け高台	横縫による無で	横縫による無で	
107	41	G	E16	須恵器	坏	－	1.7	6.8	体部下位～底部1/2	白色砂粒、粗砂粒を含む	良好	N4/ 灰	N5/ 灰	軸縫成形　付け高台	(体部下位)縦縫による無で(高台部)横位の無で(底部)回転糸切りの後箆調整	輪縫による無で	
107	42	G	Tr 13	須恵器	坏	－	1.4	6.8	底部1/3	白色砂粒、粗砂粒を含む	酸化炎焼成	2.5YR5/4にぶい赤褐	2.5YR4/1赤灰	軸縫成形　付け高台	輪縫による無で		
107	43	G	Tr-07	灰釉陶器	坏	－	2.0	6.0	体部下位、底部1/4	粗砂粒を含む	良好	10Y7/1灰白	10Y7/1灰白	輪縫成形　平底	(体部)縦縫による無で(底部)回転糸切り	箆調整	
107	44	G	Tr-07	土師器	鍋	－	2.1	6.2	体部一部、底部は口縁完存	石英、雲母、粗砂粒を含む	良好	7.5YR7/3にぶい橙～6/3にぶい褐	黒	軸縫成形　付け高台	(体部)横縫による無で(底部)回転糸切りの後無で	磨き　黒色処理	
107	45	G	F10	土師器	鍋	－	2.0	6.4	底部1/2	粗砂粒を含む	良好	5YR7/6橙	黒	付け高台		黒色処理	
107	46	G		土師器	高坏	－	4.9	10.0	接合部～裾部一部	粗砂粒を含む	良好	5YR6/6橙	5YR6/6橙　坏部黒	脚部にナデ状に開く	箆削り	箆切りの後周毛調整	
107	47	G		土師器	高坏	－	3.8	－	接合部～脚部一部	0.2～0.3の礫、白色砂粒、粗砂粒を含む	良好	5YR6/6橙	坏部黒		箆削り		
107	48	G	Tr 08	土師器	甕	27.1	8.2	－	口縁部一部	粗砂粒を含む	良好	7.5YR5/4にぶい褐～10YR4/2灰黄褐	7.5YR5/4にぶい褐～10YR4/2灰黄褐	粘土帯積み上げ　裾りのない胴部から外反して口縁に至る	(口縁～胴部上位)横位の無で	(胴部)横位の無で	
107	49	G	Tr-18	土師器	甕	16.5	7.3	－	口縁～胴部一部	粗砂粒を含む	良好	7.5YR4/6褐	7.5YR5/4にぶい褐～10YR3/2黒褐	粘土帯積み上げ　胴部に「くの字」状に外反する	(口縁部)横位の無で(胴部)横位の無で箆調整？	(口縁部)横位の無で(胴部)箆磨き	
107	50	G	Tr-01	土師器	甕	25.3	5.3	－	口縁部1/2	粗砂粒を含む	良好	2.5Y5/6明赤褐	5YR5/6明赤褐	外反する口縁に至る	(口縁部)横位の無で	横位の無で	
107	51	G	Tr-18	土師器	甕	11.6	4.6	－	口縁～体部1/4	粗砂粒を含む	良好	2.5Y5/6明赤褐	2.5Y5/6明赤褐		(口縁～体部)横位の無で	(口縁部)横位の無で(体部)扇毛調整？	
107	52	G	E11	土師器	甕	14	6.3	－	口縁～胴部上位	粗砂粒を含む	良好	5YR6/4にぶい橙	5YR6/4にぶい橙～4/2灰褐	口縁に緩く外反する	横位の無で	無で	
107	53	G	Tr-04	土師器	甕	－	4.8	5.7	胴部下位、底部完存	石英、雲母、粗砂粒を含む	良好	7.5YR5/6明褐～4/3褐	10YR7/4にぶい黄褐	平底	無で	無で	
107	54	G		土師器	甕	－	1.8	5.1	底部完存	礫、石英、雲母、粗砂粒を含む	良好	5YR4/6赤褐	7.5YR5/3にぶい褐～3/1黒褐	小さめの平底、内面は底中央が厚くなる	箆削り、扇毛調整	横位の扇毛無で	
107	55	G	Tr 14	須恵器	甕	18.4	6.2	－	口縁部一部	礫、粗砂粒を含む	良好	7.5Y5/1灰	10YR5/2灰黄褐～3/1黒褐	口縁帯を巡らす		(胴部)扇毛調整	

表41　遺構外出土土器観察表 [歴史時代](4)

図	No.	遺構	番号	種類	器種	口径	器高	底径	残存	胎土	焼成	外面色調	内面色調	成形・形態	外面調整	内面調整	備考
107	56	G	J 12	須恵器	甕	15.6	5	―	口縁～胴部上位	粗砂粒を含む	良好	N4/灰～5/灰	N5/灰	輪積成形　頸部は外傾し、口縁部は緩い段を有し僅かに内傾する	横撫による撫で	横撫による撫で	
108	57	G	Tr-18	須恵器	壺	～	6.2	～	口縁～胴部 一部	粗砂粒を含む	良好	10YR5/1褐灰	10Y5/1灰	口縁帯を巡らす	(口縁部)横位の撫で(胴部)平行文工具による叩き	横位の撫で	
108	58	G	E 11	須恵器	壺	～	11.5	～	口縁～胴部上位	粗砂粒を含む	良好	10Y 4/1灰	N 5/灰	頸部に外傾して開き、肩部に口縁帯を作る	(口縁部)横位の撫で　(胴部)叩き目	横位の撫で	
108	59	G		須恵器	壺	～	3.7	～	口縁 一部	礫、粗砂粒を含む	良好	5Y5/1灰～4/1灰	N4/灰～5/暗灰	輪積成形　外反する頸部から、口縁部に短く直立し帯状をなす	横撫による撫で	横撫による撫で	
108	60	G		須恵器	壺	～	3.4	9.8	底部1/4	白色比かの粗砂粒を含む	還元焼成	10YR6/2灰黄褐～2.5Y6/2灰黄	7.5YR5/2灰褐		(胴部)横位の撫で(底部)見込調整	撫で	
108	61	G		灰釉陶器	椀	―	1.8	―	口縁一部	細砂粒を含む	良好	10Y7/2灰白	10Y7/2灰白	輪積成形　折り返し口縁帯をつける	横撫による撫で	横撫による撫で　内外面に輪積がかかる	
108	62	G	Tr 11	灰釉陶器	椀	―	1.3	8.2	高部一部	精良	良好	7.5Y7/1灰白～7/2灰白	7.5Y7/1灰白～7/2灰白	輪積成形　付け高台の内側に面取りを施す	横撫による撫で		外内面に一部施釉
108	63	G	Tr 05	土師器	耳皿	10.3	2.3	6.0	口縁1/4、高部完存	雲母、細砂粒を含む	良好	黒	黒	耳皿　口縁部の2ヶ所を内側に折る	黒色処理	黒色処理	
108	64	G	Tr-11	須恵器	硯	12.8	1.9	～	一部	微砂粒を僅かに含む	良好	N6/ 灰	N5/ 灰	円面硯？	輪積による撫で	輪積による撫で	

表 42　遺構外出土土器観察表 [歴史時代](5)

図	No	遺構	番号	種類	器種	口径	器高	底径	残存	胎土	焼成	外面色調	内面色調	成形・形態	外面調整	内面調整	備考
109	1	G	Z	縄文土器	深鉢	－	5.7	－	口縁部一部	石英、粗砂粒を含む	良好	7.5YR4/1褐灰	7.5YR6/6橙	口縁部に孔を穿つ	箆削り	箆撫で	
109	2	G	Z	縄文土器	深鉢	－	7.9	－	口縁部一部	粗砂粒を含む	良好	10YR6/3にぶい黄橙	10YR6/3にぶい黄橙	口縁部は内弯する	沈線による文様 縄文	箆撫で	
109	3	G	Z	縄文土器	深鉢	－	5.0	－	胴部一部	石英、粗砂粒を含む	良好	7.5YR7/2明褐灰	7.5YR5/4にぶい褐		磨消縄文を施した後、沈線の区画を施す		
109	4	G	Z	縄文土器	深鉢	－	5.5	－	口縁部一部	粗砂粒を含む	良好	7.5YR6/4にぶい橙	7.5YR6/4にぶい橙	口縁部は内弯する	沈線を巡らす 縄文	箆撫で	
109	5	G	Z	縄文土器	深鉢	－	4.5	－	口縁部一部	石英、粗砂粒、礫を含む	良好	7.5YR5/4にぶい褐～4/4褐	7.5YR5/4にぶい褐		連続して押圧した隆帯を巡らす		
109	6	G	Z	縄文土器	深鉢	－	4.8	－	口縁部一部	雲母、粗砂粒を含む	良好	7.5YR3/3暗褐	7.5YR5/4にぶい褐		沈線による文様 刷毛目	箆撫で	
109	7	G	Z	縄文土器	深鉢	－	3.6	－	胴部一部	粗砂粒を含む	良好	7.5YR4/4褐	7.YR5/4にぶい褐		縄文	撫で	
109	8	G	Z	縄文土器	深鉢	－	9.0	－	胴部一部	粗砂粒を含む	良好	7.5YR4/3褐	7.5YR4/4褐		沈線による文様 縄文	箆削り	
109	9	G	Z	縄文土器	深鉢	－	3.3	－	口縁部一部	粗砂粒を含む	良好	5YR4/6赤褐	5YR5/6明赤褐		沈線による文様 (口唇部) 押圧	撫で	
109	10	G	Z	縄文土器	深鉢	－	4.4	－	胴部一部	粗砂粒を含む	良好	7.5YR5/4にぶい褐	7.5YR5/6明褐		沈線による文様		
109	11	G	Z	縄文土器	深鉢	－	3.5	－	胴部一部	粗砂粒を含む	良好	5YR3/2暗赤褐	7.5YR5/6明褐		磨消縄文を施した後、沈線の区画を施す		
109	12	G	Z	縄文土器	深鉢	－	4.6	－	胴部一部	粗砂粒を含む	良好	5YR5/4にぶい赤褐	5YR5/4にぶい赤褐			箆撫で	
109	13	G	Z	縄文土器	深鉢	－	3.1	－	口縁部一部	石英、粗砂粒を含む	良好	7.5YR5/4にぶい褐	7.5YR5/4にぶい褐		沈線による文様		
109	14	G	Z	縄文土器	深鉢	－	7.9	－	胴部一部	石英、粗砂粒を含む	良好	7.5YR6/4にぶい橙	7.5YR6/4にぶい橙		沈線による文様	箆撫で	
109	15	G	Z	縄文土器	深鉢	－	2.2	－	胴部一部	粗砂粒を含む	良好	10YR4/2灰黄褐	10YR4/2灰黄褐		沈線による文様	磨き	
110	16	G	Z	縄文土器	深鉢	－	4.0	－	胴部一部	雲母、粗砂粒を含む	良好	7.5YR4/3褐～3/3暗褐	7.5YR5/4にぶい褐		沈線による文様	丁寧な撫で	
110	17	G	Z	縄文土器	深鉢	－	3.9	－	胴部一部	石英、粗砂粒含む	良好	7.5YR6/4にぶい橙	7.5YR7/4にぶい橙		沈線による文様	箆撫で	
110	18	G	Z	縄文土器	深鉢	－	2.8	8.7	底部完～胴部下位	雲母、粗砂粒、礫を含む	良好	7.5YR5/4にぶい褐	7.5YR3/2黒褐	平底より直線的に立ち上がる	(胴部下位) 箆撫で (底部) 箆削り	箆削り 撫で	
110	19	G	Z	縄文土器	深鉢	－	4.8	－	胴部一部	雲母、粗砂粒を含む	良好	7.5YR6/4にぶい橙	7.5YR6/4にぶい橙		沈線による文様	箆撫で	
110	20	G	Z	縄文土器	深鉢	－	7.5	－	突起部	石英、粗砂粒を含む	良好	7.5YR6/4にぶい橙	7.5YR6/4にぶい橙		箆撫で	箆削り 箆撫で	
110	21	G	Z	縄文土器	深鉢	－	6.0	－	胴部一部	石英、粗砂粒を含む	良好	5YR5/6明赤褐	7.5YR6/4にぶい橙		櫛歯状工具による条線文	箆撫で	
110	22	G	Z	縄文土器	深鉢	－	4.5	－	胴部一部	石英、粗砂粒を含む	良好	7.5YR6/4にぶい橙	7.5YR6/4にぶい橙		櫛描き斜状文	箆削り	
110	24	G	Z	縄文土器	深鉢	－	3.9	－	胴部一部	石英、雲母、粗砂粒を含む	良好	7.5YR6/6橙	7.5YR6/4にぶい橙		沈線による文様	箆撫で	
110	23	G	Z	縄文土器	深鉢	－	13.7	－	胴部一部	粗砂粒、礫を含む	良好	5YR5/6明赤褐	5YR2/1黒褐		縄文 細い隆帯による文様		

表43　遺構外出土土器観察表[縄文時代](1)

図	No	遺構	番号	種類	器種	口径	器高	底径	残存	胎土	焼成	外面色調	内面色調	成形・形態	外面調整	内面調整	備考
110	25	G	Z	縄文土器	深鉢	—	5.3	—	胴部一部	粗砂粒を含む	良好	7.5YR6/4にぶい橙	7.5YR6/4にぶい橙	肥手付深鉢	箆削り		
110	26	G	Z	縄文土器	深鉢	—	6.4	—	口縁部一部	雲母、粗砂粒、礫を含む	良好	5YR5/6明赤褐	7.5YR6/4にぶい橙		刺突刺突文		
110	27	G	K11	縄文土器	深鉢	—	4.0	—	突起部	石英、粗砂粒を含む	良好	7.5YR6/6橙	7.5YR5/3にぶい褐			箆撫で	
110	28	G	Z	縄文土器	深鉢	—	6.7	—	胴部一部	石英、雲母、粗砂粒を含む	良好	5YR4/6赤褐	5YR2/1黒褐		縄文	撫で	
110	29	G	Z	縄文土器	深鉢	—	5.4	—	胴部一部	雲母、粗砂粒を含む	良好	7.5YR5/4にぶい褐	7.5YR5/4にぶい褐		沈線による文様 縄文	箆撫で	
110	30	G	Z	縄文土器	深鉢	—	9.0	—	胴部一部	石英、粗砂粒を含む	良好	7.5YR5/3にぶい褐	7.5YR6/4にぶい橙	段を有する	沈線による文様	撫で	
110	31	G	Z	縄文土器	深鉢	—	7.3	—	口縁部一部	粗砂粒、礫を含む	良好	7.5YR6/4にぶい橙	7.5YR4/2灰褐		口縁部上位に沈線を巡らし、その下に縄文を施す	箆削り　撫で	
110	32	G	Z	縄文土器	深鉢	—	6.5	—	口縁部一部	石英、雲母、粗砂粒を含む	良好	7.5YR4/6褐～3/2黒褐	7.5YR5/4にぶい褐	口縁部に突起を有す	沈線による文様		
110	33	G	Z	縄文土器	深鉢	—	5.2	—	胴部一部	石英、粗砂粒を含む	良好	7.5YR5/4にぶい褐	7.5YR6/4にぶい橙		沈線による文様 縄文		
110	34	G	Z	縄文土器	深鉢	—	4.0	—	胴部一部	粗砂粒を含む	良好	7.5YR7/6橙	7.5YR3/1黒褐		沈線による文様	箆削り	
110	35	G	Z	縄文土器	深鉢	—	4.2	—	胴部一部	石英、雲母、粗砂粒、礫を含む	良好	7.5YR6/6橙	7.5YR4/1褐灰		沈線による文様	横位の撫で	
110	36	G	Z	縄文土器	深鉢	—	3.6	—	突起部	雲母、粗砂粒を含む	良好	7.5YR7/4にぶい橙	7.5YR7/4にぶい橙				
110	37	G	Z	縄文土器	深鉢	—	5.4	—	胴部一部	粗砂粒を含む	良好	7.5YR7/4にぶい橙～4/1褐灰	7.5YR6/4にぶい橙		沈線による文様 縄文	箆撫で	
110	38	G	R11	縄文土器	深鉢	—	3.1	—	口縁部一部	石英、雲母、粗砂粒を含む	良好	5YR6/4にぶい橙	5YR6/4にぶい橙		沈線による文様 縄文	箆撫で	
110	39	G	Z	縄文土器	深鉢	—	2.7	—	口縁部一部	粗砂粒を含む	良好	7.5YR4/4褐	7.5YR4/4褐	口唇部は内折する口唇部の内側に面取りを施す	沈線、連続した刻み目を巡らす	磨き	
110	40	G	Z	縄文土器	深鉢	—	3.7	—	胴部一部	粗砂粒を含む	良好	5YR5/6明赤褐	5YR5/6明赤褐		沈線による文様 刺突文	撫で	
111	41	G	F14	縄文土器	深鉢	—	3.2	—	口縁部一部	石英、白色粗砂粒を含む	良好	7.5YR5/3にぶい褐	7.5YR5/3にぶい褐		沈線による文様	箆撫で	
111	42	G	G11	縄文土器	深鉢	—	6.1	—	胴部上位一部	石英、雲母、粗砂粒を含む	良好	7.5YR4/3褐	7.5YR6/4にぶい褐		沈線による文様	刺突文　箆撫で	
111	43	G	Z	縄文土器	深鉢	—	4.7	—	波頂部	石英、雲母、粗砂粒を含む	良好	7.5YR6/3にぶい褐	7.5YR6/4にぶい橙		沈滑による文様		
111	45	G	G18	縄文土器	深鉢	—	8.7	—	口縁部一部	石英、粗砂粒を含む	良好	7.5YR5/4にぶい褐～4/2灰褐	7.5YR5/4にぶい褐		隆帯	箆撫で	
111	44	G	Z	縄文土器	深鉢	—	2.6	—	口縁部一部	雲母、粗砂粒を含む	良好	5YR5/8明赤褐	5YR6/4にぶい橙～5/8明赤褐	口縁部は内側に肥厚する	沈線による文様		

表44　遺構外出土土器観察表 [縄文時代](2)

図	No	遺構	番号	種類	器種	口径	器高	底径	残存	胎土	焼成	外面色調	内面色調	成形・形態	外面調整	内面調整	備考
111	46	G	Z	縄文土器	深鉢	―	3.5	―	胴部一部	石英、粗砂粒を含む	良好	7.5YR6/4にぶい橙	7.5YR6/4にぶい橙		縄文を施文した後沈線による文様を施す	無で	
111	47	G	108	縄文土器	深鉢	―	10.8	―	胴部一部	石英、細砂粒を含む	良好	5YR6/4にぶい橙	7.5YR4/3褐		押圧した隆帯を巡らす		
111	48	G	116	縄文土器	深鉢	―	9.3	―	胴部一部	細砂粒、雲を含む	良好	7.5YR6/4にぶい橙～6/6橙	7.5YR5/2灰褐～3/1黒褐		隆帯 縄文	箆で	
111	49	G	J13	縄文土器	深鉢	～	3.7	8.2	底部～胴部下位	植砂粒、雲を含む	良好	7.5YR6/6橙	7.5YR7/3にぶい橙	平底より開いて立ち上がる	（底部）網代痕		
111	50	G	Z	縄文土器	深鉢	―	2.8	―	口縁部一部	石英、細砂粒を含む	良好	7.5YR6/3にぶい褐	7.5YR6/3にぶい褐		沈線による文様	削り	
111	51	G	J16	縄文土器	深鉢	～	10.0	～	胴部 一部	石英、雲母、粗砂粒を含む	良好	5YR5/6明赤褐～3/4暗赤褐	5YR3/4暗赤褐		隆帯 縄文	箆で	
111	52	G	Z	縄文土器	深鉢	―	2.4	―	胴部一部	石英、細砂粒を含む	良好	7.5YR6/3にぶい褐	7.5YR6/3にぶい褐		沈線による文様	無で	
111	53	G	J16	縄文土器	深鉢	～	7.1	～	胴部 一部	石英、雲母、粗砂粒を含む	良好	7.5YR3/4暗褐	7.5YR4/6褐		隆帯 縄文	箆で	
111	54	G	Z	縄文土器	深鉢	～	4.5	～	胴部 一部	石英、雲母、粗砂粒を含む	良好	7.5YR5/4にぶい褐	7.5YR4/2灰褐		沈線による文様	無で	
111	55	G	J16	縄文土器	深鉢	―	8.2	―	胴部一部	石英、粗砂粒を含む	良好	7.5YR4/3褐	7.5YR4/3褐		沈線による文様 縄文	箆削り 箆で	
111	56	G	Z	縄文土器	深鉢	―	5.0	―	胴部一部	石英、雲は、細砂を含む	良好	7.5YR3/2黒褐	7.5YR3/2黒褐		沈線で区画された中に縄文を施す	無で	
111	57	G	Z	縄文土器	深鉢	―	5.4	―	胴部一部	石英、粗砂粒を含む	良好	10YR6/4にぶい黄橙	10YR7/4にぶい黄橙		沈線による文様	箆削り	
111	58	G	Z	縄文土器	深鉢	―	3.8	―	胴部一部	雲母、粗砂粒を含む	良好	7.5YR6/6橙	7.5YR6/6橙		沈線による文様	無で	
111	59	G	Tr-04	縄文土器	深鉢	―	10.6	―	口縁部一部	石英、雲は、細砂粒を含む	良好	7.5YR6/6橙	7.5YR7/3にぶい橙		口縁に1条の隆帯、その下に縄文を施す	無で	
111	60	G	Tr-07	縄文土器	深鉢	―	2.0	6.8	底部1/3	石英、雲は、細砂粒を含む	良好	10YR5/2灰黄褐	10YR5/2灰黄褐	平底より直立して立ち上がる	（胴部）横位の撚で（底部）網代痕	箆削で	
111	61	G	Z	縄文土器	深鉢	―	10.3	―	突起部	石英、粗砂粒を含む	良好	7.5YR7/4にぶい橙	7.5YR6/4橙		刻みを入れた細い隆帯 「8」字状貼付文 沈線による文様 縄文	箆削り	
111	62	G	Z	縄文土器	深鉢	～	13.7	～	把手部	石英、植砂粒を含む	良好	5YR4/6赤褐～3/3暗赤褐	5YR4/6赤褐～3/3暗赤褐		沈線による文様 縄文	箆削り 箆で	
112	63	G	Z	縄文土器	深鉢	―	1.5	8.9	底部一部	雲母、粗砂粒を含む	良好	7.5YR5/4にぶい褐～3/3暗褐	7.5YR5/3にぶい褐	平底より直線的に立ち上がる	（底部）網代痕	無で	
112	64	G	Z	縄文土器	深鉢	～	3.2	～	胴部 一部	雲母、植砂粒を含む	良好	7.5YR6/6橙	7.5YR6/4にぶい橙～4/2灰褐		沈線による文様 隆帯 「8」字状貼付文	無で	

表45 遺構外出土土器観察表［縄文時代］(3)

図	No	遺構	番号	種類	器種	口径	器高	底径	残存	胎土	焼成	外面色調	内面色調	成形・形態	外面調整	内面調整	備考
112	65	G	Z	縄文土器	浅鉢	—	2.4	—	口縁部一部	石英、雲母、粗砂粒を含む	良好	5YR3/2暗赤褐	5YR5/4にぶい赤褐	口唇部は内折する口唇部の内側に面取りを施す			
112	66	G	Z	縄文土器	浅鉢	—	2.1	—	口縁部一部	石英、粗砂粒を含む	良好	10YR4/2灰黄褐	10YR3/3暗褐		口縁部に1条の刻みを入れた隆帯、その下に沈線を巡らす　8」字状貼付文	撫で	
112	67	G	Z	縄文土器	浅鉢	—	2.3	—	口縁部一部	石英、雲母、粗砂粒を含む	良好	10YR4/2灰黄褐	10YR4/4褐～2/3黒褐	口縁部は内側に肥厚する	口縁に1条の刻み刻みを入れた隆帯、その下に沈線を巡らす	磨き	
112	68	G	Z	縄文土器	深鉢	—	4.0	4.8	底部1/3～胴部下位一部	雲母、粗砂粒を含む	良好	7.5YR6/3にぶい褐	7.5YR6/3にぶい褐	平底より緩やかに立ち上がる	（底部）胴代直（胴部）横位の撫で	箆削り	
112	69	G	Tr-06	縄文土器	浅鉢	—	2.9	—	胴部一部	石英、粗砂粒を含む	良好	7.5YR7/3にぶい橙	10YR4/1褐灰		刻みを入れた隆帯と沈線を巡らす「8」字状貼付文	磨き	
112	70	G	L10	縄文土器	浅鉢	—	3.4	—	口縁部一部	石英、粗砂粒を含む	良好	7.5YR6/3にぶい褐～4/1褐	7.5YR3/1黒褐		口縁に刻みを入れた隆帯と沈線を巡らす	磨き	
112	71	G	M15	縄文土器	浅鉢	—	2.3	—	口縁部一部	雲母、粗砂粒を含む	良好	7.5YR6/4にぶい橙～4/3褐	7.5YR6/4にぶい橙	口唇部は内側に肥厚する　口唇部内側に面取りを施す	口縁部に刻みを入れた隆帯と沈線を巡らす	横位の撫で	
112	72	G	Z	縄文土器	不明	—	4.5	—	胴部一部	石英、粗砂粒を含む	良好	10YR5/4にぶい黄褐	10YR6/4にぶい黄橙		沈線による文様　縄文	撫で	
112	73	G	Z	縄文土器	深鉢	—	7.2	—	胴部一部	石英、雲母、粗砂粒を含む	良好	7.5YR6/4にぶい橙	5YR6/6橙		沈線による文様	箆撫で	
112	74	G	Z	縄文土器	不明	—	5.8	—	頸部一部	石英、粗砂粒を含む	良好	7.5YR7/6橙	7.5YR7/6橙	頸部は「く」の字状を呈する	沈線による文様	箆削り	
112	75	G	Z	縄文土器	深鉢	—	4.4	—	口縁部一部	雲母、粗砂粒を含む	良好	7.5YR4/3褐	7.5YR4/3褐	口縁部内側に小さく肥厚する	箆撫で	箆撫で	
112	76	G	Z	縄文土器	深鉢	—	4.0	—	胴部一部	粗砂粒を含む	良好	7.5YR6/4にぶい橙	7.5YR4/2灰褐		側灰文をいれた隆帯	箆撫で	
112	77	G	Z	縄文土器	深鉢	—	4.4	—	胴部一部	石英、粗砂粒を含む	良好	5YR6/4にぶい橙	5YR6/4にぶい橙		沈線、隆帯による文様		
112	78	G	Z	縄文土器	深鉢	—	9.3	—	胴部一部	石英、粗砂粒を含む	良好	7.5YR6/4にぶい橙	7.5YR6/4にぶい橙		沈線による区画のなかに縄文を施す	箆撫で	
112	79	G	Z	縄文土器	注口土器	—	5.5	—	注口部	石英、粗砂粒を含む	良好	7.5YR6/4にぶい橙	7.5YR6/4にぶい橙		箆削　胴毛調整	箆削り	

表46　遺構外出土土器観察表 [縄文時代](4)

図	No	遺構	番号	種類	名称	長さ	幅	厚さ	重量	備考
113	1	SD	01	金属製品	刀子	12.0	1.9	1.0	27.0	
113	2	SB	11	金属製品	刀子	15.8	1.6	0.9	24.6	
113	3	Tr	07	金属製品	刀子	4.9	1.5	0.8	8.4	
113	4	Tr	07	金属製品	刀子	4.5	1.3	1.0	6.3	
113	5	Tr	07	金属製品	刀子	3.3	1.0	1.0	7.3	
113	6	D	10	金属製品	苧引金	6.5	2.2	1.8	24.7	門状鉄製品
113	7	SB	08	金属製品	刀	11.3	4.9	0.6	45.6	
113	8	SB	06	金属製品	蓋？	6.0	5.1	2.4	43.7	
113	9	SB	04	金属製品	鉄滓	9.2	8.2	2.9	248.0	
113	10	K	13	金属製品	鉄製品	2.6	1.7	0.8	4.3	
114	11	Z		金属製品	鉄滓	13.0	8.6	5.7	321.0	
114	12	SD	01	金属製品	耳環	2.2	2.4	0.8	8.9	
115	1	SB	03	石製品	打製石斧	11.4	4.8	1.5	77.7	頁岩
115	2	Tr	02	石製品		3.9	3.4	1.4	17.3	黒曜石
115	3	Tr	03	石製品	磨製石斧	5.4	4.9	2.1	66.1	
115	4	Tr	11	石製品	磨製石斧	5.0	4.4	1.7	37.8	
115	5	Z		石製品	不明	9.4	4.1	1.7	44.2	珪化木
115	6	Z		石製品	砥石	15.4	7.5	7.4	767.0	火成岩or砂岩
116	1	SB	05	土製品	羽口	6.8	外径5.5	内径1.6	76.6	

表 47　金属器・石製品・土製品観察表

SB-01(南)

SB-01 竈(南)

SB-01 遺物出土状況(南)

SB-02(南)

SB-03(南)

SB-03 竈(南)

SB-04(南)

SB-04 竈(南)

SB-05(南)

SB-05 地床炉（南）

SB-06（西）

SB-06 竈（西）

SB-07(西)

SB-07 竈(西)

SB-08(西)

SB-08 竈（西）

SB-09（西）

SB-09 竈（西）

SB-10(北西)

SB-10 竈及び遺物出土状況(北西)

SB-10 竈及び遺物出土状況(真上・写真上が南東)

SB-11(南西)

SB-11 竈(南西)

SB-12(南東)

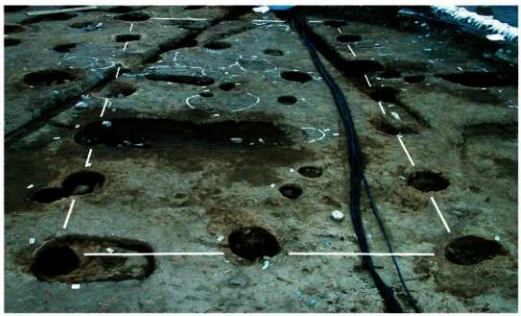
SB-12 竈 (南東)

SB-13(南東)

SB-13 竈 (南東)

SB-13 竈天井石検出状況(南東)

ST-01(東)



ST-02(南)

SD-01(西)

SK-02(西)

SK-05(南)

SK-07 礫出土（東）

SK-07（東）

SK-10（東）

SK-10(西)

SK-10 井戸枠出土状況(北西)

SK-10 井戸枠出土状況(南東)

SX-01・02(北)

SX-01(南)

SX-02(東)

Po-01 検出状況（西）

Po-01 内部礫検出状況（真上・写真上が南）

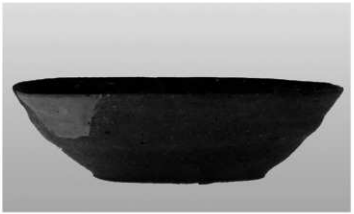
Po-01（南）

Po-02 検出状況（南）

Po-02 半裁（南）

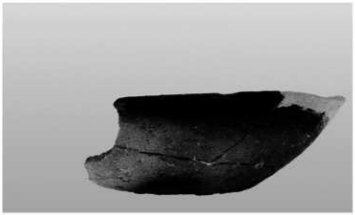
SB-10 出土土器
集合写真

SB-01-03

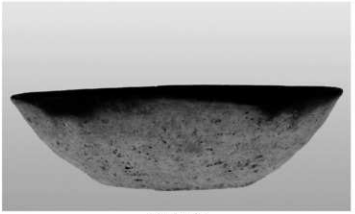


SB-01-08

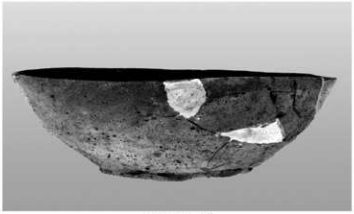
SB-01-04



SB-01-09



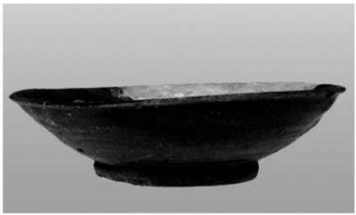
SB-01-06



SB-01-10

SB-01-07

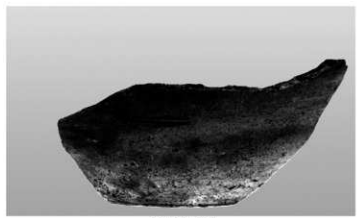
SB-01-11



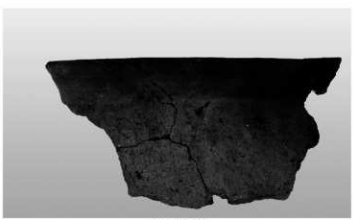
SB-01-17

SB-01-19

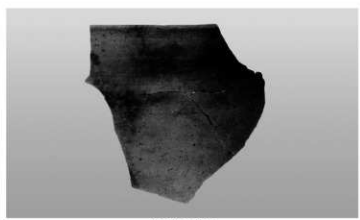
SB-01-18



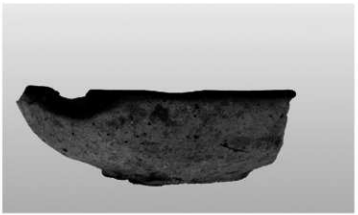
SB-01-22



SB-01-20



SB-01-23

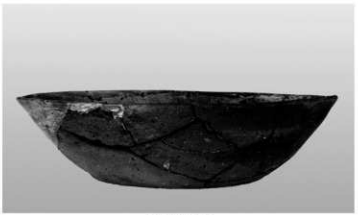


SB-02-02

SB-02-08

SB-02-05

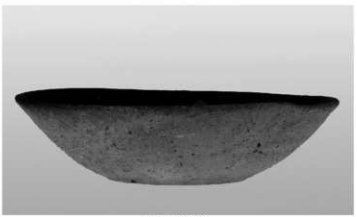
SB-02-10



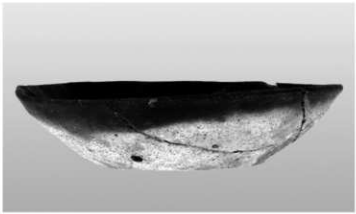
SB-02-06

SB-02-12

SB-02-07

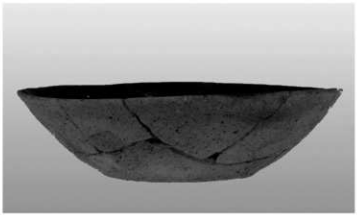


SB-03-03



SB-03-04

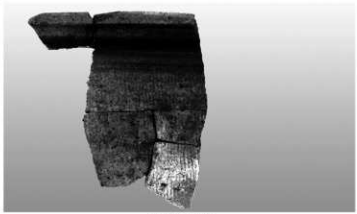
SB-03-08



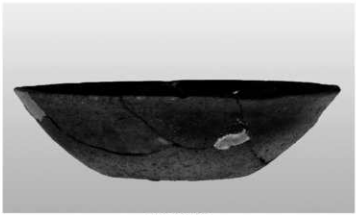
SB-03-05

SB-03-11

SB-03-06



SB-03-12



SB-03-07

SB-04-01

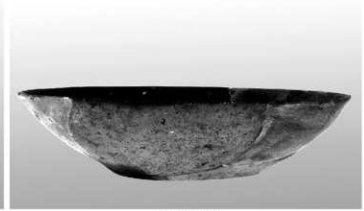
SB-04-03

SB-04-08

SB-04-04

SB-04-09

SB-04-05



SB-04-13

SB-04-07

SB-04-14

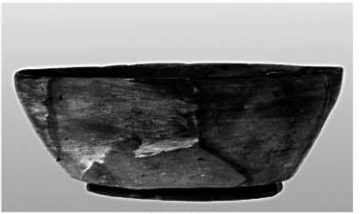
SB-04-15

SB-04-23

SB-04-17

SB-04-24

SB-04-18



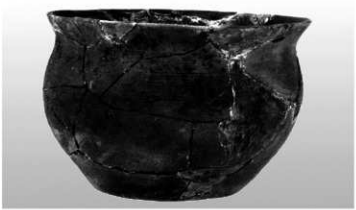
SB-04-27

SB-04-22

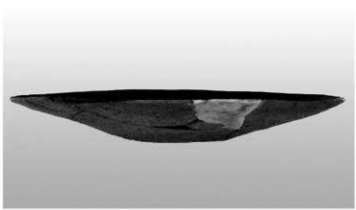
SB-04-29

SB-04-33

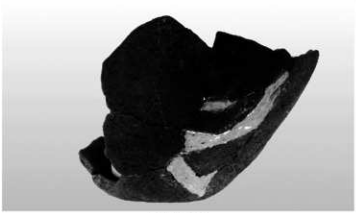
SB-06-01



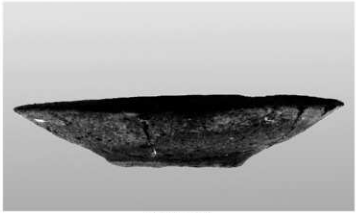
SB-04-35



SB-06-02



SB-04-36



SB-06-03

SB-05-06

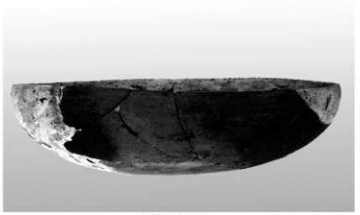
SB-06-05

SB-06-06

SB-06-10

SB-06-07

SB-06-11



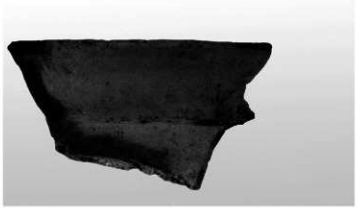
SB-06-08

SB-06-12

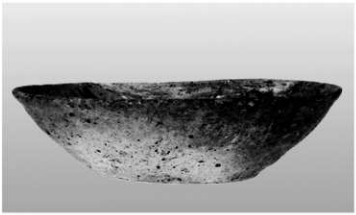
SB-06-09

SB-06-16

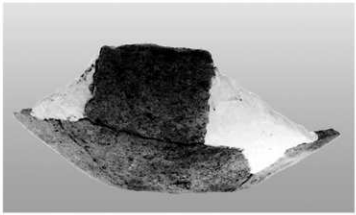
SB-06-17



SB-06-22



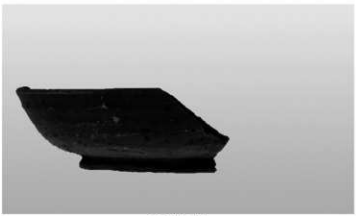
SB-06-19



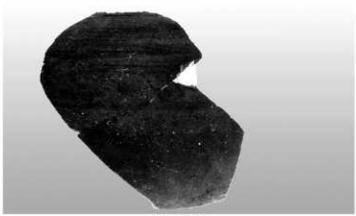
SB-06-24

SB-06-20

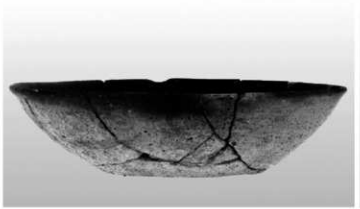
SB-06-28



SB-06-21



SB-06-29



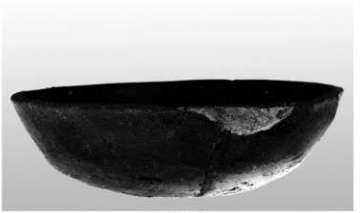
SB-07-02

SB-07-07

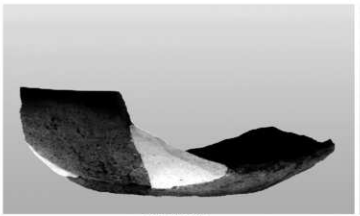
SB-07-03

SB-07-13

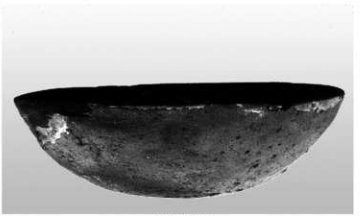
SB-07-04



SB-08-02

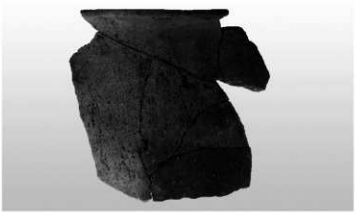


SB-07-05



SB-08-03

SB-08-04



SB-08-07

SB-08-06

SB-08-12

SB-08-11

SB-09-02

SB-09-06

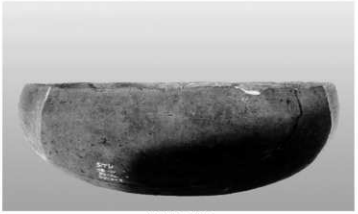
SB-10-04

SB-10-01

SB-10-06

SB-10-02

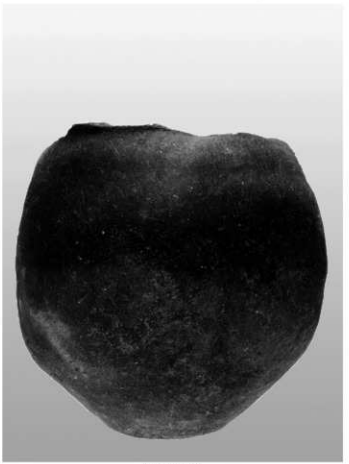
SB-10-07



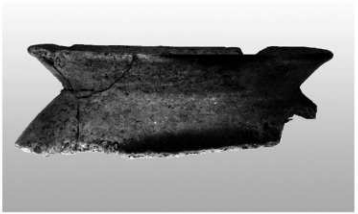
SB-10-03

SB-10-11

SB-10-10

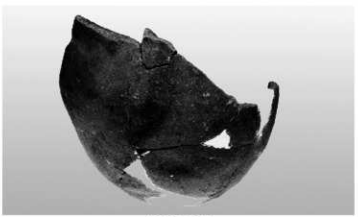


SB-10-14



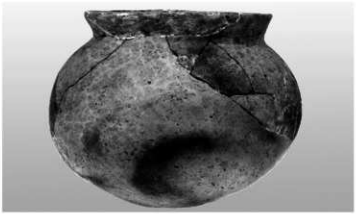
SB-10-12

SB-10-15



SB-10-13

SB-10-17



SB-10-18

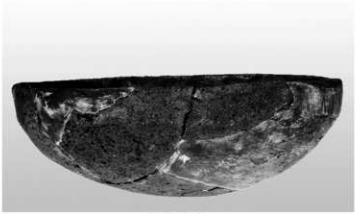
SB-11-03

SB-10-19

SB-12-01

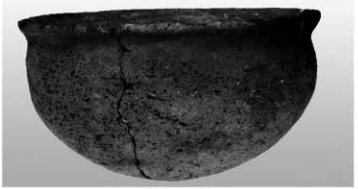
SB-12-02

SB-11-01



SB-12-03

SB-12-04



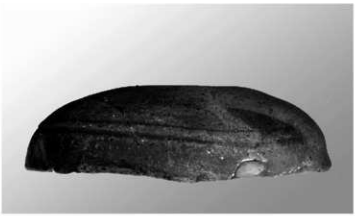
SB-12-05

SB-12-11

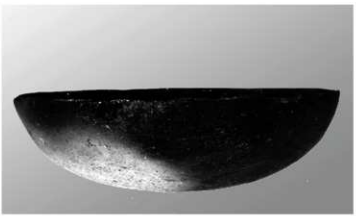
SB-12-09

SB-12-14

SB-12-12



SB-13-01

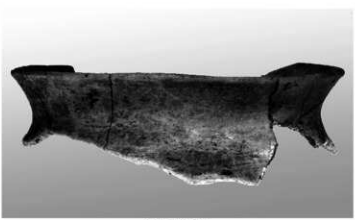


SB-13-02

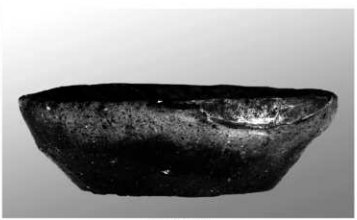
SB-13-05

SB-13-03

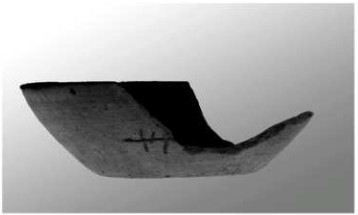
SK-02-01



SB-13-07



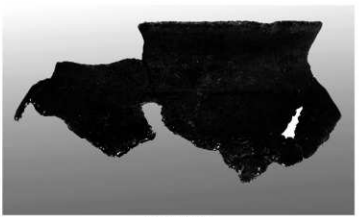
SK-02-02



SK-02-03

SK-02-09

SK-02-03 刻書部



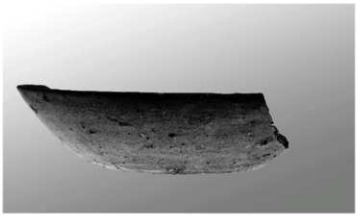
SK-02-10

SK-02-05

SK-02-11

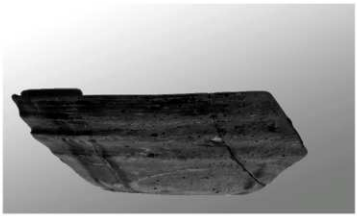
SK-02-06

SK-03-03



SK-05-01

SK-07-03



SK-06-01

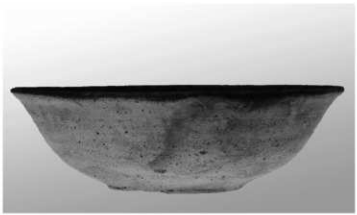
SK-07-06

SK-06-03

SK-08-01

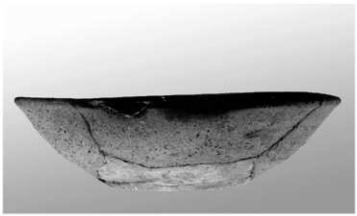
SK-07-02

SK-10-01



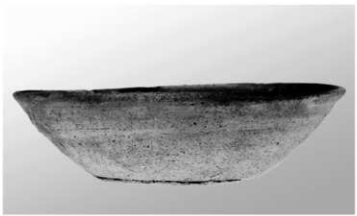
SK-10-02

SK-10-06



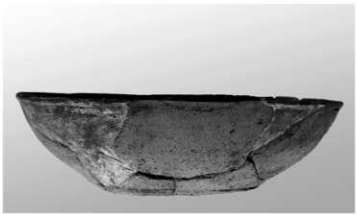
SK-10-03

SK-10-07



SK-10-04

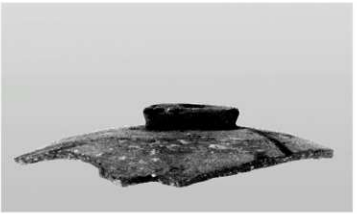
SK-10-09



SK-10-05

SK-10-10

SK-10-11



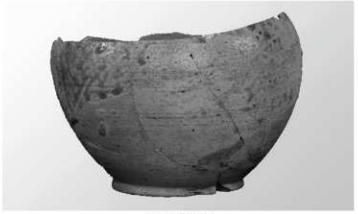
SK-15-01

SK-10-15

SK-15-03

SK-10-20

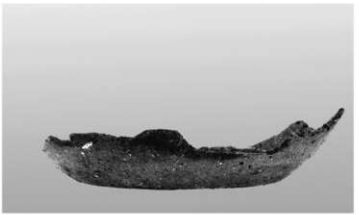
SK-15-08



SK-10-22

SK-15-09

SK-15-11



SK-15-16

SK-15-13

SK-15-17

SK-15-14

SK-15-18

SK-15-15

SK-15-19

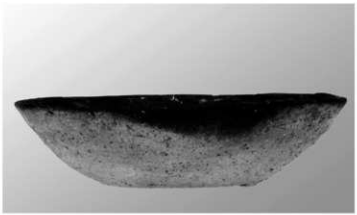
Po-01

Po-02

Po-04

Po-05

遺構外 [歴史時代]-15



遺構外 [歴史時代]-27

遺構外 [歴史時代]-19

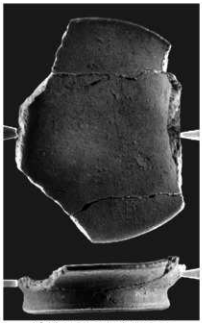
遺構外 [歴史時代]-28

遺構外 [歴史時代]-20

遺構外 [歴史時代]-32

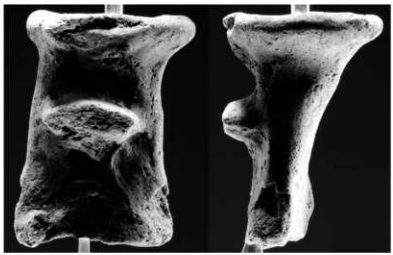
遺構外 [歴史時代]-25

遺構外 [歴史時代]-33

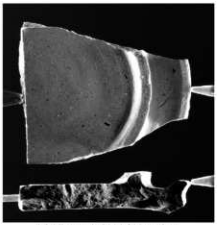


遺構外 [歴史時代]-63

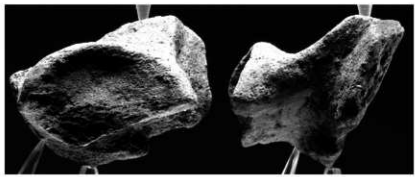
遺構外 [縄文土器]-01



遺構外 [縄文土器]-20

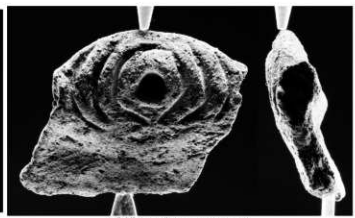


遺構外 [歴史時代]-64



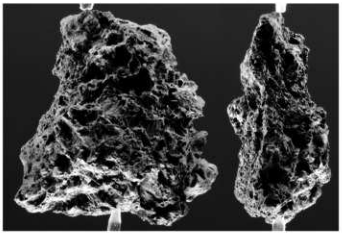
遺構外 [縄文土器]-27

遺構外 [縄文土器]-36

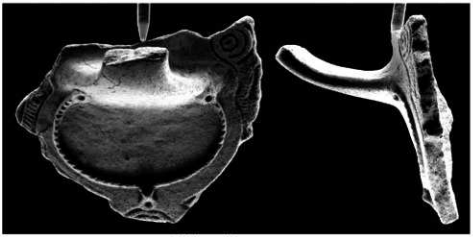


遺構外 [縄文土器]-43

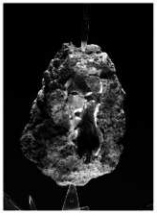
遺構外 [縄文 土器]-61



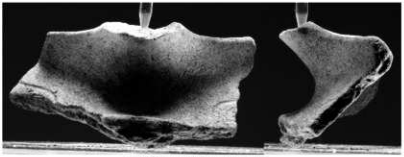
金属器 -09(SB-04)



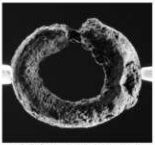
遺構外 [縄文土器]-62



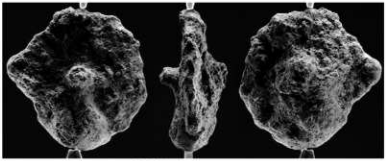
金属器 -11(SB-03)



遺構外 [縄文土器]-75



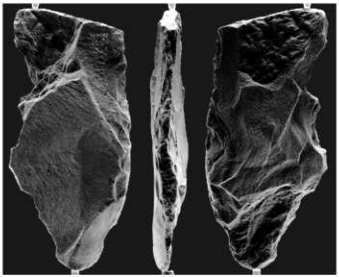
金属器 -12(SD-01)



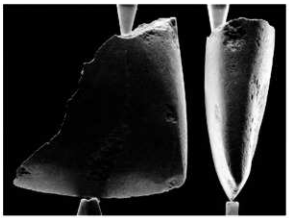
金属器 -08(SB-06)

金属器 -12(SD-01)

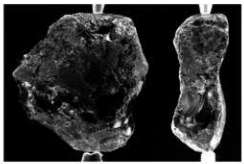
写真図版　42



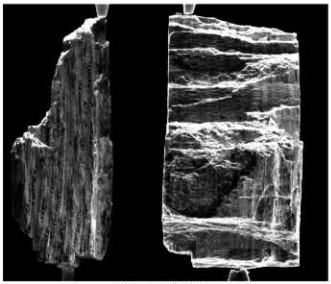
石器 -1(SB-03)



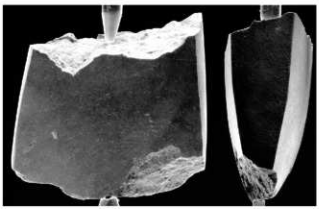
石器 -4(Tr-11)



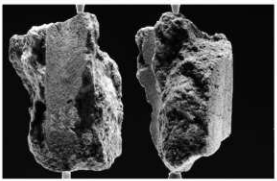
石器 -2(Tr-02)



石器 -5(遺構外)



石器 -3(Tr-02)



I:製品 -1

報告書抄録

ふりがな	しぶとりだいいせき
書名	渋取田遺跡
副書名	平成18(2006)年度～平成20(2008)年度 長野県企業局上田水道管理事務所浄水池建設に伴う渋取田遺跡発掘調査報告書
シリーズ名	上田市文化財調査報告書
シリーズ番号	第１０４集
編著者名	中沢徳士
編集機関	上田市教育委員会
所在地	〒386-0025 長野県上田市天神二丁目４番74号 TEL0268(23)5102
発行年月日	西暦２００９年2月２８日

所収遺跡名	所在地	市町村コード	北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
渋取田遺跡	長野県上田市 諏訪形613	20203	36° 23′ 13″	138° 14′ 42″	平成18年10月3日～ 平成19年10月25日	3,000㎡(2,000㎡×2ケ年/1,000㎡は重複)	長野県企業局上田水道管理事務所浄水池建設

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
渋取田遺跡	集落遺跡	古墳時代前期～中世	竪穴住居址 掘立柱建物址 ピット 井戸	土師器・須恵器・ 灰釉陶器・金属器	

上田市文化財調査報告書第１０４集

渋取田遺跡

平成18(2006)年度～平成20(2008)年度
長野県企業局上田水道管理事務所浄水池建設に伴う渋取田遺跡発掘調査報告書

発行日　平成２１年(２００９)２月２８日
発　行　長野県企業局上田水道管理事務所・上田市・上田市教育委員会
編　集　上田市教育委員会(事務局:文化振興課)
　　長野県上田市天神二丁目４番55号　TEL0268(23)6361
　　E-Mail　bunka@city.ueda.nagano.jp
印　刷　有限会社　大和印刷